

配偶者等における暴力に関する調査

調査結果報告書

令和3年3月

千 葉 市

公益財団法人 千葉市文化振興財団

千葉市男女共同参画センター

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. グラフ・文中の表記にあたって	1
5. 調査結果の誤差について	2
6. 調査の構成	3
7. 比較を行った調査の概要と設問	4
8. 回答者の属性	6
II. 調査の結果	9
1. 男女共同参画に関する意識	9
(1) 言葉の認知度	9
(2) 各分野での男女の地位	13
(3) 性別役割分担に対する意識	24
2. 配偶者等による暴力に対する認知度、意識	26
(1) DV防止法の認知度	26
(2) 配偶者等からの暴力について相談できる窓口の認知度	29
(3) 配偶者等との間で暴力についての意識	33
3. 配偶者等による暴力被害の実態	48
(1) 配偶者等の有無	48
(2) 暴力をふるわれた経験	49
(3) 暴力をふるわれた時の行動	55
(4) 配偶者から子どもが暴力をふるわれた経験	57
(5) 暴力をふるわれた後の心身状態、生活への影響	59
(6) 暴力をふるわれた時の相談先	61
(7) 相談しなかった理由	63
(8) 命の危険を感じたことはあるか	65
(9) 被害者が安心して生活するために必要なこと	68
(10) 配偶者等からの暴力への関心	70
(11) デートDVの認知度	72
4. 配偶者等との間の暴力の防止と対策	74
(1) 配偶者等からの暴力に対する自分の考え	74
(2) 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと	76
(3) 配偶者等からの暴力を防止するための広報・啓発	78
III. 調査結果の概要とまとめ	80
IV. 今後に向けて	84
V. 自由意見	86
VI. 調査票	89

I. 調査の概要

1. 調査の目的

配偶者等における暴力は、身近に起こりうる人権侵害であり、男女共同参画社会の実現のためには、その防止と対策に継続的に取り組むことが必要である。

本調査では、配偶者等における暴力に関する市民の意識と実態を把握し、今後の具体的施策の基礎資料とするものである。なお、本調査については、「配偶者やパートナーとの日常生活についての調査」として実施した。

2. 調査方法

- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 調査区域 | 千葉市全域 |
| (2) 調査対象 | 千葉市在住の20歳以上の3,000人（男女各1,500人） |
| (3) 抽出方法 | 住民基本台帳より無作為抽出 |
| (4) 調査方法 | 郵送配布-郵送回収法 |
| (5) 調査期間 | 令和2年8月1日（発送）～8月20日 |

3. 回収結果

- | | |
|-----------|--------|
| (1) 配布数 | 3,000件 |
| (2) 回収数 | 1,004件 |
| (3) 回収率 | 33.5% |
| (4) 有効回答数 | 895件 |
| (5) 有効回答率 | 29.8% |

4. グラフ・文中の表記にあたって

(1) 回答率について

- ・算出の分母（回答者総数）は図中で「n」と表記している。クロス集計のグラフについては、それぞれの項目と一緒に表記している。
- ・原則として%（パーセンテージ・百分率）で表記しており、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。このため、1人の回答者が1つだけ回答する設問（単数回答）の合計が100.0%とならない場合（例：99.9%、100.1%）がある。小計についても同様に各回答の計と一致しない場合がある。また、1人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、回答率が100.0%を上回ることがある。
- ・性別及び年代別にクロス集計を行う場合、それぞれ無回答の方がいたため、合計が全体と一致しない。

(2) 質問文や選択肢の表記について

- ・本文、グラフ中の設問文及び選択肢の表現は一部省略されているものがある。

5. 調査結果の誤差について

無作為抽出法による調査の場合、ここで算出された数値（％）をそのまま20歳以上の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差を生ずる。（これを標本誤差という。）よって、次式により標本誤差を計算し、20歳以上全市民の回答を推測する（信頼度は95％）。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団 812,282人（20歳以上の千葉市在住の方・令和2年6月30日現在）

n = 有効回答数（895件）

P = 回答の比率

上記の式によって算出された標本誤差は以下の通り。

回答の比率	標本誤差
10%または90%	±2.0%
20%または80%	±2.7%
30%または70%	±3.1%
40%または60%	±3.3%
50%	±3.3%

6. 調査の構成

回答者属性	F1	性別
	F2	年齢
	F3	職業

男女共同参画に関する意識	問1	言葉の認知度
	問2	各分野での男女の地位
	問3	性別役割分担に対する意識

配偶者等による暴力に対する認知度、意識	問4	DV防止法の認知度
	問5(1)	配偶者等からの暴力について相談できる窓口の認知度
	問5(2)	配偶者等からの暴力について知っている相談窓口
	問6	配偶者等との間で暴力についての意識

配偶者等による暴力被害の実態	問7	配偶者等の有無	
		配偶者等がいる/過去にいた方	配偶者等は過去も現在もいない方
	問8	暴力をふるわれた経験	↓
	問9	暴力をふるわれた時の行動	
	問10	配偶者から子どもが暴力をふるわれた経験	
	問11	暴力をふるわれた後の心身状態、生活への影響	
	問12	暴力をふるわれた時の相談先	
	問13	相談しなかった理由	
	問14	命の危険を感じたことはあるか	
	問15	被害者が安心して生活するために必要なこと	
	問16	配偶者等からの暴力への関心	
	問17	デートDVの認知度	

配偶者等との間の暴力の防止と対策	問18	配偶者等からの暴力に対する自分の考え
	問19	配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと
	問20	配偶者等からの暴力を防止するための広報・啓発

自由意見

7. 比較を行った調査の概要と設問

(1) 「平成 26 年度配偶者等における暴力に関する調査」

- ①調査企画 千葉県男女共同参画センター
- ②調査区域 千葉県全域
- ③調査対象 千葉県在住の 20 歳以上の 3,000 人（男女各 1,500 人）
- ④抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- ⑤調査方法 郵送配布-郵送回収法
- ⑥調査期間 平成 26 年 9 月 2 日（発送）～9 月 17 日
- ⑦配布数 3,000 件
- ⑧有効回収数 1,036 件
- ⑨有効回答率 34.5%

なお、本報告書では「平成 26 年度」と表記している。

(2) 「平成 29 年度男女間における暴力に関する調査」

- ①調査企画 内閣府男女共同参画局
- ②調査区域 全国
- ③調査対象 20 歳以上の 5,000 人
- ④抽出方法 層化二段無作為抽出法
- ⑤調査方法 郵送留置訪問回収法
- ⑥調査期間 平成 29 年 12 月
- ⑦配布数 5,000 件
- ⑧有効回収数 3,376 件
- ⑨有効回答率 67.5%

なお、本報告書では「平成 29 年度内閣府」と表記している。

比較を行った設問一覧

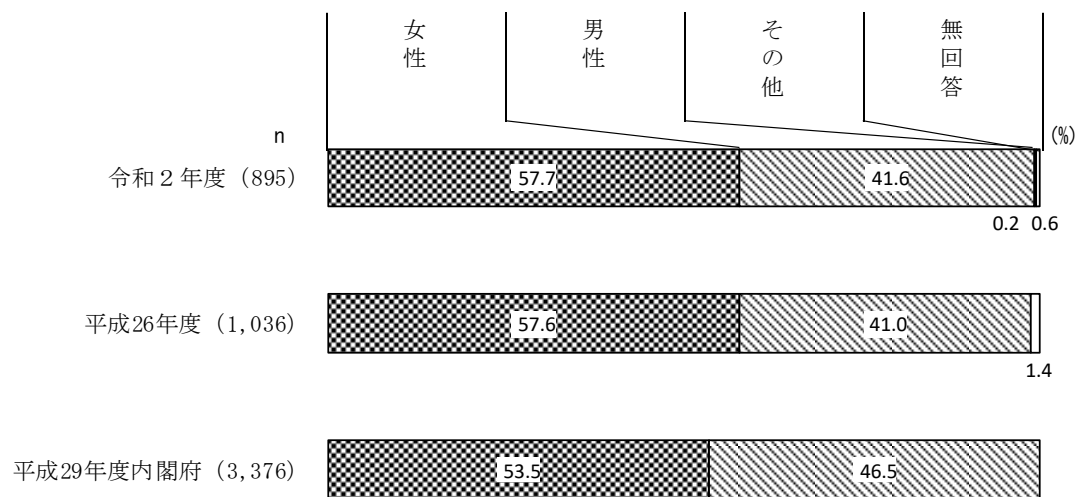
			平成26年度	平成29年度 内閣府
回答者属性	F1	性別	△	
	F2	年齢	●	
	F3	職業	△	

大項目	問	小項目(設問項目)	平成26年度	平成29年度 内閣府
男女共同参画に 関する意識	1	言葉の認知度		
	2	各分野での男女の地位		
	3	性別役割分担に対する意識		
配偶者等による 暴力に対する 認知度、意識	4	DV防止法の認知度	●	●
	5(1)	配偶者等からの暴力について相談できる窓口の認知度	●	
	5(2)	配偶者等からの暴力について知っている相談窓口	●	
	6	配偶者等との間で暴力についての意識	●	△
配偶者等による 暴力被害の実態	7	配偶者等の有無	●	
	8	暴力をふるわれた経験	△	△
	9	暴力をふるわれた時の行動		
	10	配偶者から子どもが暴力をふるわれた経験		●
	11	暴力をふるわれた後の心身状態、生活への影響		
	12	暴力をふるわれた時の相談先	●	△
	13	相談しなかった理由	●	△
	14	命の危険を感じたことはあるか	●	●
	15	被害者が安心して生活するために必要なこと	△	
	16	配偶者等からの暴力への関心	●	
配偶者等との間の 暴力の防止と対策	17	デートDVの認知度	●	
	18	配偶者等からの暴力に対する自分の考え	●	
	19	配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと	△	
	20	配偶者等からの暴力を防止するための広報・啓発	●	

- 同一の設問
△ 選択肢が一部異なる設問

8. 回答者の属性

(1) 性別

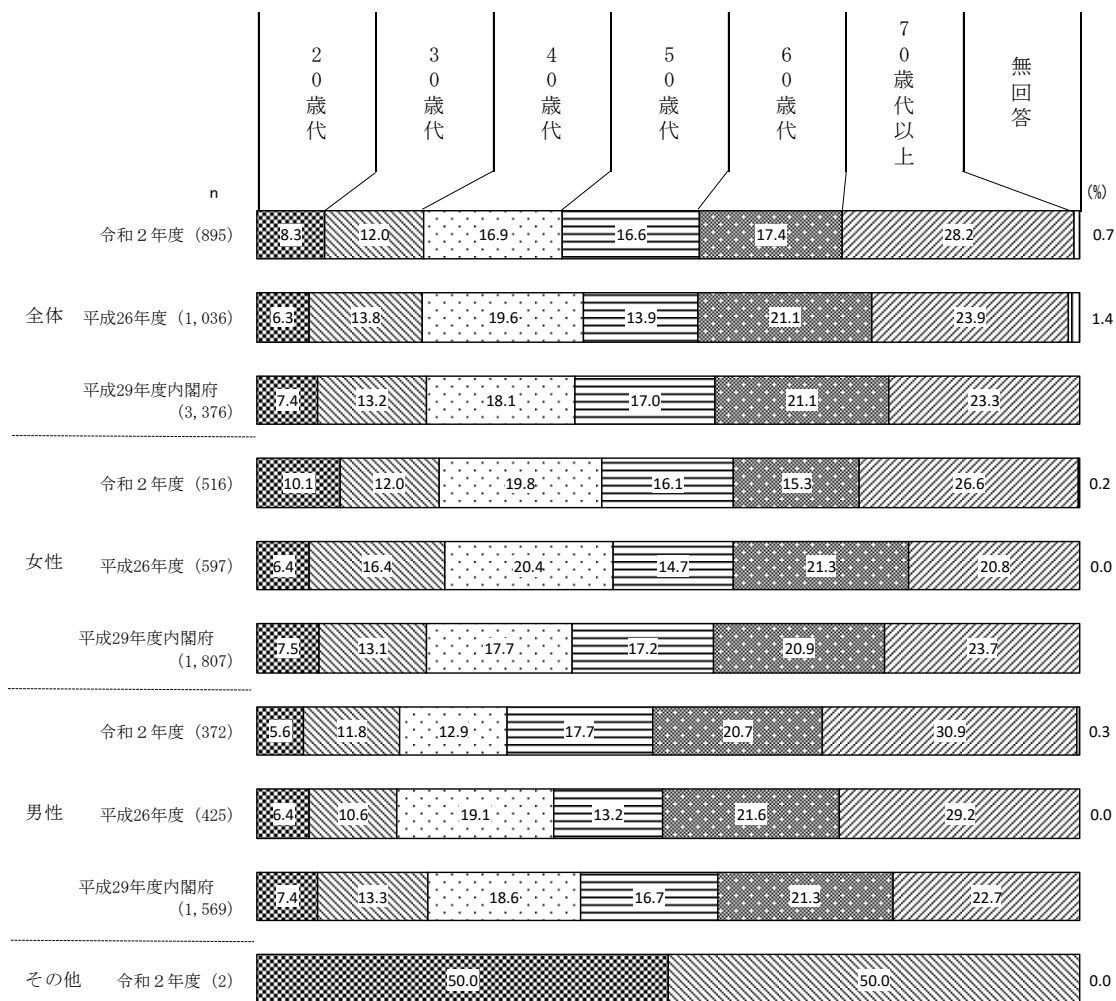


※「その他」は平成26年度・平成29年度内閣府にはない項目

(件)

	女性	男性	その他	無回答	合計
令和2年度	516	372	2	5	895
平成26年度	597	425		14	1,036

(2) 年代



※平成29年度内閣府では70歳代と80歳以上に分かれており、合算している

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答	合計
全体	令和2年度	74	107	151	149	156	252	6	895
	平成26年度	65	143	203	144	219	248	14	1,036
女性	令和2年度	52	62	102	83	79	137	1	516
	平成26年度	38	98	122	88	127	124	0	597
男性	令和2年度	21	44	48	66	77	115	1	372
	平成26年度	27	45	81	56	92	124	0	425
その他	令和2年度	1	1	0	0	0	0	0	2
無回答	令和2年度	0	0	1	0	0	0	4	5
	平成26年度	0	0	0	0	0	0	14	14

(3) 職業

就労状況	全体				女性				男性				その他		無回答			
	令和2年度		平成26年度		令和2年度		平成26年度		令和2年度		平成26年度		令和2年度		令和2年度		平成26年度	
	回答数 (件)	構成率 (%)	回答数 (件)	構成率 (%)	回答数 (件)	構成率 (%)	回答数 (件)	構成率 (%)	回答数 (件)	構成率 (%)	回答数 (件)	構成率 (%)	回答数 (件)	構成率 (%)	回答数 (件)	構成率 (%)	回答数 (件)	構成率 (%)
正規の社(職)員	270	30.2	249	24.0	111	21.5	84	14.1	159	42.7	165	38.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
契約社(職)員(臨時・派遣を含む)	61	6.8	70	6.8	36	7.0	38	6.4	25	6.7	32	7.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
経営者・事業者	29	3.2	/	/	5	1.0	/	/	24	6.5	/	/	0	0.0	0	0.0	/	/
自営業・家族従業者	31	3.5	58	5.6	18	3.5	22	3.7	12	3.2	36	8.5	0	0.0	1	20.0	0	0.0
自由業	3	0.3	/	/	1	0.2	/	/	2	0.5	/	/	0	0.0	0	0.0	/	/
パート・アルバイト	120	13.4	132	12.7	103	20.0	116	19.4	17	4.6	16	3.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
内職・在宅ワーク	2	0.2			2	0.4			0	0.0			0	0.0				
専業主婦・主夫	169	18.9	262	25.3	166	32.2	259	43.4	2	0.5	3	0.7	1	50.0	0	0.0	0	0.0
学生	19	2.1	18	1.7	11	2.1	9	1.5	7	1.9	9	2.1	1	50.0	0	0.0	0	0.0
その他	15	1.7	21	2.0	8	1.6	9	1.5	7	1.9	12	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無職	168	18.8	209	20.2	52	10.1	58	9.7	116	31.2	151	35.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	8	0.9	17	1.6	3	0.6	2	0.3	1	0.3	1	0.2	0	0.0	4	80.0	14	100.0
計	895	100.0	1,036	100.0	516	100.0	597	100.0	372	100.0	425	100.0	2	100.0	5	100.0	14	100.0

※「経営者・事業者」・「自由業」は平成26年度にない項目。

「内職・在宅ワーク」は、平成26年度では「パート・アルバイト・内職」であった。

Ⅱ. 調査の結果

1. 男女共同参画に関する意識

(1) 言葉の認知度

問1 あなたは以下の言葉を知っていますか。A、Bそれぞれの事項について、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

A. 男女共同参画社会

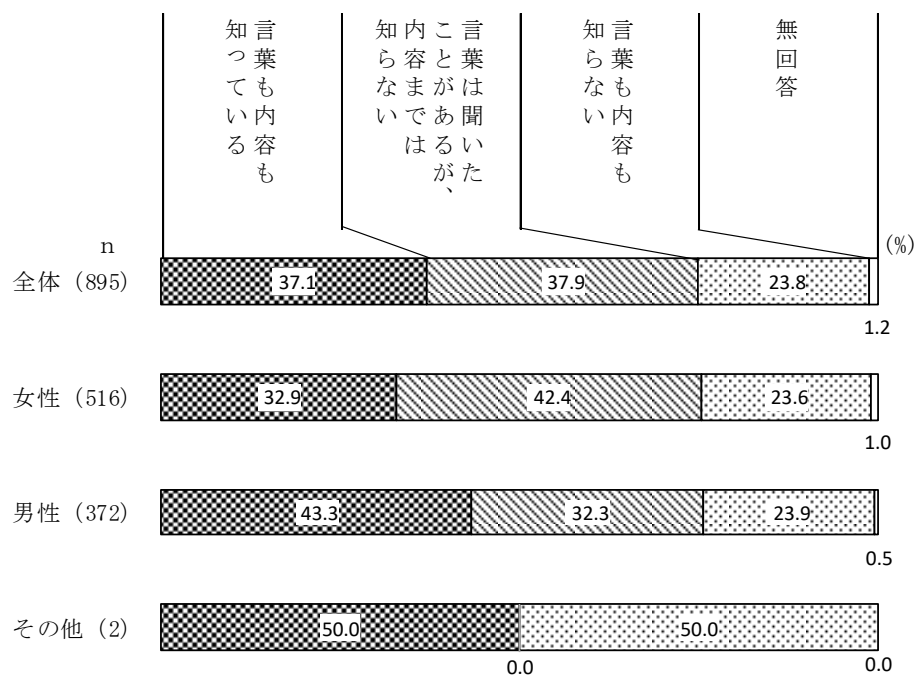
7割超が『言葉を知っている（聞いたことがある）』と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた『言葉を知っている（聞いたことがある）』は75.0%である。

性別でみると、女性では32.9%が「言葉も内容も知っている」と回答したのに対し、男性では43.3%と、男性の方が10.4ポイント高い。

【図表 1-1 参照】

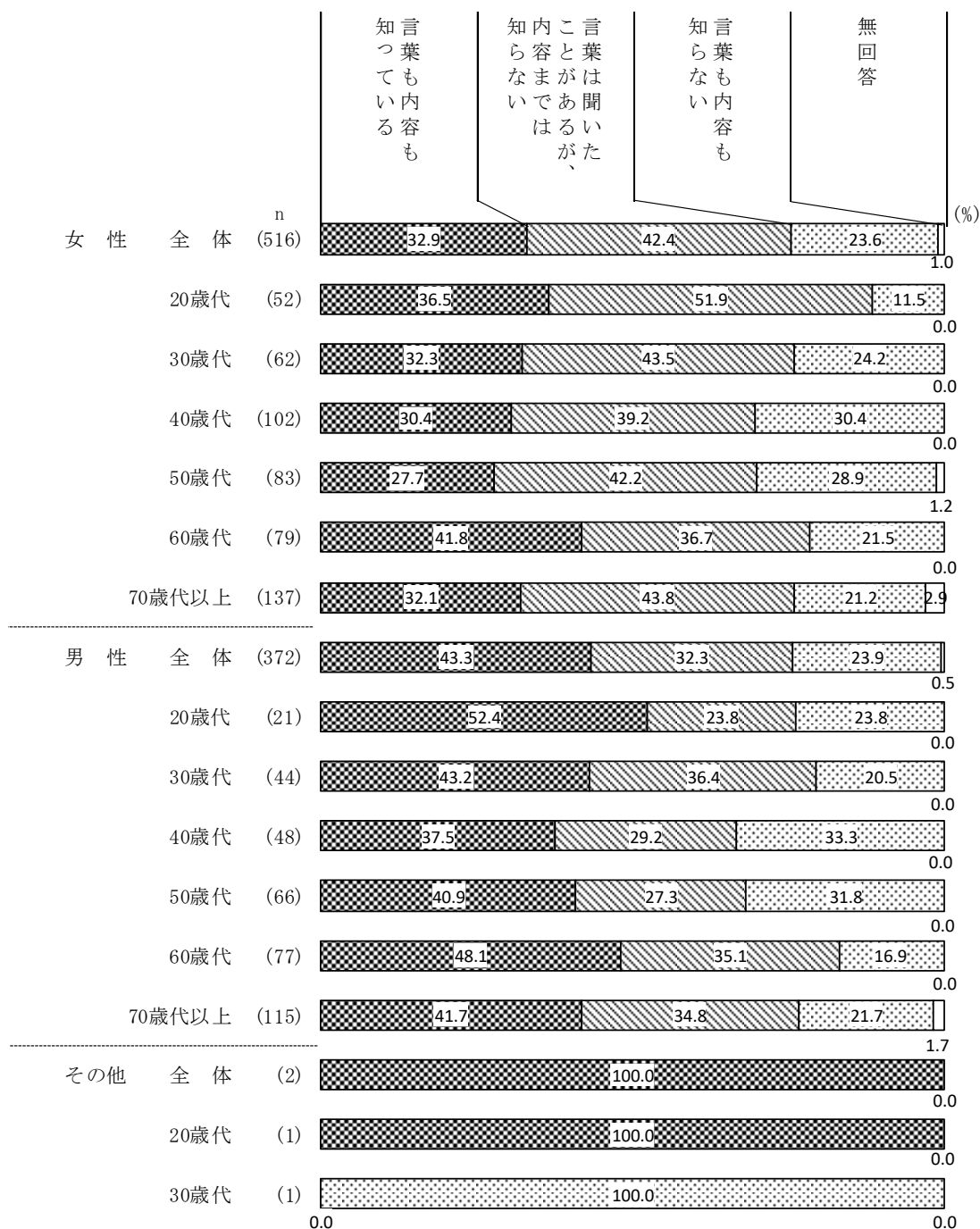
図表 1-1 言葉の認知度「男女共同参画社会」（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は20歳代男性(52.4%)が最も高い。また、『言葉を知っている(聞いたことがある)』は20歳代女性(88.4%)が最も高く、40歳代男性(66.7%)が最も低い。

【図表 1-2 参照】

図表 1-2 言葉の認知度「男女共同参画社会」(性・年代別)



B. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

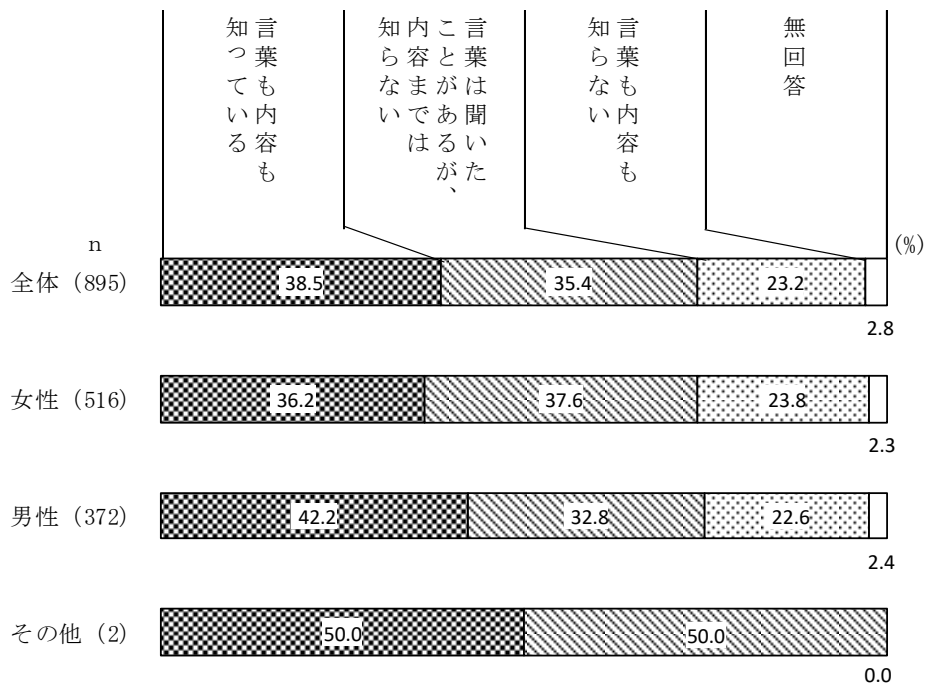
7割以上が『言葉を知っている（聞いたことがある）』と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた『言葉を知っている（聞いたことがある）』は73.9%である。

性別で見ると、女性では36.2%が「言葉も内容も知っている」と回答したのに対し、男性では42.2%と、男性の方が6.0ポイント高い。

【図表 1-3 参照】

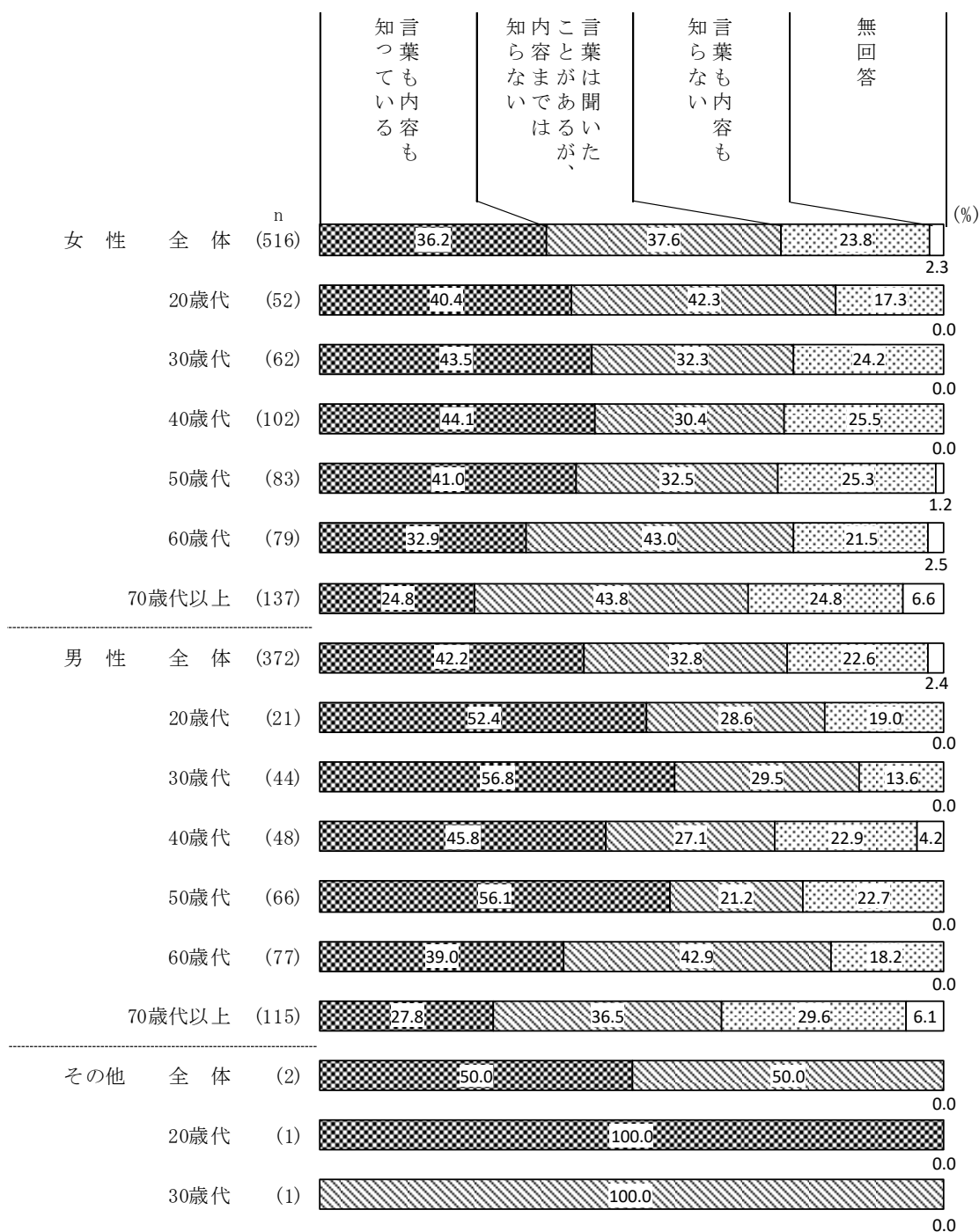
図表 1-3 言葉の認知度「ワーク・ライフ・バランス」（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は、女性は40歳代(44.1%)が最も高く、男性は30歳代(56.8%)が最も高い。一方、「言葉も内容も知らない」は、女性は40歳代(25.5%)が最も高く、男性は70歳代以上(29.6%)が最も高い。

【図表 1-4 参照】

図表 1-4 言葉の認知度「ワーク・ライフ・バランス」(性・年代別)



(2) 各分野での男女の地位

問2 あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (A)～(E)それぞれの事項について、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

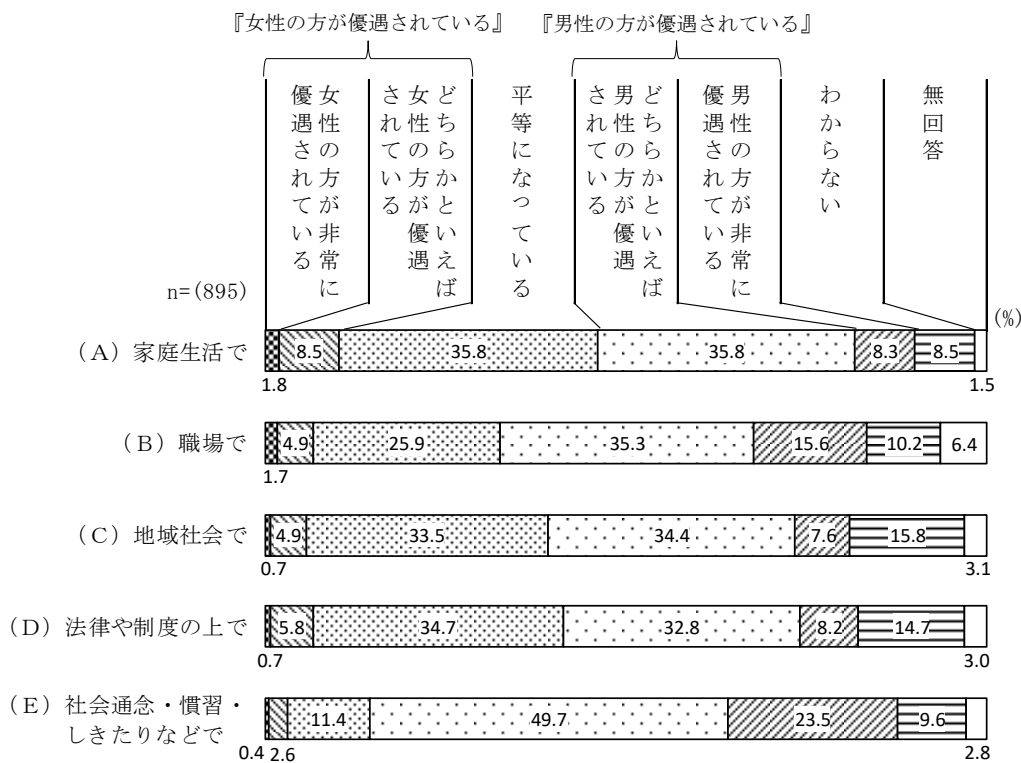
「社会通念・慣習・しきたりなど」で7割以上が『男性の方が優遇されている』と回答。

全体では、全ての分野で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「男性の方が非常に優遇されている」を合わせた『男性の方が優遇されている』が『女性の方が優遇されている』を上回っている。『男性の方が優遇されている』と回答した割合は、「社会通念・慣習・しきたりなど」が73.2%と最も高く、次いで「職場で」の50.9%である。

一方、「平等になっている」は、「家庭生活」が35.8%と最も高く、「社会通念・慣習・しきたりなど」が11.4%と最も低い。

【図表 2-1 参照】

図表 2-1 各分野での男女の地位（全体）



(A) 家庭生活で

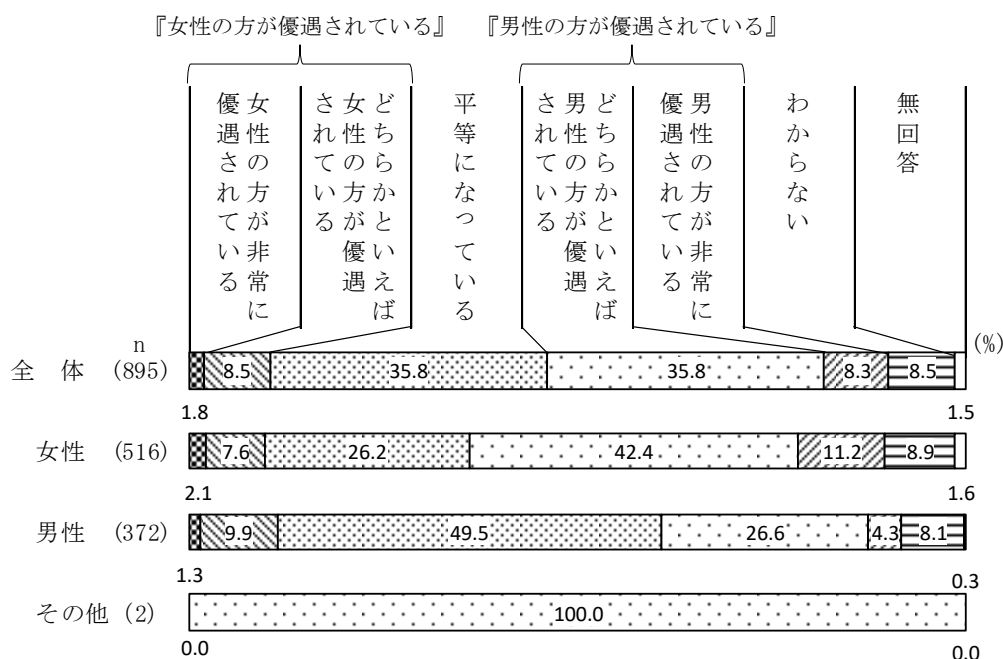
「平等になっている」は男女間で2割以上の差。

全体では、44.1%の人が『男性の方が優遇されている』と回答した。また、『女性の方が優遇されている』は10.3%、「平等になっている」は35.8%である。

性別で見ると、女性は『男性の方が優遇されている』が53.6%であり、「平等になっている」は26.2%。一方、男性は『男性の方が優遇されている』が30.9%、「平等になっている」は49.5%である。男女間では、『男性の方が優遇されている』は、女性の方が22.7ポイント高く、「平等になっている」は、男性の方が23.3ポイント高い。

【図表 2-2 参照】

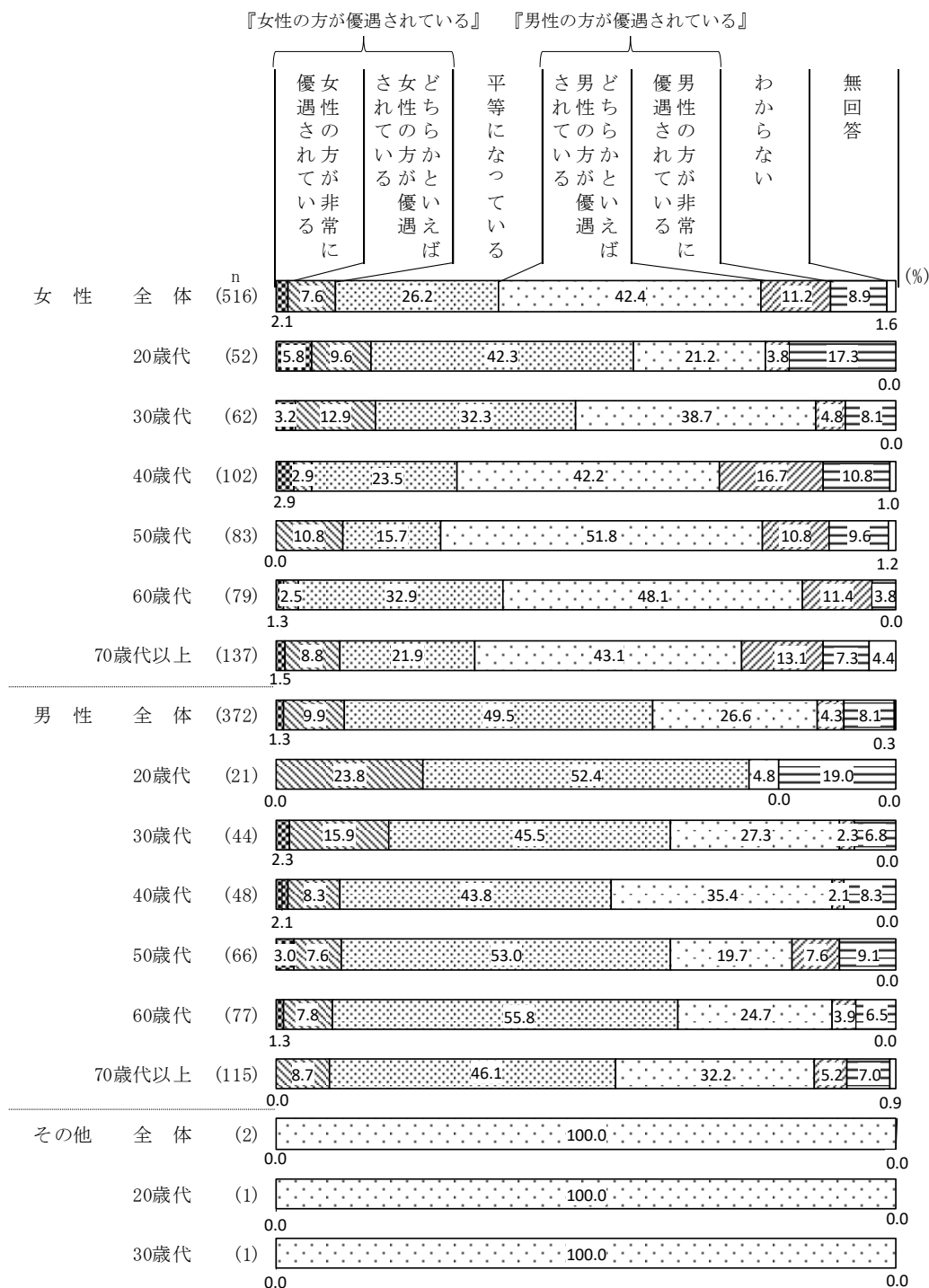
図表 2-2 各分野の男女の地位 (A) 家庭生活で (全体、性別)



男女それぞれ年代別にみると、『男性の方が優遇されている』は、50歳代女性(62.6%)で最も高い。一方で、『女性の方が優遇されている』は、20歳代男性(23.8%)で最も高い。また、「平等になっている」は60歳代男性(55.8%)で最も高い。

【図表 2-3 参照】

図表 2-3 各分野での男女の地位 (A) 家庭生活で (性・年代別)



(B) 職場で

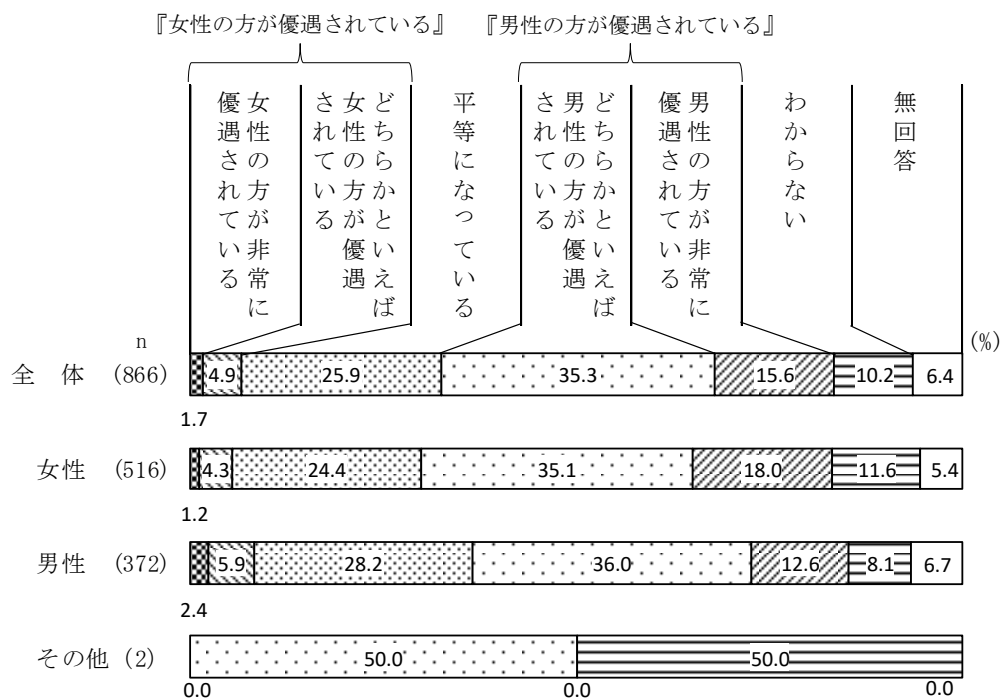
全体の約5割が『男性の方が優遇されている』と回答。

全体では、50.9%の人が『男性の方が優遇されている』と回答した。また、『女性の方が優遇されている』は6.6%、「平等になっている」は25.9%である。

性別で見ると、女性は『男性の方が優遇されている』が53.1%であり、「平等になっている」は24.4%。一方、男性は『男性の方が優遇されている』が48.6%、「平等になっている」は28.2%である。男女間では、『男性の方が優遇されている』は、女性の方が4.5ポイント高く、「平等になっている」は、男性の方が3.8ポイント高い。

【図表 2-4 参照】

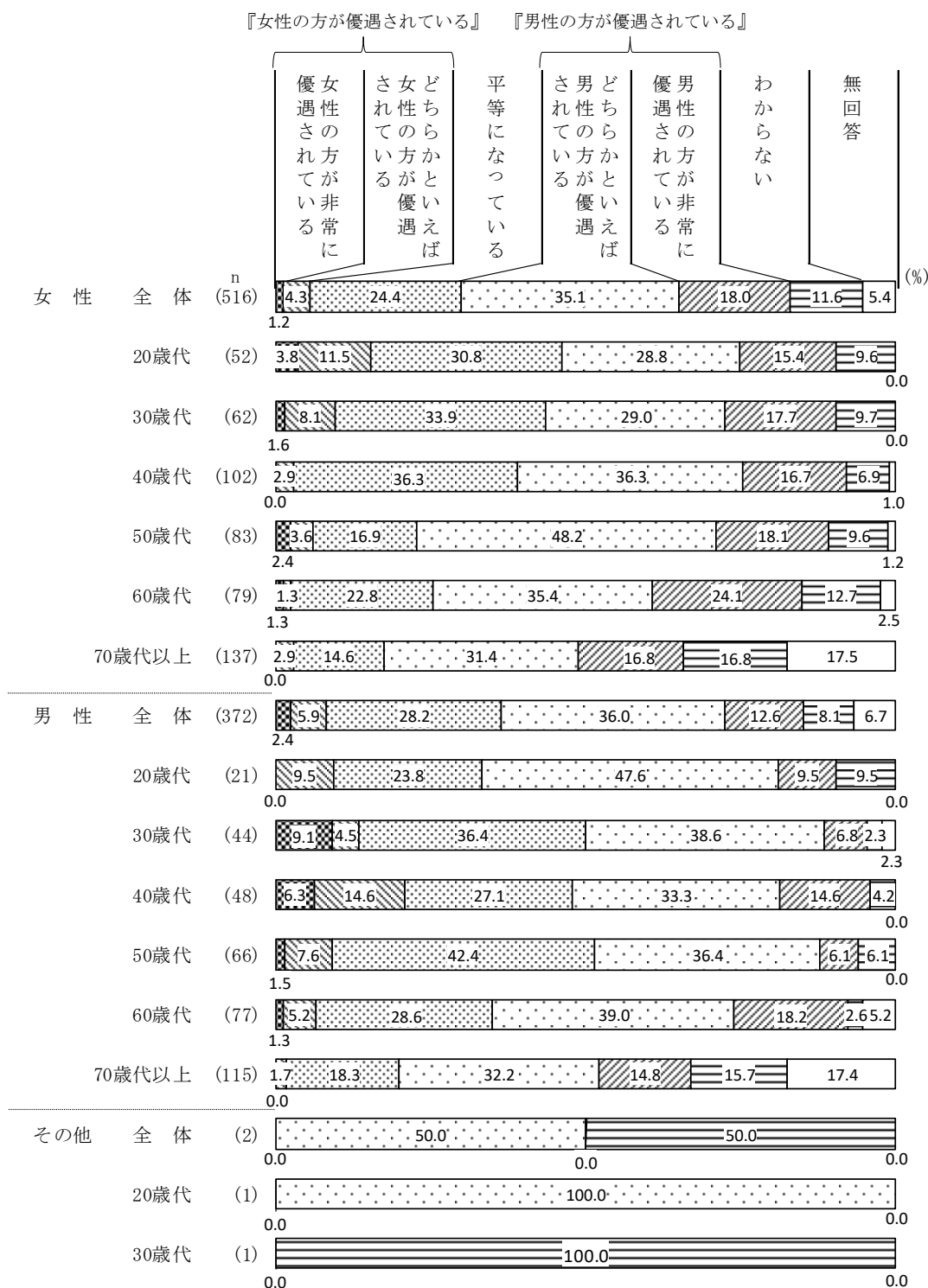
図表 2-4 各分野の男女の地位 (B) 職場で (全体、性別)



男女それぞれ年代別にみると、『男性の方が優遇されている』は、50歳代女性（66.3%）で最も高く、反対に50歳代男性（42.5%）が最も低い。『女性の方が優遇されている』は、40歳代男性（20.9%）で最も高い。また、「平等になっている」は50歳代男性（42.4%）で最も高く、70歳代以上女性（14.6%）が最も低い。

【図表 2-5 参照】

図表 2-5 各分野の男女の地位 (B) 職場で (性・年代別)



(C) 地域社会で

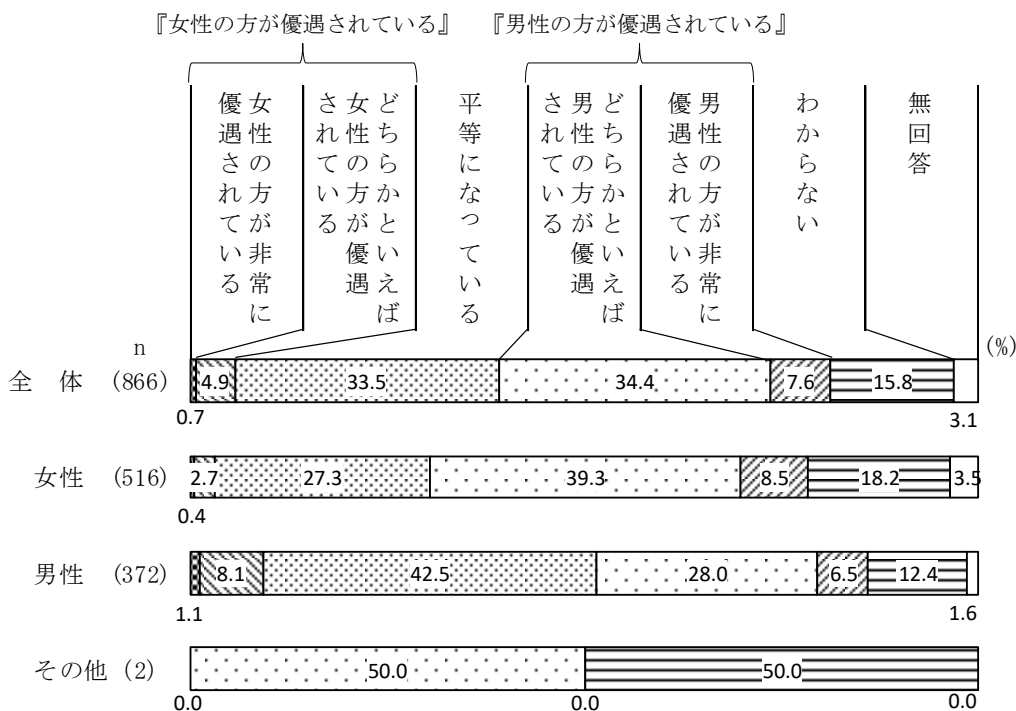
全体の4割以上、女性の5割弱が『男性の方が優遇されている』と回答。

全体では、42.0%の人が『男性の方が優遇されている』と回答した。また、『女性の方が優遇されている』は5.6%、「平等になっている」は33.5%である。

性別で見ると、女性は『男性の方が優遇されている』が47.8%であり、「平等になっている」は27.3%。一方、男性は『男性の方が優遇されている』が34.5%、「平等になっている」は42.5%で平等と考える人の方が多い。男女間では、『男性の方が優遇されている』は、女性の方が13.3ポイント高く、「平等になっている」は、男性の方が15.2ポイント高い。

【図表 2-6 参照】

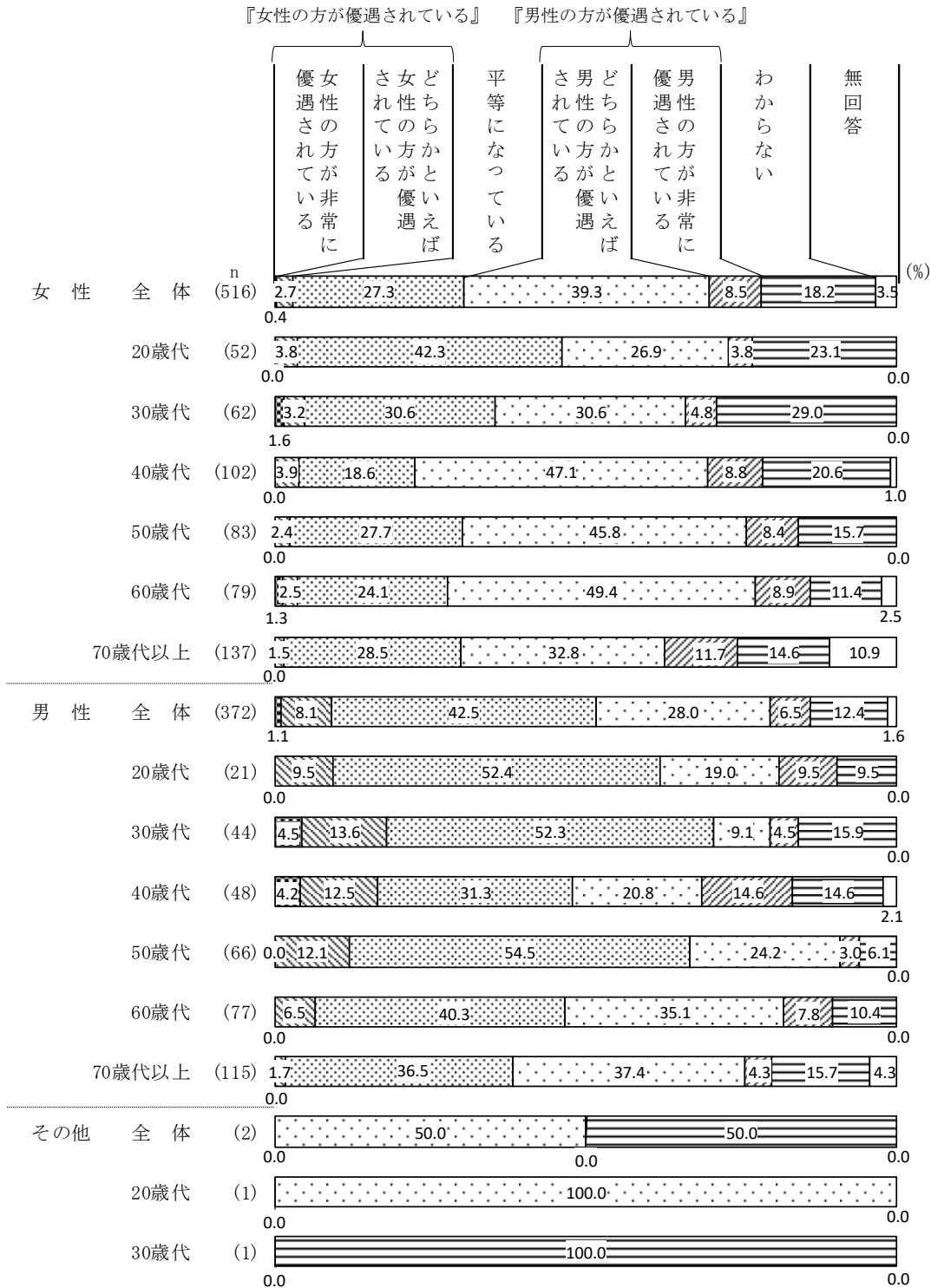
図表 2-6 各分野の男女の地位 (C) 地域社会で (全体、性別)



男女それぞれ年代別にみると、『男性の方が優遇されている』は、60歳代女性（58.3%）が最も高く、30歳代男性（13.6%）が最も低い。また、「平等になっている」は50歳代男性（54.5%）が最も高く、40歳代女性（18.6%）が最も低い。

【図表 2-7 参照】

図表 2-7 各分野の男女の地位 (C) 地域社会で (性・年代別)



(D) 法律や制度の上で

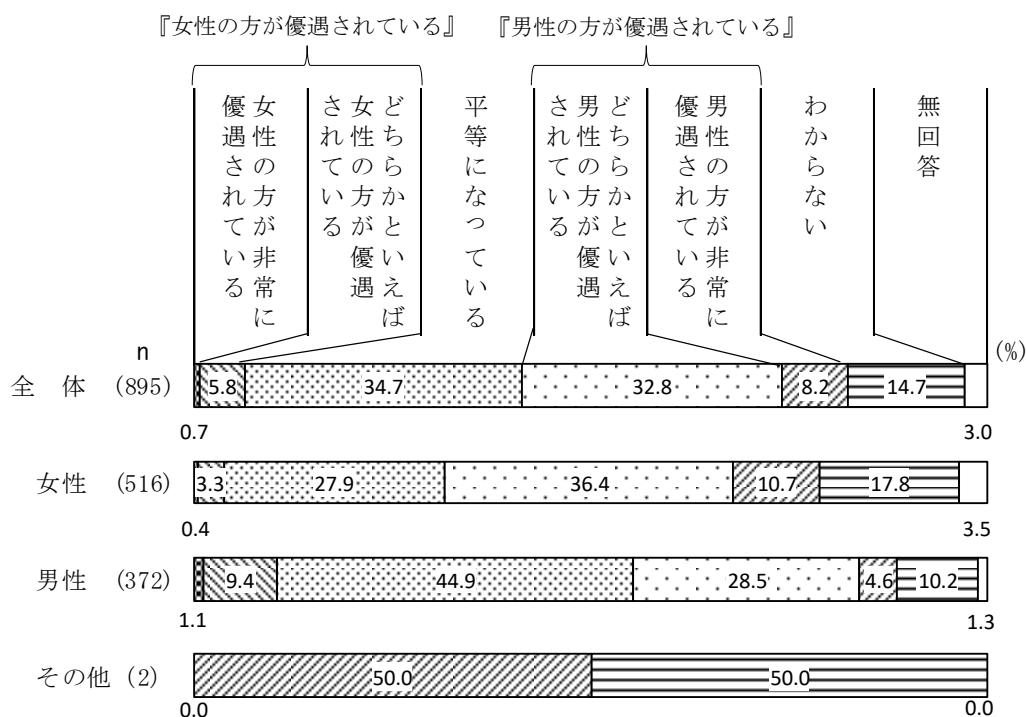
全体の4割以上、女性の5割弱が『男性の方が優遇されている』と回答。

全体では、41.0%の人が『男性の方が優遇されている』と回答した。また、『女性の方が優遇されている』は6.5%、「平等になっている」は34.7%である。

性別で見ると、女性は『男性の方が優遇されている』が47.1%であり、「平等になっている」は27.9%。一方、男性は『男性の方が優遇されている』が33.1%、「平等になっている」は44.9%で平等と考える人の方が多い。男女間では、『男性の方が優遇されている』は、女性の方が14.0ポイント高く、「平等になっている」は、男性の方が17.0ポイント高い。

【図表 2-8 参照】

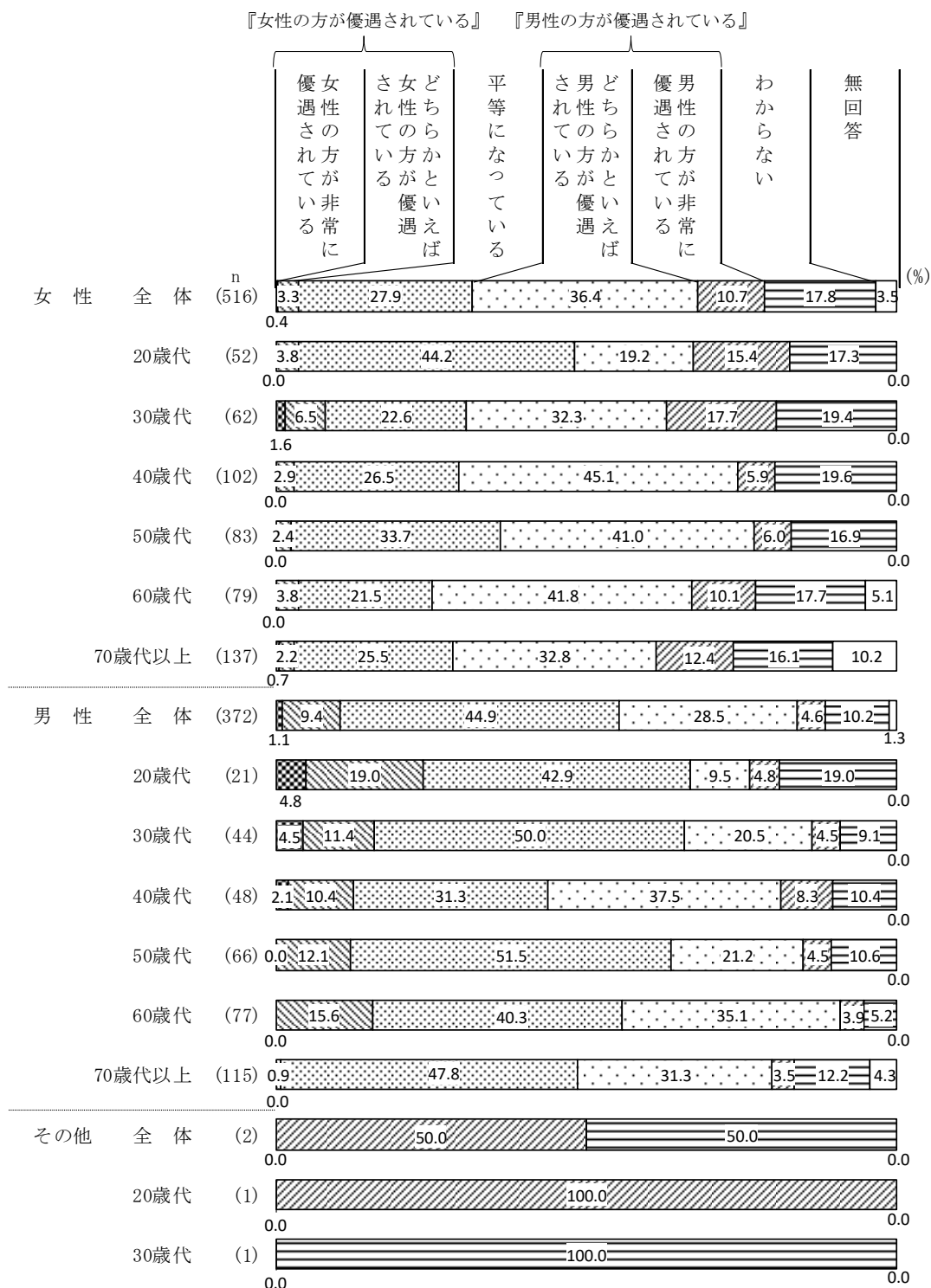
図表 2-8 各分野の男女の地位 (D) 法律や制度の上で (全体、性別)



男女それぞれ年代別にみると、『男性の方が優遇されている』は、60歳代女性（51.9%）が最も高く、20歳代男性（14.3%）が最も低い。また、「平等になっている」は50歳代男性（51.5%）が最も高く、60歳代女性（21.5%）が最も低い。

【図表 2-9 参照】

図表 2-9 各分野の男女の地位 (D) 法律や制度の上で (性・年代別)



(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで

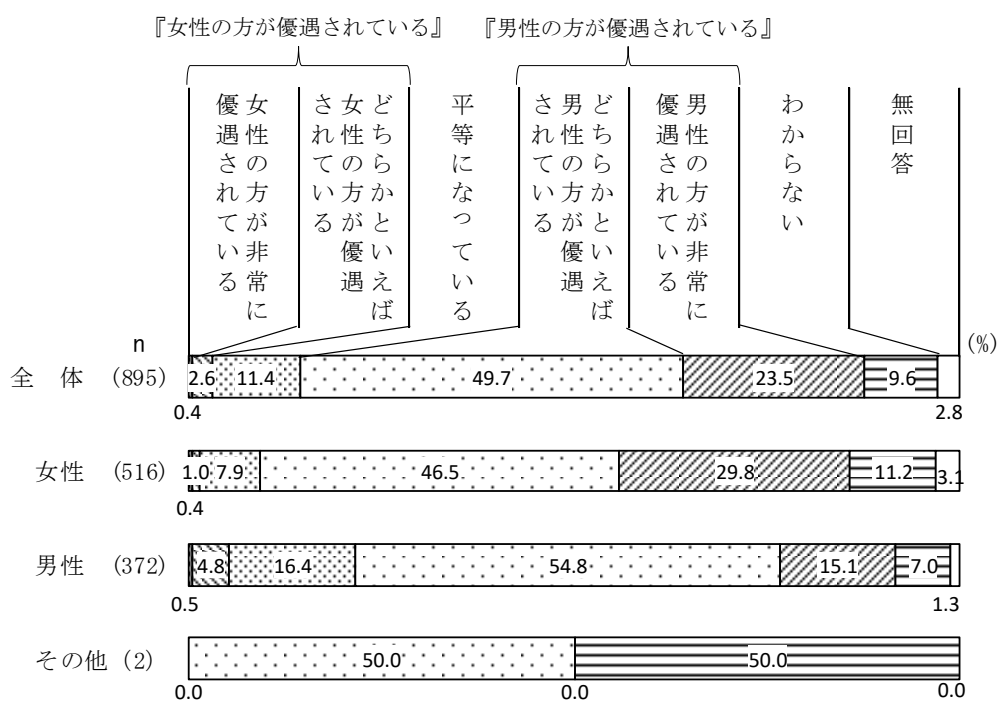
全体の7割以上が『男性の方が優遇されている』と回答。

全体では、73.2%の人が『男性の方が優遇されている』と回答した。また、『女性の方が優遇されている』は3.0%、「平等になっている」は11.4%である。

性別で見ると、女性は『男性の方が優遇されている』が76.3%であり、「平等になっている」は7.9%。一方、男性は『男性の方が優遇されている』が69.9%、「平等になっている」は16.4%である。男女間では、『男性の方が優遇されている』は、女性の方が6.4ポイント高く、「平等になっている」は、男性の方が8.5ポイント高い。

【図表 2-10 参照】

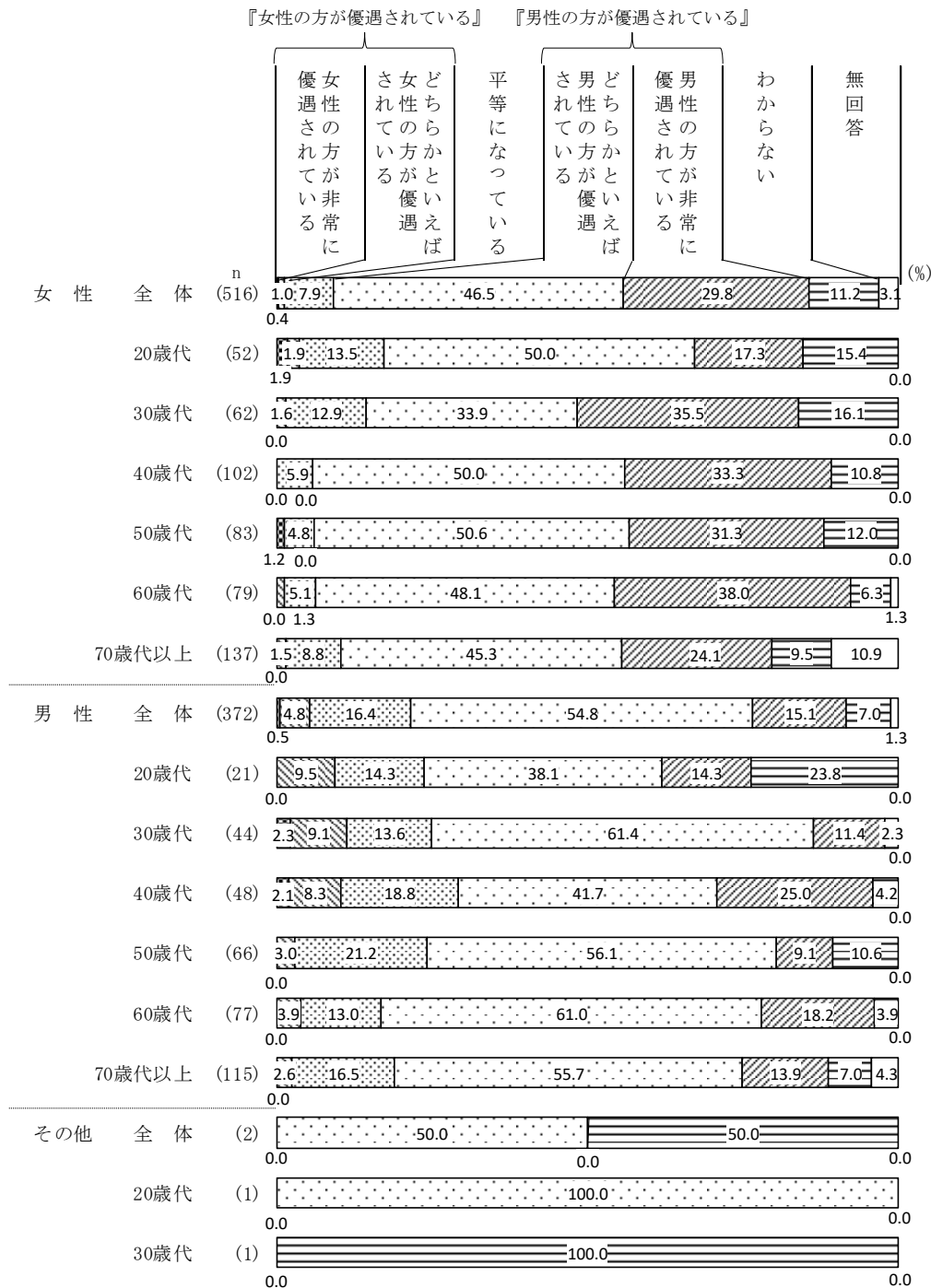
図表 2-10 各分野の男女の地位 (E) 社会通念・慣習・しきたりなどで (全体、性別)



男女それぞれ年代別にみると、『男性の方が優遇されている』は、60歳代女性（86.1%）が最も高い。一方で、『女性の方が優遇されている』は、30歳代男性（11.4%）が最も高い。また、「平等になっている」は50歳代男性（21.2%）が最も高い。

【図表 2-11 参照】

図表 2-11 各分野の男女の地位 (E) 社会通念・慣習・しきたりなどで (性・年代別)



(3) 性別役割分担に対する意識

問3 あなたは「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

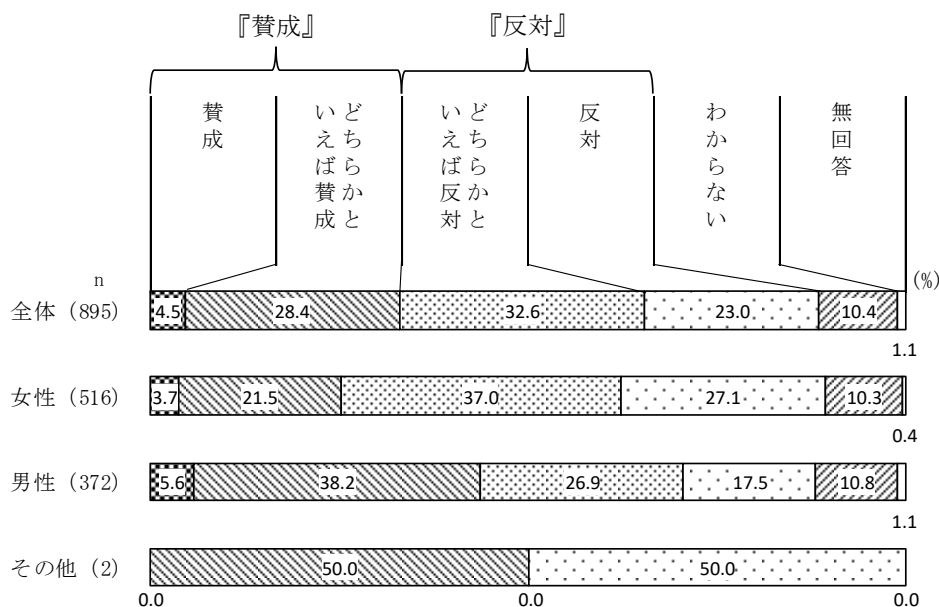
『反対』は、全体では5割超であるが、女性に比べ男性は4割以上と低い。

全体では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』は、32.9%となっており、「反対(23.0%)」と「どちらかといえば反対(32.6%)」を合わせた『反対』は55.6%と、『反対』が『賛成』を22.7ポイント上回っている。

性別で見ると、『賛成』は女性が25.2%、男性が43.8%で、男性の方が18.6ポイント高い。また、『反対』は女性が64.1%、男性が44.4%で、女性の方が19.7ポイント高い。

【図表 3-1 参照】

図表 3-1 性別役割分担意識（全体、性別）

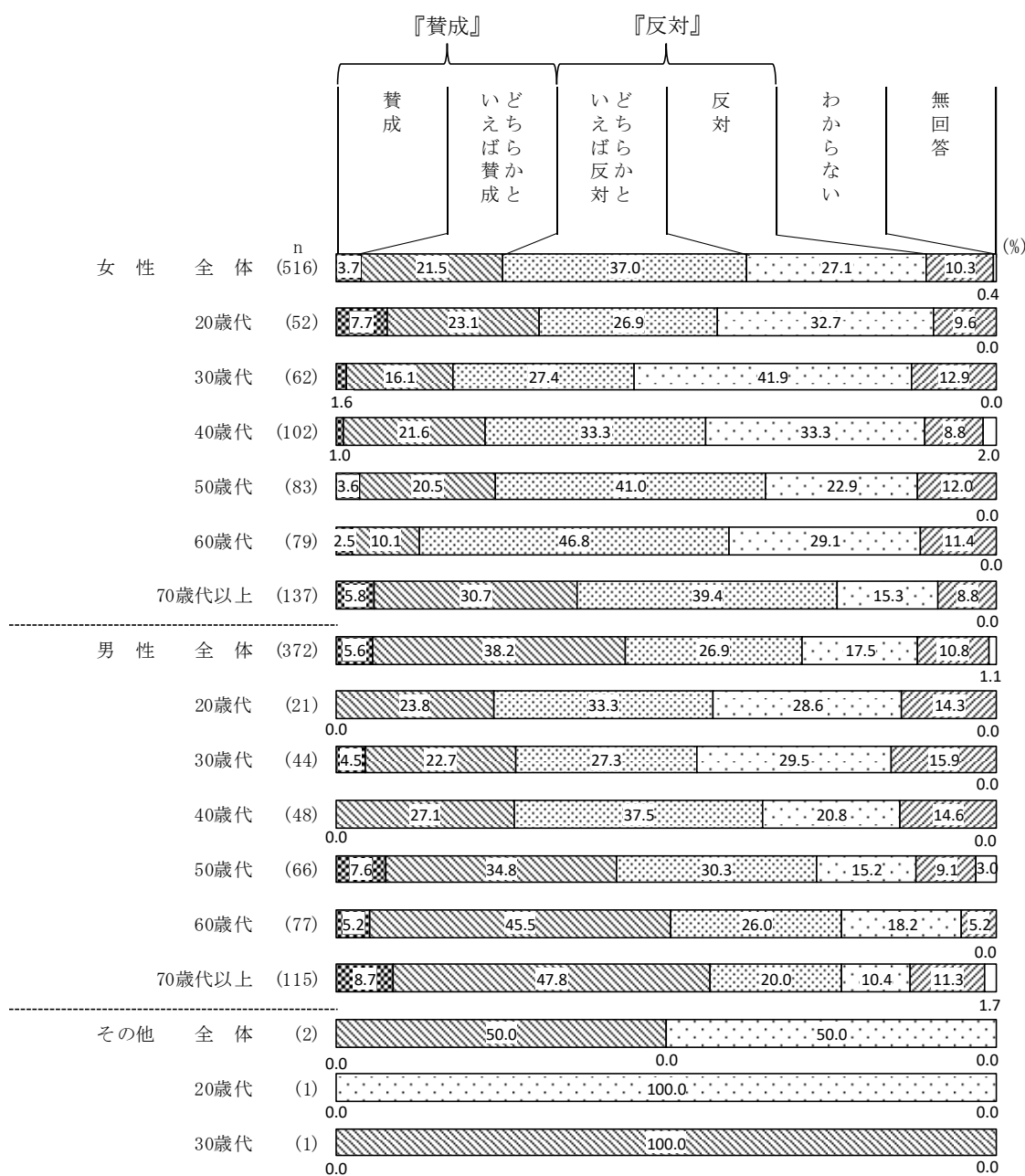


男女それぞれを年代別にみると、女性では、『賛成』は70歳代以上（36.5%）が最も高く、20歳代（30.8%）、50歳代（24.1%）が続いた。また、『反対』は全ての年代で過半数を超えており、60歳代（75.9%）が最も高い。

一方、男性では、『賛成』は70歳代以上（56.5%）が最も高く、60歳代（50.7%）と共に『賛成』が『反対』を上回った。『反対』は20歳代（61.9%）が最も高く、40歳代（58.3%）、30歳代（56.8%）が続いた。

【図表 3-2 参照】

図表 3-2 性別役割分担意識（性・年代別）



2. 配偶者等による暴力に対する認知度、意識

(1) DV 防止法の認知度

問4 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」を知っていますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

※この法律は、配偶者からの暴力に関する相談などの体制を整備することにより、配偶者からの暴力や生活の本拠を共にする交際相手からの暴力を防止し、被害者の保護を図るものです。

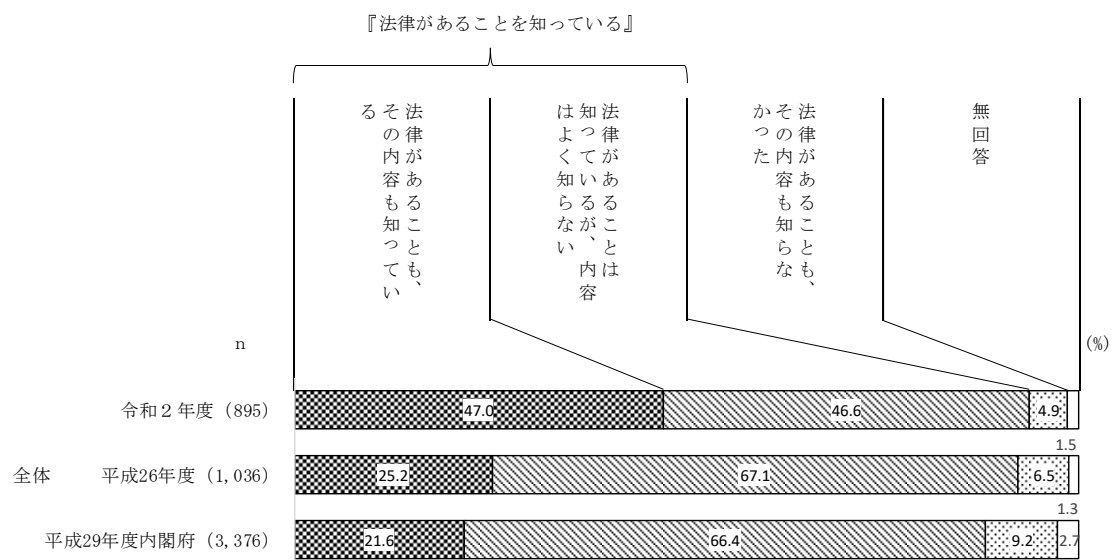
※DVとは、配偶者・パートナーなどの親密な関係にある人からの暴力のことです。（ドメスティック・バイオレンス）

「法律があることも、その内容も知っている」が5割弱で、法律があることを知っている人は9割以上。

全体では「法律があることも、その内容も知っている（47.0%）」が最も高く、平成26年度より21.8ポイント上昇した。平成29年度内閣府と比較しても、25.4ポイント高くなっている。法律があることを知っている人は93.6%で、平成26年度と比較して増加した。

【図表 4-1 参照】

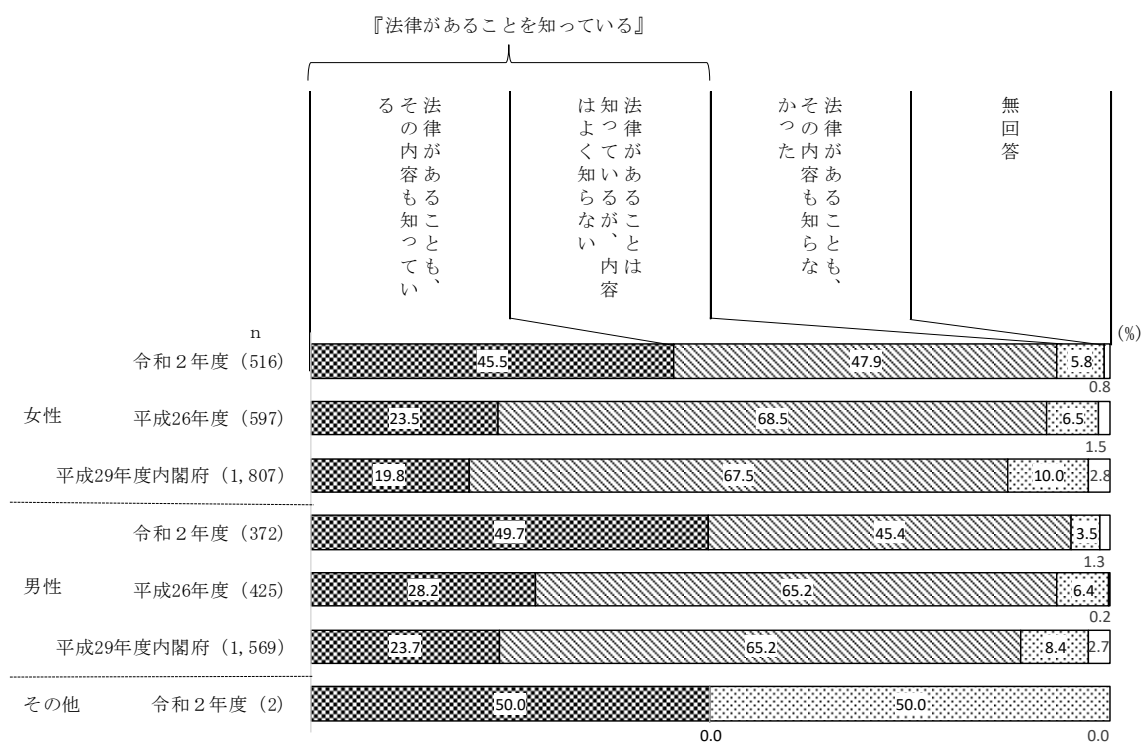
図表 4-1 DV防止法の認知度（全体）



性別でみると、「法律があることも、その内容も知っている」は、女性（45.5%）より男性（49.7%）の方が多。また、どちらも平成26年度と比較して大幅に増加した。法律があることを知っている人は、女性93.4%、男性95.1%とともに90%を超えた。

【図表 4-2 参照】

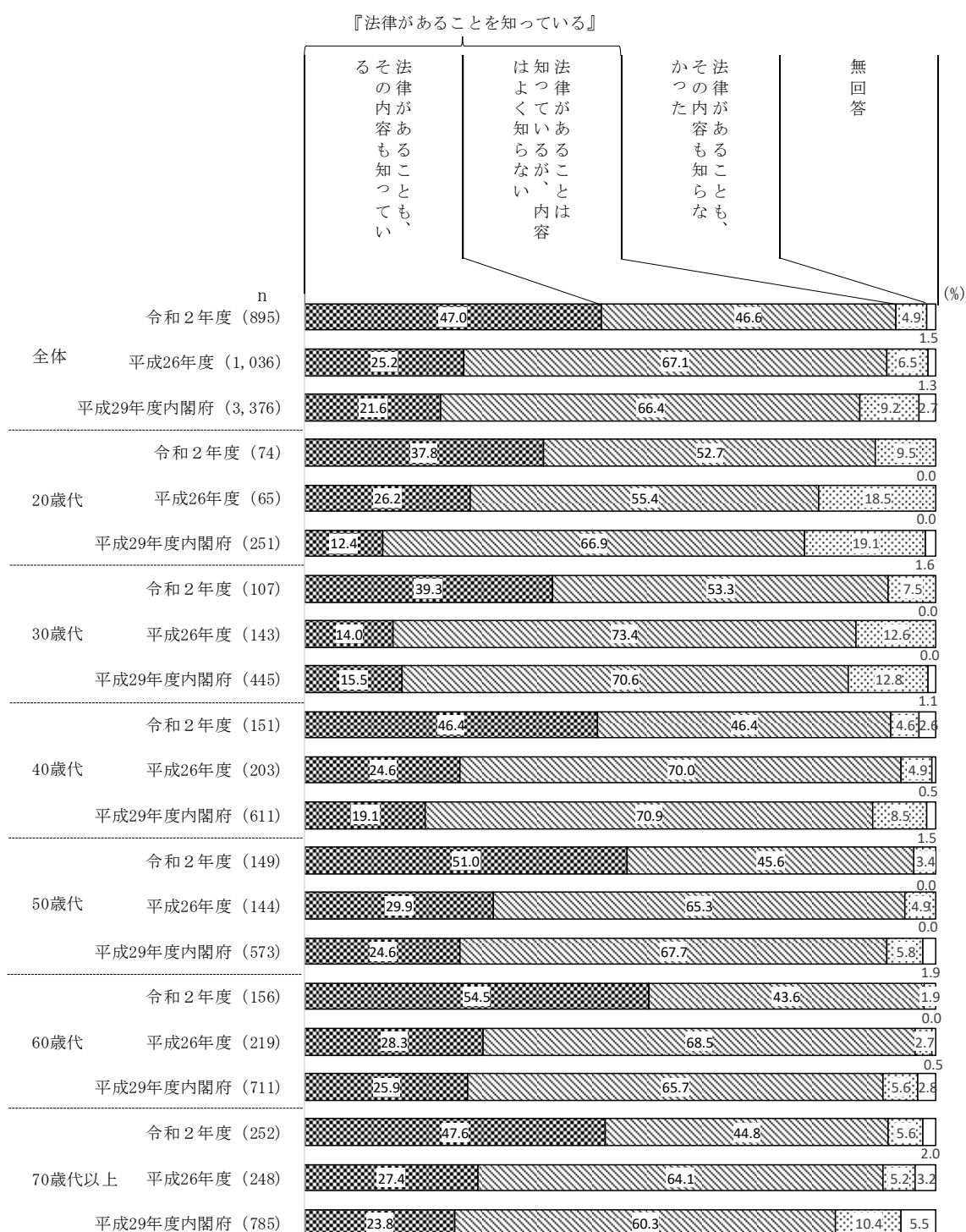
図表 4-2 DV 防止法の認知度（性別）



年代別にみると、「法律があることも、その内容も知っている」は、60歳代（54.5%）が最も高く、50歳代（51.0%）が続いている。また、どの年代も平成26年度と比較して大幅に増加した。法律があることを知っている人は、全ての年代で90%を超えた。

【図表 4-2 参照】

図表 4-2 DV防止法の認知度（年代別）



(2) 配偶者等からの暴力について相談できる窓口の認知度

問5 (1) あなたは、配偶者やパートナーからの暴力について相談できる窓口を知っていますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

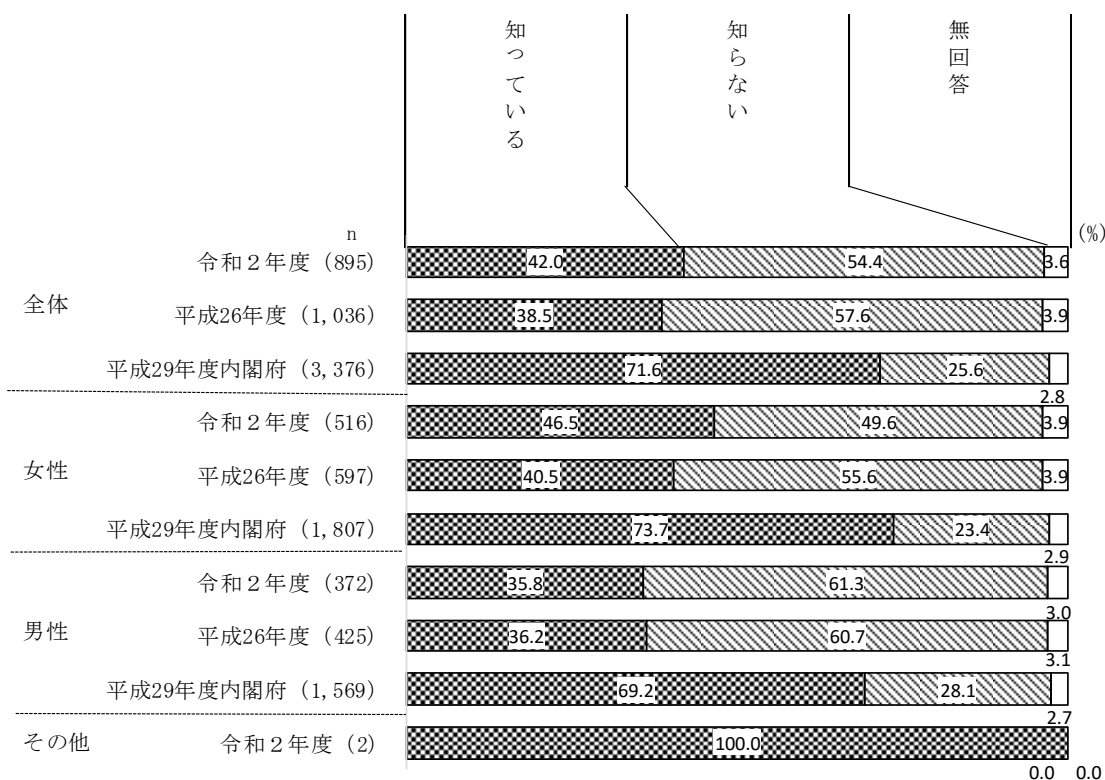
「知らない」が5割以上。男性の認知度が3割超と低い。

全体では、相談窓口の認知度は、「知らない (54.4%)」が「知っている (42.0%)」を上回った。平成26年度と比較すると、「知っている」が3.5ポイント上昇した。平成29年度内閣府と比較すると低くなっている。

性別でみると「知っている」は女性が46.5%、男性が35.8%となっており、男性の認知度が低い。

【図表 5-1 参照】

図表 5-1 相談窓口の認知度 (全体・性別)

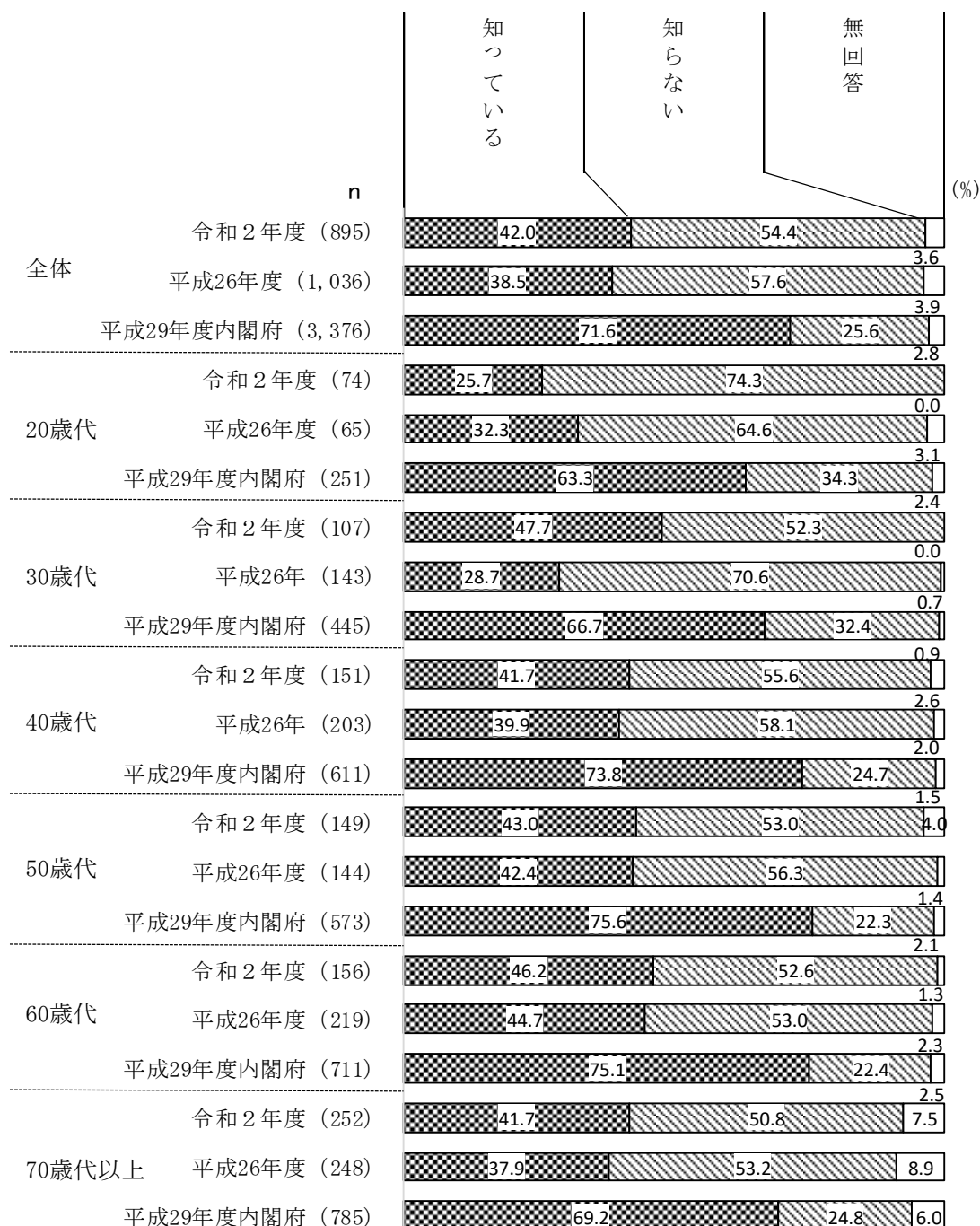


※平成29年度内閣府は、設問の中で相談窓口の具体例が追加記載されたため、大幅に増加した。(平成23年度内閣府: 「知っている」は全体で32.7%)

年代別にみると、「知っている」は30歳代が47.7%と最も高く、20歳代が25.7%と最も低い。平成26年度と比較すると、20歳代以外は全て認知度が向上しており、特に30歳代は19.0ポイントと大きく上昇している。

【図表 5-2 参照】

図表 5-2 相談窓口の認知度（年代別）



【問5（1）で「1」に○をつけた方におたずねいたします。】

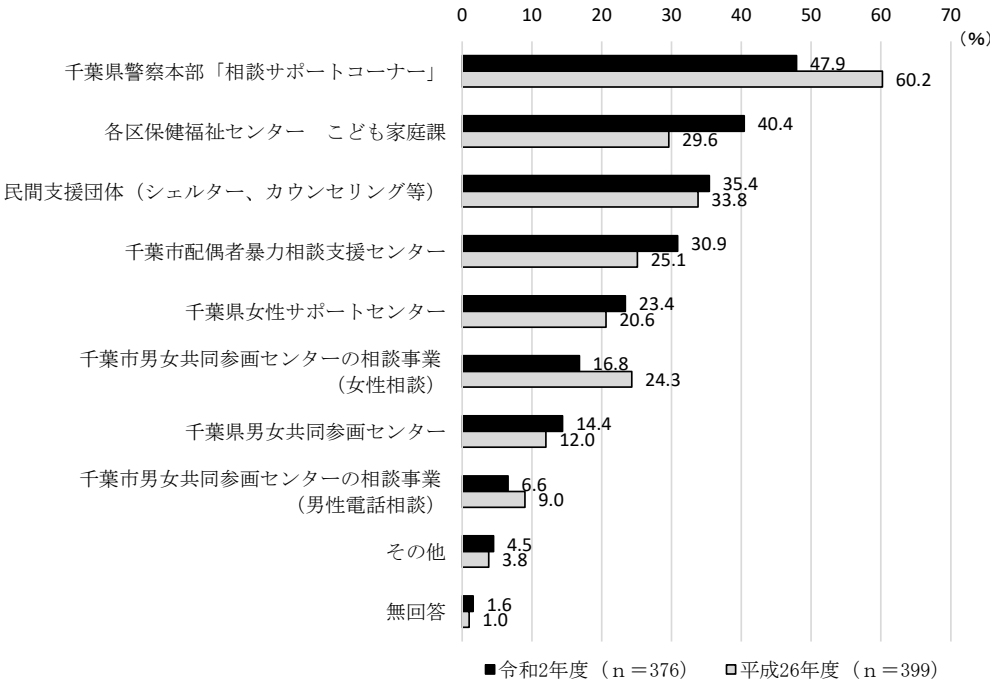
問5 （2）あなたの知っている窓口は次のうちどれですか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

千葉県警察本部「相談サポートコーナー」が5割弱で最も多く、男性は6割弱と特に高い。

知っている相談窓口は、「千葉県警察本部 相談サポートコーナー（47.9%）」が最も高く、「各区保健福祉センター こども家庭課（40.4%）」、「民間支援団体（シェルター、カウンセリング等）（35.4%）」が続いた。平成26年度と比較すると、千葉県警察本部「相談サポートコーナー」が12.3ポイント減少し、各区保健福祉センター こども家庭課」が10.8ポイント増加した。

【図表 5-3 参照】

図表 5-3 知っている相談窓口（全体）



相談窓口の認知度を性別で見ると、「千葉県警察本部 相談サポートコーナー」は男性（57.1%）が女性（43.3%）を13.8ポイント上回っている一方、「民間支援団体（シェルター、カウンセリング等）」は女性（41.7%）が男性（24.1%）を17.6ポイント上回っている。

年代別で見ると、「千葉県警察本部 相談サポートコーナー」は60歳代（59.7%）が最も高く、20～40歳代は30%台と低い。また、「各区保健福祉センター こども家庭課」は、60歳代（50.0%）が最も高く、「民間支援団体（シェルター、カウンセリング等）」は30～50歳代が40%台と高くなっている。

DV経験別では、「千葉市配偶者暴力相談支援センター」は経験あり（37.8%）が経験なし（28.7%）を9.1ポイント上回っている。一方、「各区保健福祉センター こども家庭課」は経験あり（34.2%）が経験なし（44.3%）を10.1ポイント下回っている。

【図表 5-4 参照】

図表 5-4 知っている相談窓口（属性別）

		回答数	千葉県警察本部「相談サポートコーナー」	各区保健福祉センター こども家庭課	民間支援団体（シェルター、 カウンセリング等）	千葉市配偶者暴力相談支援センター	千葉県女性サポートセンター	千葉市男女共同参画センターの相談事業 （女性相談）	千葉県男女共同参画センター	千葉市男女共同参画センターの相談事業 （男性電話相談）	その他	無回答
全体		376	47.9	40.4	35.4	30.9	23.4	16.8	14.4	6.6	4.5	1.6
性別	女性	240	43.3	36.7	41.7	27.9	26.7	18.3	11.7	4.2	4.2	1.7
	男性	133	57.1	45.9	24.1	36.1	16.5	13.5	18.8	11.3	5.3	1.5
	その他	2	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	19	31.6	42.1	31.6	21.1	21.1	15.8	15.8	0.0	5.3	5.3
	30歳代	51	35.3	39.2	41.2	25.5	23.5	15.7	19.6	11.8	3.9	2.0
	40歳代	63	39.7	39.7	42.9	22.2	25.4	12.7	11.1	3.2	6.3	0.0
	50歳代	64	51.6	39.1	40.6	28.1	29.7	17.2	9.4	6.3	7.8	0.0
	60歳代	72	59.7	50.0	33.3	31.9	22.2	25.0	11.1	9.7	2.8	1.4
	70歳代以上	105	52.4	35.2	27.6	40.0	19.0	13.3	19.0	5.7	2.9	2.9
DV被害	経験あり	111	47.7	34.2	30.6	37.8	25.2	17.1	10.8	6.3	6.3	1.8
	経験なし	237	46.8	44.3	35.9	28.7	21.9	15.6	12.2	5.1	4.2	1.3

※ ■は、「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、□は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(3) 配偶者等との間で暴力についての意識

【全員の方におたずねいたします。】

問6 あなたは、次のようなことが配偶者やパートナーとの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。(1)から(13)のそれぞれについて、あなたの考えに近い番号を1つずつ選んで○をつけてください。

※「配偶者やパートナー」とは、「妻、夫、前妻、前夫、同棲相手、恋人、元恋人」など、一定期間親密な関係のある(あった)相手をさします(以降、同様です)。

※ 配偶者やパートナーがいない場合は、いると仮定してお答えください。

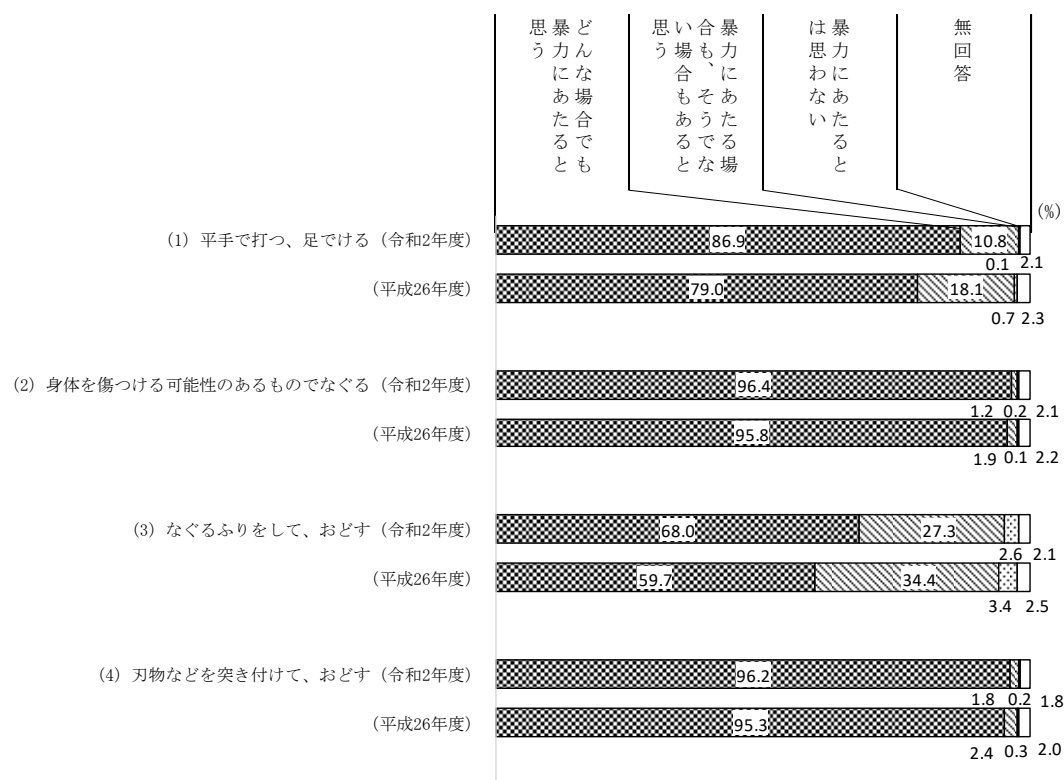
「どんな場合でも暴力にあたる」は「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」、「刃物などを突きつけて、おどす」が9割超と高い。

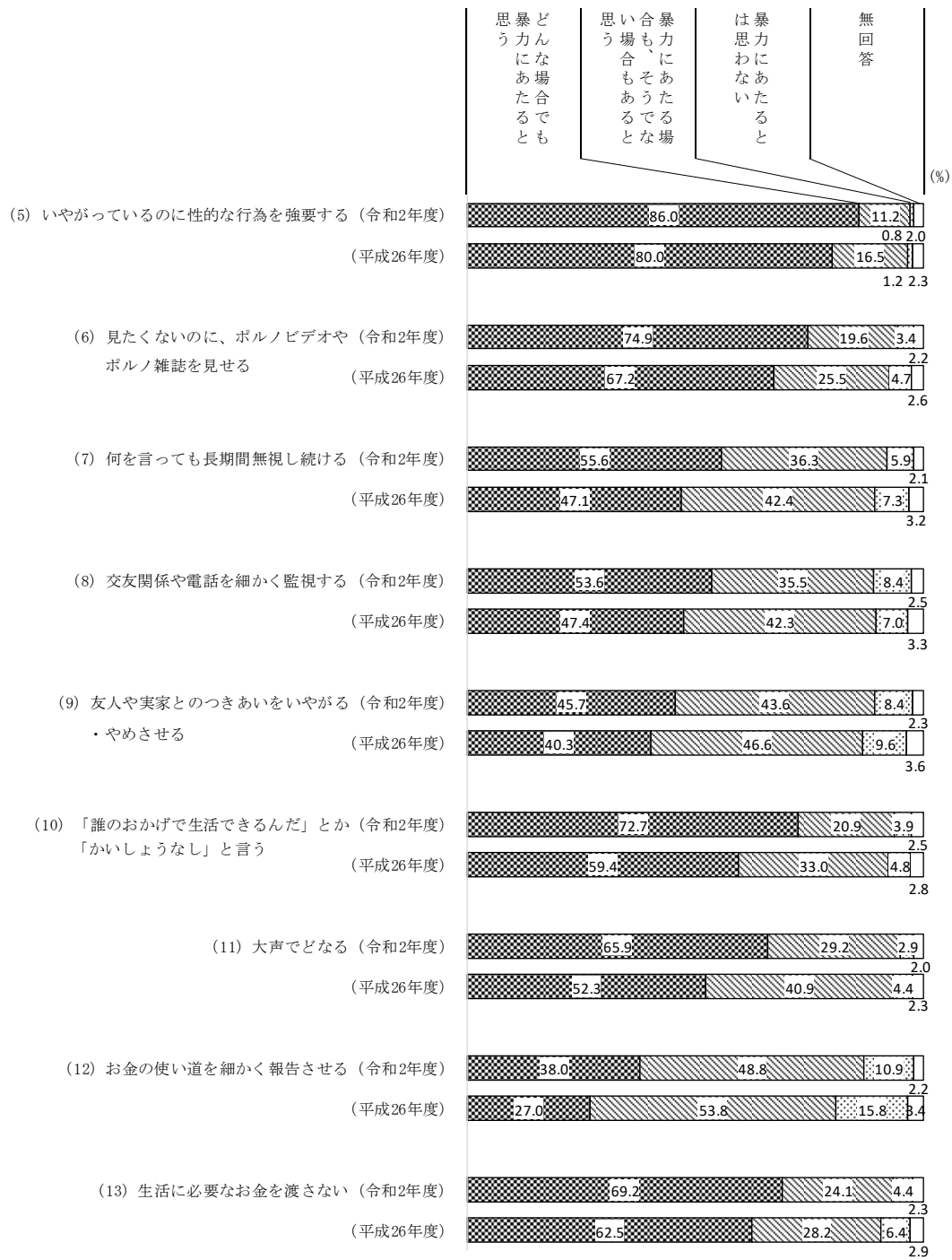
「どんな場合でも暴力にあたる」は「身体を傷つける可能性のある物でなぐる(96.4%)」、「刃物などを突きつけて、おどす(96.2%)」が高い。一方、「暴力にあたるとは思わない」は、「お金の使い道を細かく報告させる(10.9%)」が高くなっている。

平成26年度と比較すると、全ての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が増加した。

【図表 6-1 参照】

図表 6-1 暴力と考えるか(全体)





問6（1）平手で打つ、足でける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割超で、特に50歳代・60歳代が9割台と高い。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（87.4%）が男性（86.6%）をやや上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は60歳代（91.0%）が最も高く、全体（86.9%）を4.1ポイント上回っている。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし（89.6%）が経験あり（86.2%）を3.4ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対（90.8%）が賛成（80.6%）を10.2ポイント上回っている。

【図表 6-2 参照】

図表 6-2 平手で打つ、足でける（属性別）

		回答数	あど んな 場合 でも 暴力に あ た る と 思 う	とそ 暴 力 に あ た る 場 合 も あ る と 思 う で な い 場 合 も あ る	な 暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答
全体		895	86.9	10.8	0.1	2.1
性別	女性	516	87.4	9.7	0.0	2.9
	男性	372	86.6	12.1	0.3	1.1
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	74.3	25.7	0.0	0.0
	30歳代	107	87.9	11.2	0.9	0.0
	40歳代	151	88.7	9.9	0.0	1.3
	50歳代	149	90.6	7.4	0.0	2.0
	60歳代	156	91.0	8.3	0.0	0.6
	70歳代以上	252	84.9	9.9	0.0	5.2
DV被害	経験あり	224	86.2	12.9	0.0	0.9
	経験なし	579	89.6	9.3	0.0	1.0
性別役割分担	賛成	294	80.6	16.3	0.3	2.7
	反対	498	90.8	7.8	0.0	1.4

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以下下回った項目

(2) 身体を傷つける可能性のある物でなく

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割超。全ての性別・年代で9割を超えている。

性別でみると、全てで「どんな場合でも暴力にあたると思う」が90%超となっている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は30歳代では100%となっている。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験あり・なしともに97%を超え同水準である。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、反対(98.4%)が賛成(93.5%)を4.9ポイント上回っている。

【図表 6-3 参照】

図表 6-3 身体を傷つける可能性のある物でなく(属性別)
(%)

		回答数	あど たんな 場合 でも 暴力に	とそ暴 思う力 うでに ないあ いた る場 合も ある	な暴 い力 にあ たると は思 わ	無 回 答
全体		895	96.4	1.2	0.2	2.1
性別	女性	516	95.9	1.2	0.0	2.9
	男性	372	97.0	1.3	0.5	1.1
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	97.3	2.7	0.0	0.0
	30歳代	107	100.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	151	98.0	0.7	0.0	1.3
	50歳代	149	98.0	0.7	0.0	1.3
	60歳代	156	98.1	1.3	0.0	0.6
	70歳代以上	252	92.1	2.0	0.4	5.6
DV被害	経験あり	224	97.3	1.3	0.9	0.4
	経験なし	579	97.8	1.2	0.0	1.0
性別 役割 分担	賛成	294	93.5	2.7	0.7	3.1
	反対	498	98.4	0.4	0.0	1.2

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以下下回った項目

(3) なぐるふりをして、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割超。70歳代以上は5割以上と低い。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性(70.9%)が男性(64.8%)を6.1ポイント上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は50歳代(76.5%)が最も高い。一方、70歳代以上(54.8%)は全体(68.0%)を13.2ポイント下回り、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が34.1%である。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし(73.2%)が経験あり(57.6%)を15.6ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対(74.9%)が賛成(58.5%)を16.4ポイント上回っている。

【図表 6-4 参照】

図表 6-4 なぐるふりをして、おどす(属性別)

		回答数	あど たんな 場合 でも 暴力に	とそ 思う でな いあ たる 場合 もある	な暴 力に あた ると は思 わ	無 回 答
全体		895	68.0	27.3	2.6	2.1
性別	女性	516	70.9	24.0	2.3	2.7
	男性	372	64.8	31.5	2.7	1.1
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	74.3	24.3	1.4	0.0
	30歳代	107	77.6	21.5	0.9	0.0
	40歳代	151	72.2	24.5	2.0	1.3
	50歳代	149	76.5	21.5	1.3	0.7
	60歳代	156	70.5	28.2	0.6	0.6
	70歳代以上	252	54.8	34.1	5.6	5.6
DV 被害	経験あり	224	57.6	38.8	3.1	0.4
	経験なし	579	73.2	23.3	2.4	1.0
性別 役割 分担	賛成	294	58.5	34.7	3.7	3.1
	反対	498	74.9	22.3	1.8	1.0

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(4) 刃物などを突きつけて、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割超。全ての性別・年代で9割を超えている。

性別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性(96.1%)・男性(96.5%)ともに96%を超え、同水準である。

年代別でも、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が90%以上だが、70歳代以上(90.9%)は全体(96.2%)を5.3ポイント下回っている。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし(97.9%)が経験あり(95.5%)をやや上回っている。

性別役割分担賛成・反対別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対(98.2%)が賛成(93.9%)をやや上回っている。

【図表 6-5 参照】

図表 6-5 刃物などを突きつけて、おどす(属性別)

			あど たんな 場合 でも 暴力に	とそ 暴 力に あ た る 場 合 も あ る	な 暴 力に あ た る と は 思 わ	無 回 答
		回答数				
全体		895	96.2	1.8	0.2	1.8
性別	女性	516	96.1	1.6	0.0	2.3
	男性	372	96.5	1.9	0.5	1.1
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	100.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	107	99.1	0.9	0.0	0.0
	40歳代	151	97.4	1.3	0.0	1.3
	50歳代	149	98.0	1.3	0.0	0.7
	60歳代	156	98.7	0.6	0.0	0.6
	70歳代以上	252	90.9	3.6	0.8	4.8
DV被害	経験あり	224	95.5	4.0	0.4	0.0
	経験なし	579	97.9	1.2	0.2	0.7
性別役割分担	賛成	294	93.9	3.1	0.3	2.7
	反対	498	98.2	0.8	0.2	0.8

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以下下回った項目

(5) いやがっているのに性的な行為を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割超。20～50歳代は9割台と高い。

性別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性(86.6%)・男性(85.8%)とも85%を超え同水準である。

年代別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は20歳代(95.9%)が最も多く、30歳代(91.6%)、50歳代(91.3%)が続いた。一方、70歳代以上は76.6%と低い。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし(88.8%)が経験あり(81.3%)を7.5ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別で見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対(90.6%)が賛成(79.3%)を11.3ポイント上回っている。

【図表 6-6 参照】

図表 6-6 いやがっているのに性的な行為を強要する(属性別)
(%)

		回答数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		895	86.0	11.2	0.8	2.0
性別	女性	516	86.6	10.3	0.6	2.5
	男性	372	85.8	11.8	1.1	1.3
	その他	2	100.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	95.9	4.1	0.0	0.0
	30歳代	107	91.6	8.4	0.0	0.0
	40歳代	151	90.1	8.6	0.0	1.3
	50歳代	149	91.3	8.1	0.0	0.7
	60歳代	156	86.5	12.2	0.6	0.6
	70歳代以上	252	76.6	15.9	2.0	5.6
DV被害	経験あり	224	81.3	16.5	1.8	0.4
	経験なし	579	88.8	9.8	0.5	0.9
性別役割分担	賛成	294	79.3	17.0	1.4	2.4
	反対	498	90.6	7.6	0.6	1.2

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以下上回った項目

(6) 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上。特に20歳代・50歳代は8割以上と高い。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性(75.8%)が男性(74.2%)をやや上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は50歳代(82.6%)が最も高い。一方、70歳代以上(63.5%)は全体(74.9%)を11.4ポイント下回っている。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし(77.7%)が経験あり(69.2%)を8.5ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対(80.1%)が賛成(65.6%)を14.5ポイント上回っている。

【図表 6-7 参照】

図表 6-7 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる (属性別)
(%)

		回答数	あんな場合でも暴力にあたると思う	そうでもない場合もある、暴力にあたる場合もある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		895	74.9	19.6	3.4	2.2
性別	女性	516	75.8	19.4	2.5	2.3
	男性	372	74.2	19.4	4.3	2.2
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	81.1	18.9	0.0	0.0
	30歳代	107	77.6	17.8	4.7	0.0
	40歳代	151	79.5	17.9	1.3	1.3
	50歳代	149	82.6	14.8	2.0	0.7
	60歳代	156	78.8	17.3	3.2	0.6
	70歳代以上	252	63.5	24.6	5.6	6.3
DV被害	経験あり	224	69.2	26.8	3.6	0.4
	経験なし	579	77.7	18.0	3.1	1.2
性別役割分担	賛成	294	65.6	26.5	4.8	3.1
	反対	498	80.1	15.9	2.8	1.2

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(7) 何を言っても長期間無視し続ける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割超。特に40歳代・50歳代は6割以上と高い。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性(59.1%)が男性(51.6%)を7.5ポイント上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、40歳代(64.2%)が最も高く、50歳代(63.8%)が続いた。20歳代は「どんな場合でも暴力にあたると思う」と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が同じ数値となっている。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし(60.3%)が経験あり(50.0%)を10.3ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対(62.2%)が賛成(44.2%)を18.0ポイント上回っている。賛成は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う(44.9%)」が「どんな場合でも暴力にあたると思う(44.2%)」を上回っている。

【図表 6-8 参照】

図表 6-8 何を言っても長期間無視し続ける(属性別)

		回答数	あんな場合でも暴力にあたると思う	と暴力にあたる場合もある、そうでない場合もある	ない暴力にあたるとは思わ	無回答
全体		895	55.6	36.3	5.9	2.1
性別	女性	516	59.1	32.8	5.6	2.5
	男性	372	51.6	40.3	6.5	1.6
	その他	2	0.0	100.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	48.6	48.6	2.7	0.0
	30歳代	107	57.0	37.4	5.6	0.0
	40歳代	151	64.2	29.8	4.6	1.3
	50歳代	149	63.8	28.9	6.7	0.7
	60歳代	156	56.4	35.3	7.1	1.3
	70歳代以上	252	47.2	40.5	6.7	5.6
DV被害	経験あり	224	50.0	42.9	6.3	0.9
	経験なし	579	60.3	32.5	6.4	0.9
性別役割分担	賛成	294	44.2	44.9	8.2	2.7
	反対	498	62.2	32.1	4.4	1.2

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(8) 交友関係や電話を細かく監視する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割以上。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性(55.6%)が男性(51.1%)をやや上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、60歳代(60.3%)が最も多く、50歳代(59.7%)が続いた。30歳代は「どんな場合でも暴力にあたると思う」と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が同じ数値となっている。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし(58.2%)が経験あり(43.8%)を14.4ポイント上回っている。経験ありは「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う(46.4%)」が「どんな場合でも暴力にあたると思う(43.8%)」を上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対(61.4%)が賛成(40.8%)を20.6ポイント上回っている。賛成は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う(44.2%)」が「どんな場合でも暴力にあたると思う(40.8%)」を上回っている。

【図表 6-9 参照】

図表 6-9 交友関係や電話を細かく監視する (属性別)
(%)

		回答数	あんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		895	53.6	35.5	8.4	2.5
性別	女性	516	55.6	34.5	7.0	2.9
	男性	372	51.1	37.4	9.7	1.9
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	54.1	40.5	5.4	0.0
	30歳代	107	45.8	45.8	8.4	0.0
	40歳代	151	53.0	37.7	7.3	2.0
	50歳代	149	59.7	30.9	8.7	0.7
	60歳代	156	60.3	32.7	5.8	1.3
	70歳代以上	252	50.4	32.9	10.3	6.3
DV被害	経験あり	224	43.8	46.4	8.9	0.9
	経験なし	579	58.2	31.4	9.0	1.4
性別役割分担	賛成	294	40.8	44.2	12.2	2.7
	反対	498	61.4	30.9	5.8	1.8

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
■ は「全体」の水準を5ポイント以下下回った項目

(9) 友人や実家とのつきあいをいやがる・やめさせる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」がともに4割台。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性(49.6%)が男性(40.6%)を9.0ポイント上回っている。男性は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う(46.5%)」が「どんな場合でも暴力にあたると思う(40.6%)」を上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、40歳代(53.6%)が最も高い。30歳代と70歳代以上は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が「どんな場合でも暴力にあたると思う」を上回っている。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし(49.4%)が経験あり(38.8%)を10.6ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対(51.8%)が賛成(36.7%)を15.1ポイント上回っている。賛成は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う(47.6%)」が「どんな場合でも暴力にあたると思う(36.7%)」を上回っている。

【図表 6-10 参照】

図表 6-10 友人や実家とのつきあいをいやがる・やめさせる(属性別)

		回答数	あんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		895	45.7	43.6	8.4	2.3
性別	女性	516	49.6	41.5	6.4	2.5
	男性	372	40.6	46.5	10.8	2.2
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	51.4	45.9	2.7	0.0
	30歳代	107	43.0	46.7	10.3	0.0
	40歳代	151	53.6	37.1	7.9	1.3
	50歳代	149	45.6	45.0	8.7	0.7
	60歳代	156	48.7	42.9	6.4	1.9
	70歳代以上	252	39.3	44.8	9.9	6.0
DV被害	経験あり	224	38.8	51.3	8.9	0.9
	経験なし	579	49.4	40.6	8.8	1.2
性別役割分担	賛成	294	36.7	47.6	12.6	3.1
	反対	498	51.8	41.6	5.2	1.4

※ 黒色は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
灰色は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(10) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上。特に20歳代は8割以上と高い。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性(78.7%)が男性(65.1%)を13.6ポイント上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は20歳代(82.4%)が最も高い。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし(74.8%)が経験あり(69.2%)を5.6ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対(80.1%)が賛成(62.2%)を17.9ポイント上回っている。

【図表 6-11 参照】

図表 6-11 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う(属性別)

			(%)			
		回答数	あど たんな 場合 でも 暴力に	とそ 思う でな いあ たる 場合 もあ る	な暴 力に あた ると は思 わ	無 回 答
全体		895	72.7	20.9	3.9	2.5
性別	女性	516	78.7	16.3	2.1	2.9
	男性	372	65.1	26.9	6.2	1.9
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	82.4	17.6	0.0	0.0
	30歳代	107	75.7	23.4	0.9	0.0
	40歳代	151	74.8	19.2	4.6	1.3
	50歳代	149	72.5	20.1	6.0	1.3
	60歳代	156	73.1	21.2	4.5	1.3
	70歳代以上	252	68.3	21.4	4.0	6.3
DV被害	経験あり	224	69.2	25.4	4.0	1.3
	経験なし	579	74.8	19.7	4.3	1.2
性別役割分担	賛成	294	62.2	27.2	7.1	3.4
	反対	498	80.1	16.3	2.2	1.4

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(11) 大声でどなる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割超。特に30歳代・60歳代は7割台と高い。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性（69.6%）が男性（61.6%）を8.0ポイント上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は30歳代（78.5%）が最も高く、60歳代（72.4%）が続いた。一方、70歳代以上（54.8%）は全体（65.9%）を11.1ポイント下回っている。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし（69.3%）が経験あり（60.3%）を9.0ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対（74.1%）が賛成（54.4%）を19.7ポイント上回っている。

【図表 6-12 参照】

図表 6-12 大声でどなる（属性別）

		回答数	あ ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と 思 う	と そ う で な い 場 合 も あ る	な 暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答
全体		895	65.9	29.2	2.9	2.0
性別	女性	516	69.6	25.0	2.7	2.7
	男性	372	61.6	34.7	2.7	1.1
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	63.5	35.1	1.4	0.0
	30歳代	107	78.5	21.5	0.0	0.0
	40歳代	151	68.9	27.8	2.0	1.3
	50歳代	149	69.1	24.8	4.7	1.3
	60歳代	156	72.4	24.4	2.6	0.6
	70歳代以上	252	54.8	36.5	3.6	5.2
DV被害	経験あり	224	60.3	35.7	4.0	0.0
	経験なし	579	69.3	27.1	2.6	1.0
性別役割分担	賛成	294	54.4	38.8	4.1	2.7
	反対	498	74.1	22.7	2.2	1.0

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(12) お金の使い道を細かく報告させる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」は4割弱。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は女性（43.2%）が男性（30.9%）を12.3ポイント上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は60歳代（42.3%）が最も高く、40歳代（41.1%）が続いた。



DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし（42.3%）が経験あり（30.4%）を11.9ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、反対（44.2%）が賛成（26.5%）を17.7ポイント上回っている。

【図表 6-13 参照】

図表 6-13 お金の使い道を細かく報告させる（属性別）

		回答数	あ ど ん な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と 思 う	と そ 暴 力 に あ た る 場 合 も あ る と 思 う で な い 場 合 も あ る	な 暴 力 に あ た る と は 思 わ ない	無 回 答
全体		895	38.0	48.8	10.9	2.2
性別	女性	516	43.2	45.5	8.7	2.5
	男性	372	30.9	53.8	13.4	1.9
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	29.7	63.5	6.8	0.0
	30歳代	107	32.7	57.0	10.3	0.0
	40歳代	151	41.1	47.7	9.9	1.3
	50歳代	149	39.6	47.0	12.1	1.3
	60歳代	156	42.3	48.1	9.0	0.6
	70歳代以上	252	37.7	43.7	12.7	6.0
DV被害	経験あり	224	30.4	57.6	11.6	0.4
	経験なし	579	42.3	45.1	11.4	1.2
性別役割分担	賛成	294	26.5	56.1	14.6	2.7
	反対	498	44.2	46.0	8.4	1.4

※  は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(13) 生活に必要なお金を渡さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」は7割弱。

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は、女性（73.4%）が男性（63.7%）を9.7ポイント上回っている。

年代別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は60歳代（76.3%）で最も高く、20歳代（75.7%）が続いた。

DV経験別では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は経験なし（72.0%）が経験あり（64.7%）を7.3ポイント上回っている。

性別役割分担賛成・反対別でみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は反対（76.3%）が賛成（59.5%）を16.8ポイント上回っている。

【図表 6-14 参照】

図表 6-14 生活に必要なお金を渡さない（属性別）

		回答数	あど たんな るな 場合 でも 暴力に	とそ 暴 力に あ た る 場 合 も あ る	な 暴 力に あ た る と は 思 わ	無 回 答
全体		895	69.2	24.1	4.4	2.3
性別	女性	516	73.4	20.7	3.3	2.5
	男性	372	63.7	28.8	5.6	1.9
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	75.7	23.0	1.4	0.0
	30歳代	107	72.0	24.3	3.7	0.0
	40歳代	151	72.8	22.5	3.3	1.3
	50歳代	149	63.1	30.2	5.4	1.3
	60歳代	156	76.3	19.2	3.2	1.3
	70歳代以上	252	64.3	24.6	5.6	5.6
DV被害	経験あり	224	64.7	30.4	4.0	0.9
	経験なし	579	72.0	21.9	4.8	1.2
性別役割分担	賛成	294	59.5	31.3	6.1	3.1
	反対	498	76.3	19.1	3.2	1.4

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

3. 配偶者等による暴力被害の実態

(1) 配偶者等の有無

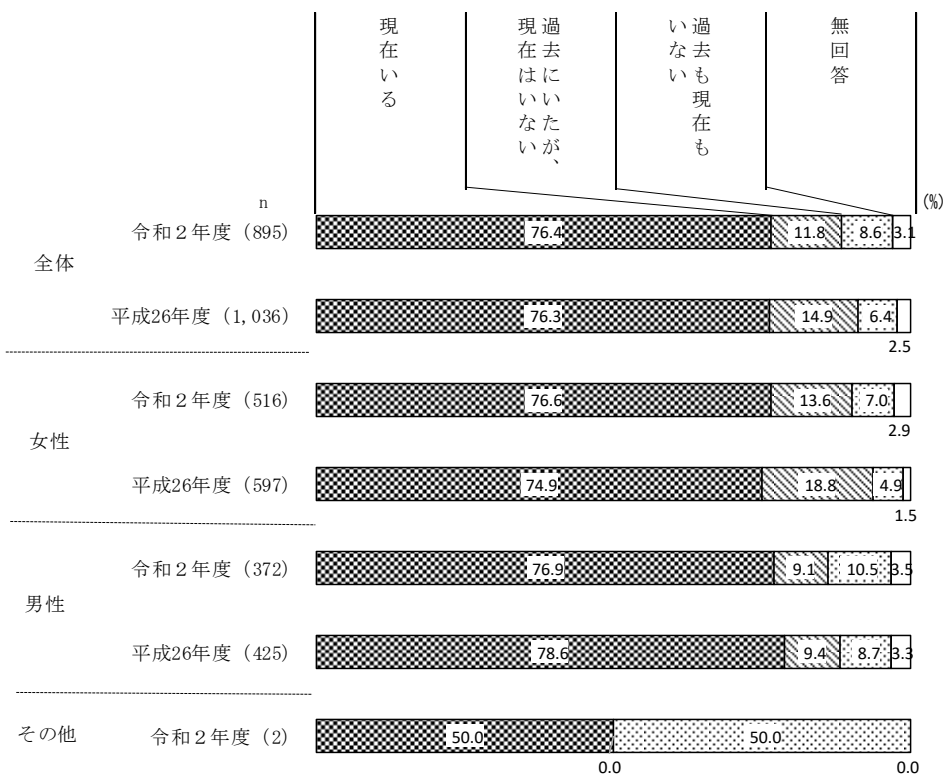
問7 あなたには、配偶者やパートナーはいますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

「配偶者がいる」は女性・男性で7割超である。

配偶者やパートナーが「現在いる（76.4%）」が最も多く、平成26年度と同水準であった。性別で見ると、「現在いる」は女性（76.6%）と男性（76.9%）が同水準。「過去にいたが現在はいない」は女性（13.6%）が男性（9.1%）を上回っている。

【図表 7-1 参照】

図表 7-1 配偶者の有無（全体・性別）



(2) 暴力をふるわれた経験

【問7で「1」または「2」に○をつけた方におたずねいたします。】

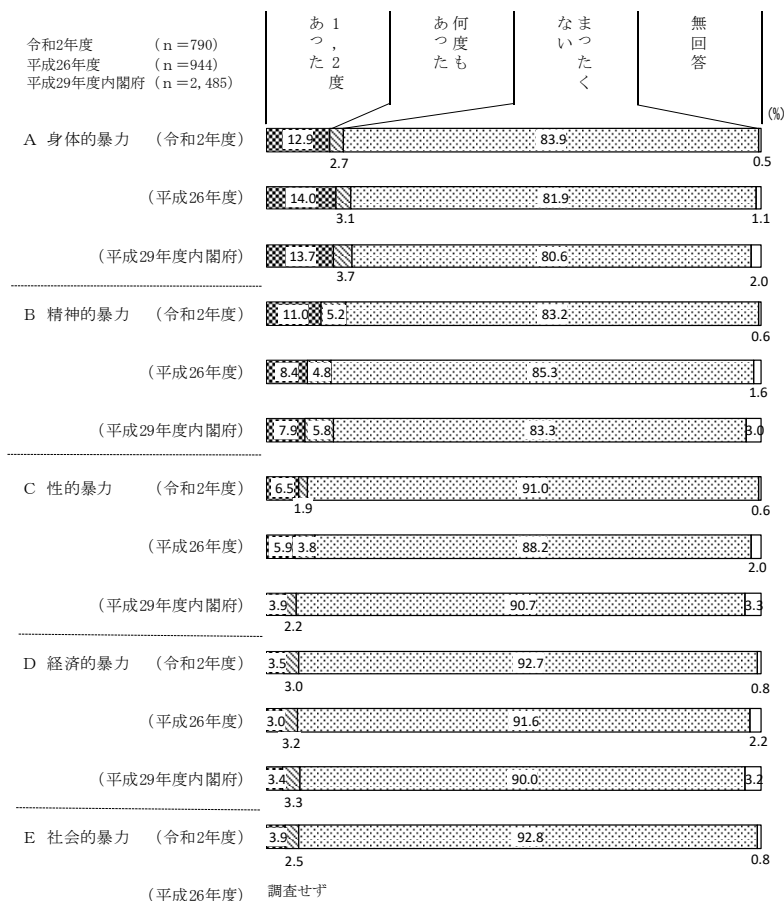
問8 あなたはこれまでに、配偶者やパートナーから次のようなことをされたことがありますか。AからEのそれぞれについて、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

配偶者からの暴力は「まったくない」が8割以上。受けた暴力は「精神的暴力」が最も多い。

配偶者等からの『暴力があった』（「1、2度あった」と「何度もあった」の合計）は、「精神的暴力（16.2%）」が最も多く、「身体的暴力（15.6%）」、「性的暴力（8.4%）」が続いた。『暴力があった』を平成26年度と比較すると、増加したのは「精神的暴力（3.0ポイント）」、「経済的暴力（0.3ポイント）」で、減少したのは「身体的暴力（1.5ポイント）」、「性的暴力（1.3ポイント）」であった。平成29年度内閣府と比較すると、『暴力があった』は「精神的暴力」と「性的暴力」で国の水準を上回った。

【図表 8-1 参照】

図表 8-1 暴力をふるわれた経験（全体）



※平成29年度内閣府では、身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要という項目で調査している

A 身体的暴力

（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた）

暴力の経験がある人は、女性が男性より高く、年代の差はあまりない。

性別でみると、『暴力があった』は、女性（18.5%）が男性（11.3%）を7.2ポイント上回っている。

年代別でみると、『暴力があった』は、50歳代が19.3%と最も高く、70歳代以上が12.9%と最も低かった。

【図表 8-2 参照】

図表 8-2 身体的暴力の経験（属性別）

(%)

	回答数	暴力があった	暴力があった		全くない	無回答	
			あ1つ、た2度	あ何つ度とも			
全体	790	15.6	12.9	2.7	83.9	0.5	
性別	女性	465	18.5	14.8	3.7	80.9	0.6
	男性	320	11.3	10.0	1.3	88.8	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年代	20歳代	43	14.0	11.6	2.3	86.0	0.0
	30歳代	92	13.0	9.8	3.3	87.0	0.0
	40歳代	136	15.4	12.5	2.9	84.6	0.0
	50歳代	135	19.3	16.3	3.0	80.7	0.0
	60歳代	146	18.5	14.4	4.1	80.8	0.7
	70歳代以上	232	12.9	11.6	1.3	86.2	0.9
平成29年度内閣府	2,485	17.4	13.7	3.7	80.6	2.0	

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目（回答数が1先を除く）

B 精神的暴力

〔人格を否定するような暴言、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた〕

暴力の経験がある人は、女性が男性より高く、40歳代・50歳代が2割台と高い。

性別でみると、『暴力があった』は、女性（18.7%）が男性（12.8%）を5.9ポイント上回っている。

年代別でみると、『暴力があった』は、40歳代が22.1%と最も高く、30歳代以上が8.7%と最も低かった。

【図表 8-3 参照】

図表 8-3 精神的暴力の経験（属性別）

(%)

		回答数	暴力があった	暴力があった		全くない	無回答
				あつた1度	あつた2度も		
全体		790	16.2	11.0	5.2	83.2	0.6
性別	女性	465	18.7	11.8	6.9	80.4	0.9
	男性	320	12.8	10.0	2.8	87.2	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年代	20歳代	43	14.0	11.6	2.3	86.0	0.0
	30歳代	92	8.7	5.4	3.3	91.3	0.0
	40歳代	136	22.1	15.4	6.6	77.9	0.0
	50歳代	135	20.0	14.1	5.9	80.0	0.0
	60歳代	146	18.5	11.6	6.8	80.8	0.7
	70歳代以上	232	12.9	8.6	4.3	85.8	1.3
平成29年度内閣府		2,485	13.7	7.9	5.8	83.3	3.0

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目（回答数が1先を除く）

C 性的暴力

〔いやがっているのに性的な行為を強要された〕

暴力の経験がある人は、女性が男性より約1割高い。

性別でみると、『暴力があった』は、女性（12.5%）が男性（2.2%）を10.3ポイント上回っている。

年代別でみると、『暴力があった』は、60歳代が11.0%と最も高く、20歳代が0.0%と最も低かった。

【図表 8-4 参照】

図表 8-4 性的暴力の経験（属性別）

(%)

		回答数	暴力があった	暴力があった		全くない	無回答
				あ1つ、た2度	あ何つ度たも		
全体		790	8.4	6.5	1.9	91.0	0.6
性別	女性	465	12.5	9.7	2.8	86.7	0.9
	男性	320	2.2	1.6	0.6	97.8	0.0
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年代	20歳代	43	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	30歳代	92	2.2	1.1	1.1	97.8	0.0
	40歳代	136	10.3	9.6	0.7	89.7	0.0
	50歳代	135	8.1	4.4	3.7	91.9	0.0
	60歳代	146	11.0	9.6	1.4	88.4	0.7
	70歳代以上	232	9.5	6.9	2.6	89.2	1.3
平成29年度内閣府		2,485	6.1	3.9	2.2	90.7	3.3

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、

■ は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目（回答数が1先を除く）

D 経済的暴力

（お金の使い道を細かく報告させる、生活に必要なお金を渡さないなどの行為を受けた）

暴力の経験がある人は、1割弱で「全くない」が9割以上。女性が男性より高かった。

性別でみると、『暴力があった』は、女性（8.0%）が男性（4.4%）を3.6ポイント上回っている。

年代別でみると、『暴力があった』は、50歳代が8.9%と最も高く、30歳代と70歳代以上が4.3%と最も低かった。

【図表 8-5 参照】

図表 8-5 経済的暴力の経験（属性別）

(%)

	回答数	暴力があった	あ1つ、 た2度	あ何 つ度 たも	全くない	無回答	
全体	790	6.5	3.5	3.0	92.7	0.8	
性別	女性	465	8.0	3.9	4.1	91.2	0.9
	男性	320	4.4	2.8	1.6	95.3	0.3
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年代	20歳代	43	4.7	2.3	2.3	95.3	0.0
	30歳代	92	4.3	1.1	3.3	95.7	0.0
	40歳代	136	8.8	4.4	4.4	91.2	0.0
	50歳代	135	8.9	4.4	4.4	91.1	0.0
	60歳代	146	6.8	5.5	1.4	91.8	1.4
	70歳代以上	232	4.3	2.2	2.2	94.4	1.3
平成29年度内閣府	2,485	6.7	3.4	3.3	90.0	3.2	

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、

は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目（回答数が1先を除く）

E 社会的暴力

交友関係を細かく監視・制限する、電話やメールを細かくチェックするなどの行為を受けた

暴力の経験がある人は、1割弱で「全くない」が9割以上。女性が男性より高かった。

性別で見ると、『暴力があった』は、女性（6.9%）が男性（5.9%）を1.0ポイント上回っている。

年代別で見ると、『暴力があった』は、60歳代が8.2%と最も高く、70歳代以上が4.7%と最も低かった。

【図表 8-6 参照】

図表 8-6 社会的暴力の経験（属性別）

(%)

	回答数	暴力があった	暴力があった		全くない	無回答	
			あ1つ、 た2度	あ何 つ度 たも			
全体	790	6.4	3.9	2.5	92.8	0.8	
性別	女性	465	6.9	3.9	3.0	92.3	0.9
	男性	320	5.9	4.1	1.9	93.8	0.3
	その他	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
年代	20歳代	43	7.0	7.0	0.0	93.0	0.0
	30歳代	92	6.5	1.1	5.4	93.5	0.0
	40歳代	136	5.9	2.9	2.9	94.1	0.0
	50歳代	135	7.4	5.2	2.2	92.6	0.0
	60歳代	146	8.2	8.2	0.0	91.1	0.7
	70歳代以上	232	4.7	1.7	3.0	93.5	1.7

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目（回答数が1先を除く）

(3) 暴力をふるわれた時の行動

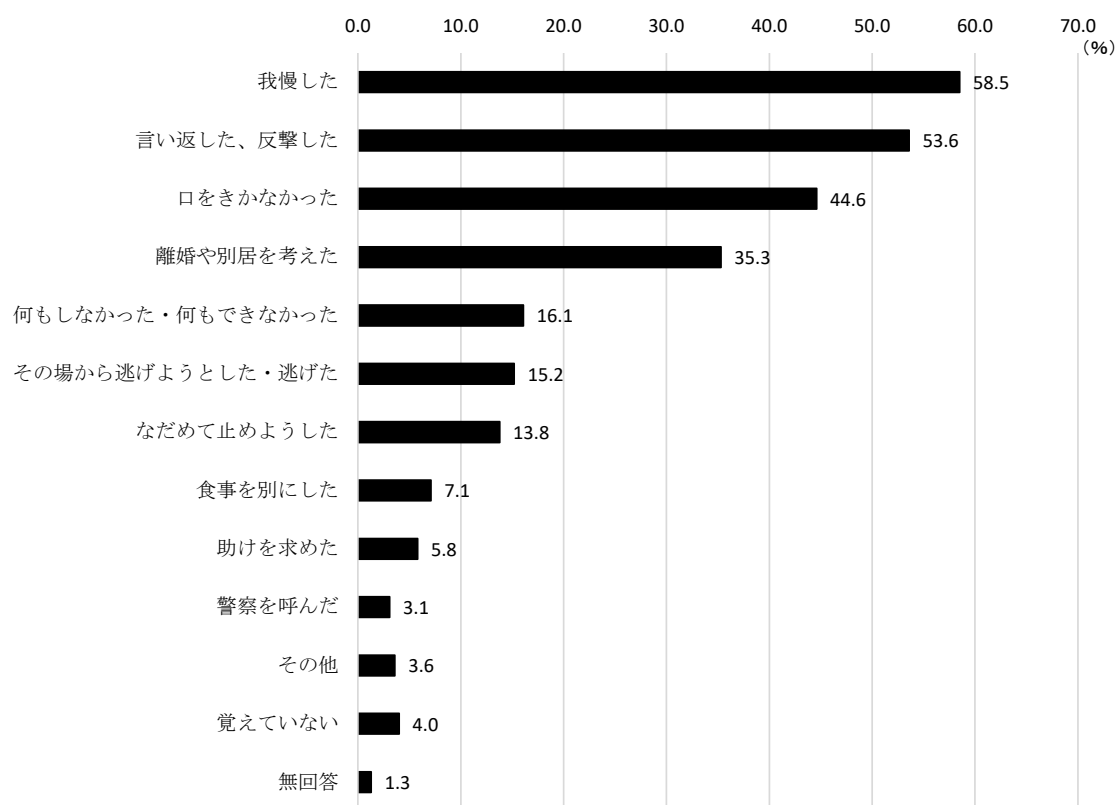
問9 問8のような行為を受けたとき、あなたはどうしましたか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

暴力をふるわれた時の対応は「我慢した」が男女ともに最も多い。

「我慢した（58.5%）」が最も高く、「言い返した、反撃した（53.6%）」、「口をきかなかった（44.6%）」が続いた。

【図表 9-1 参照】

図表 9-1 暴力行為を受けた時の対応（全体）



複数回答 (n=224)

性別で見ると、「我慢した」は男性（60.8%）が女性（57.4%）を3.4ポイント上回っている。男性と女性の差が大きい項目は、「なだめて止めようとした（男性が26.4ポイント高い）」、「口をきかなかった（女性が19.0ポイント高い）」、「離婚や別居を考えた（女性が12.9ポイント高い）」となっている。

年代別にみると、「我慢した」は50歳代（65.8%）、「言い返した、反撃した」は20歳代（72.7%）、「口をきかなかった」は60歳代（54.2%）で最も多い。

【図表 9-2 参照】

図表 9-2 暴力行為を受けた時の対応（属性別）

		(%)													
		回答数	我慢した	言い返した、反撃した	口をきかなかった	離婚や別居を考えた	何もしなかった・何もできなかった	その場から逃げようとした・逃げた	なだめて止めようとした	食事を別にした	助けを求めた	警察を呼んだ	その他	覚えていない	無回答
全体		224	58.5	53.6	44.6	35.3	16.1	15.2	13.8	7.1	5.8	3.1	3.6	4.0	1.3
性別	女性	148	57.4	54.7	51.4	39.9	15.5	16.9	4.7	6.1	7.4	2.7	4.7	2.0	1.4
	男性	74	60.8	52.7	32.4	27.0	17.6	12.2	31.1	9.5	2.7	4.1	1.4	6.8	0.0
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	11	18.2	72.7	18.2	45.5	9.1	27.3	18.2	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	17	64.7	64.7	23.5	17.6	5.9	5.9	23.5	0.0	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	40歳代	45	57.8	51.1	51.1	40.0	17.8	13.3	13.3	6.7	4.4	8.9	2.2	6.7	2.2
	50歳代	38	65.8	50.0	34.2	47.4	15.8	18.4	7.9	7.9	5.3	2.6	10.5	0.0	2.6
	60歳代	48	56.3	50.0	54.2	41.7	16.7	25.0	12.5	12.5	8.3	4.2	4.2	4.2	0.0
	70歳代以上	62	61.3	54.8	50.0	24.2	17.7	8.1	12.9	6.5	0.0	0.0	1.6	4.8	0.0

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、□ は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目（回答数が0先を除く）

(4) 配偶者から子どもが暴力をふるわれた経験

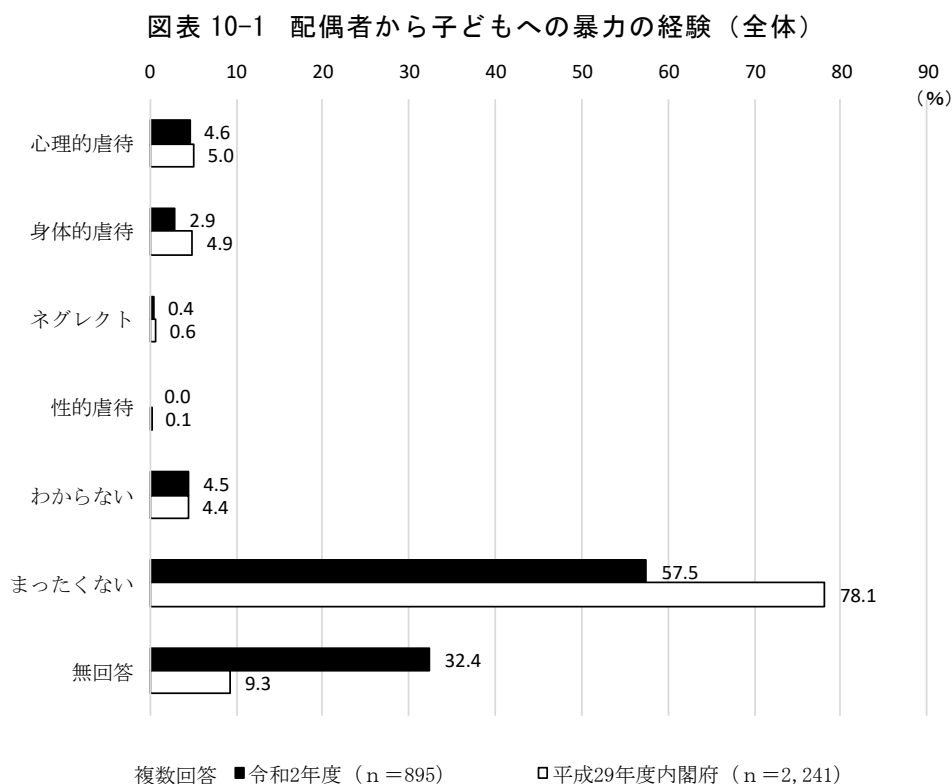
【子どもがいる方におたずねいたします。（子どもがいない方は問 11 へ）】

問 10 あなたの子どもは 18 歳になるまでの間に、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

配偶者から子どもへの暴力は、「まったくない」が 6 割弱。「DV 被害経験あり」が「なし」に比べ、約 2 割高い。

「まったくない (57.5%)」が最も多く、「心理的虐待 (4.6%)」、「身体的虐待 (2.9%)」が続いた。平成 29 年度内閣府と比較すると、虐待・ネグレクトの割合は低くなっている。

【図表 10-1 参照】



身体的虐待	なぐる、ける、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、濡れさせる、首を絞める、縄などにより一室に拘束する、長時間外に放置するなど
心理的虐待	言葉による脅し、無視、兄弟姉妹間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう、兄弟姉妹に虐待行為を行うなど
ネグレクト	家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かないなど
性的虐待	子どもへの性行為、性的行為を見せる、性器を触る又は触らせる、児童ポルノの被写体にするなど

性別でみると、子どもが配偶者から暴力を受けた経験のある人は、女性（10.9%）が男性（4.1%）を6.8ポイント上回っている。

年代別でみると、40歳代が13.9%と最も高く、20歳代が0.0%と最も低かった。

DV被害経験別にみると、経験ありは22.3%で経験なし（3.5%）と比較して18.8ポイント高い。全ての虐待行為において経験ありが経験なしを上回っており、特に心理的虐待が13.4%と高い。

【図表 10-2 参照】

図表 10-2 配偶者から子どもへの暴力の経験（属性別）

(%)

		回答数	暴力を受けた	心理的虐待	身体的虐待	ネグレクト	性的虐待	わからない	まったくくない	無回答・子どもがいない
全体		895	7.9	4.6	2.9	0.4	0.0	4.5	57.5	32.4
性別	女性	516	10.9	6.4	3.9	0.6	0.0	4.5	56.4	31.4
	男性	372	4.1	2.2	1.6	0.3	0.0	4.6	59.4	33.3
	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
年代	20歳代	74	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	16.2	82.4
	30歳代	107	5.6	3.7	1.9	0.0	0.0	2.8	47.7	45.8
	40歳代	151	13.9	7.3	5.3	1.3	0.0	3.3	55.6	33.1
	50歳代	149	11.3	6.0	4.0	1.3	0.0	5.4	60.4	26.8
	60歳代	156	7.1	4.5	2.6	0.0	0.0	4.5	69.9	19.9
	70歳代以上	252	6.4	4.0	2.4	0.0	0.0	6.3	65.5	22.6
DV被害	経験あり	224	22.3	13.4	7.6	1.3	0.0	10.7	55.4	18.3
	経験なし	579	3.5	1.7	1.6	0.2	0.0	2.8	66.7	28.2

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
■ は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(5) 暴力をふるわれた後の心身状態、生活への影響

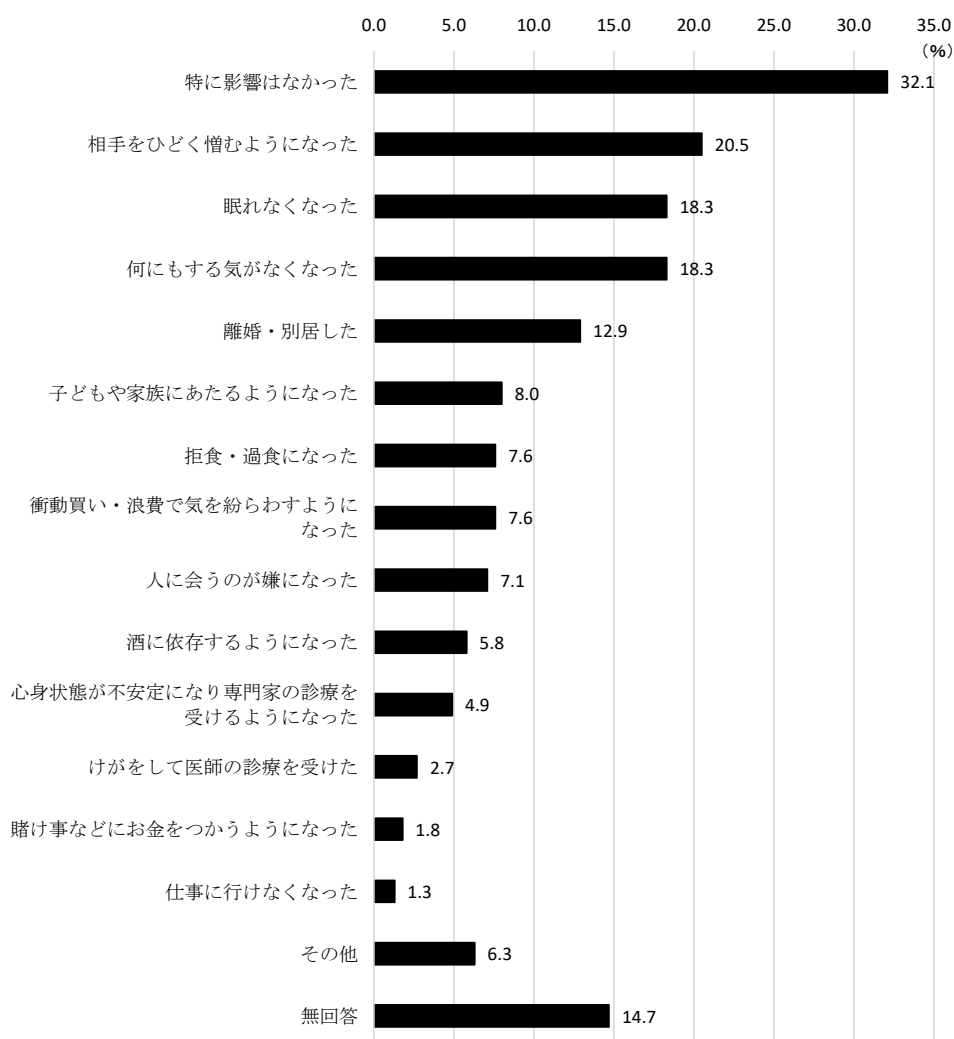
問11 問8のような行為を受けたとき、そのような経験をしたことにより、あなたの心身状態や生活にはどのような影響がありましたか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

「特に影響はなかった」が3割以上、「相手をひどく憎むようになった」が約2割。

「特に影響はなかった（32.1%）」が最も多く、「相手をひどく憎むようになった（20.5%）」、「眠れなくなった（18.3%）」及び「何にもする気がなくなった（18.3%）」が続いた。

【図表 11-1 参照】

図表 11-1 暴力をふるわれた時の影響（全体）



複数回答 (n=224)

性別で見ると、「特に影響はなかった」は男性（39.2%）が女性（28.4%）を10.8ポイント上回っている。また、「相手をひどく憎むようになった」は女性（26.4%）が男性（9.5%）を16.9ポイント上回っている。女性では、「子どもや家族にあたる」「拒食・過食になった」「衝動買い・浪費で気を紛らわす」が10%を超えており、男性では「酒に依存する」が9.5%となっている。

年代別にみると、「特に影響はなかった」は70歳代以上（45.2%）が最も高く、「相手をひどく憎むようになった」は40歳代（33.3%）が最も高い。

【図表 11-2 参照】

図表 11-2 暴力をふるわれた時の影響（属性別）

		回答数	特に影響はなかった	相手をひどく憎むようになった	眠れなくなった	何にもする気がなくなった	離婚・別居した	子どもや家族にあたるようになった	拒食・過食になった	衝動買い・浪費で気を紛らわすようになった
全体		224	32.1	20.5	18.3	18.3	12.9	8.0	7.6	7.6
性別	女性	148	28.4	26.4	20.3	17.6	15.5	11.5	10.8	10.1
	男性	74	39.2	9.5	14.9	20.3	8.1	1.4	1.4	2.7
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	11	27.3	18.2	27.3	45.5	18.2	18.2	18.2	0.0
	30歳代	17	35.3	5.9	11.8	29.4	11.8	5.9	0.0	5.9
	40歳代	45	15.6	33.3	24.4	26.7	20.0	11.1	11.1	15.6
	50歳代	38	28.9	23.7	18.4	13.2	15.8	13.2	13.2	10.5
	60歳代	48	31.3	27.1	14.6	18.8	16.7	8.3	6.3	6.3
	70歳代以上	62	45.2	9.7	17.7	8.1	3.2	1.6	3.2	3.2
		回答数	た人に会うのが嫌になった	酒に依存するようになった	心身状態が不安定になるようになった	けがをして医師の診療を受けた	賭け事などにお金をつかうようになった	仕事に行けなくなった	その他	無回答
全体		224	7.1	5.8	4.9	2.7	1.8	1.3	6.3	14.7
性別	女性	148	8.8	4.1	6.1	3.4	1.4	1.4	8.1	11.5
	男性	74	4.1	9.5	2.7	1.4	2.7	1.4	2.7	20.3
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	11	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1
	30歳代	17	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9
	40歳代	45	11.1	13.3	4.4	2.2	0.0	2.2	4.4	8.9
	50歳代	38	7.9	5.3	10.5	0.0	2.6	2.6	13.2	18.4
	60歳代	48	2.1	6.3	6.3	6.3	4.2	0.0	6.3	10.4
	70歳代以上	62	8.1	1.6	3.2	0.0	1.6	0.0	6.5	22.6

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、■ は「全体」の水準を5ポイント以下下回った項目（回答数が0先を除く）

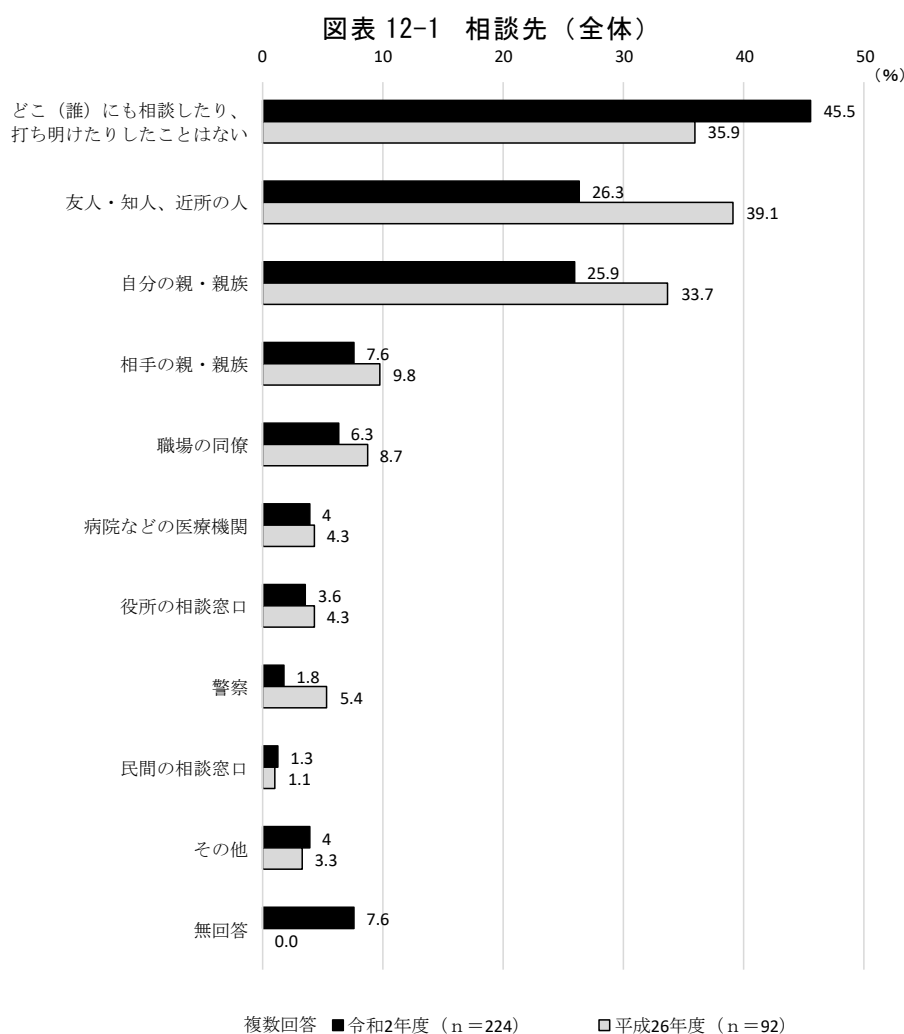
(6) 暴力をふるわれた時の相談先

問 12 あなたは、配偶者やパートナーから受けたそのような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか、その対象としてあてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

女性・男性ともに「どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない」が最も多い。相談先は、「友人・知人、近所の人」、「自分の親・親族」が2割超と多い。

「どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない（45.5%）」が最も高く、「友人・知人、近所の人（26.3%）」、「自分の親・親族（25.9%）」が続いた。平成26年度と比較すると、「どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない」が9.6ポイント増加した。

【図表 12-1 参照】



性別でみると、「どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない」は男性（60.8%）が女性（37.8%）を23.0ポイント上回っている。また、「友人・知人、近所の人」は女性（30.4%）が男性（18.9%）を11.5ポイント上回っている。女性の方が男性より相談をしている。

年代別にみると、「どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない」は50歳代（52.6%）が最も高く、「友人・知人、近所の人」は20歳代（54.5%）が最も高い。

【図表 12-2 参照】

図表 12-2 相談先（属性別）

(%)

		回答数	どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない	友人・知人、近所の人	自分の親・親族	相手の親・親族	職場の同僚	病院などの医療機関	役所の相談窓口	警察	民間の相談窓口	その他	無回答
全体		224	45.5	26.3	25.9	7.6	6.3	4.0	3.6	1.8	1.3	4.0	7.6
性別	女性	148	37.8	30.4	34.5	9.5	8.1	4.7	4.7	2.0	2.0	4.7	6.8
	男性	74	60.8	18.9	9.5	4.1	2.7	2.7	1.4	1.4	0.0	2.7	8.1
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	11	36.4	54.5	45.5	18.2	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代	17	41.2	47.1	23.5	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	5.9	0.0
	40歳代	45	37.8	35.6	22.2	4.4	13.3	4.4	4.4	2.2	4.4	2.2	4.4
	50歳代	38	52.6	18.4	26.3	7.9	7.9	7.9	7.9	5.3	2.6	2.6	0.0
	60歳代	48	41.7	25.0	29.2	8.3	6.3	4.2	2.1	2.1	0.0	10.4	4.2
	70歳代以上	62	51.6	16.1	24.2	8.1	1.6	3.2	0.0	0.0	0.0	1.6	19.4

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、■ は「全体」の水準を5ポイント以下下回った項目（回答数が0先を除く）

(7) 相談しなかった理由

【問 12 で「10」に○をつけた方におたずねいたします。（それ以外を選んだ方は問 14 へ）

問 13 どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

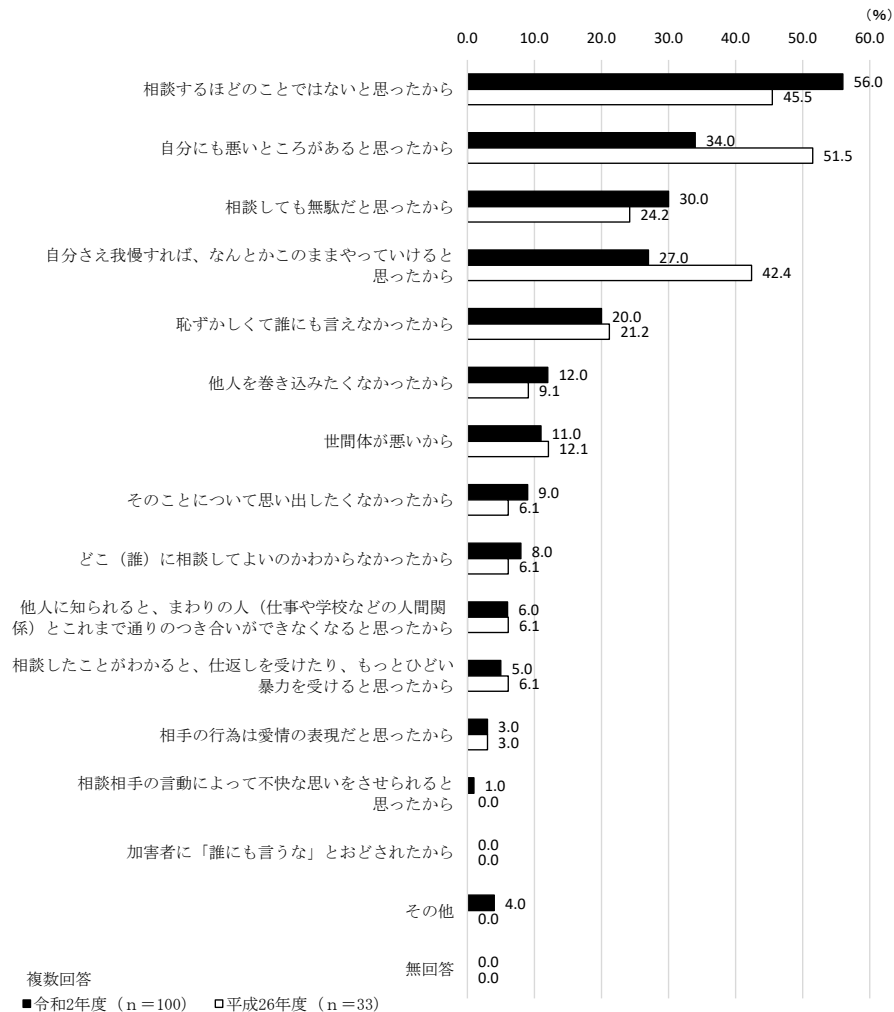
男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多い。

「相談するほどのことではないと思ったから（56.0%）」が最も高く、「自分にも悪いところがあると思ったから（34.0%）」、「相談しても無駄だと思ったから（30.0%）」が続いた。

平成 26 年度と比較すると、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 17.5 ポイント減、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 15.4 ポイント減と、大幅に低下した。

【図表 13-1 参照】

図表 13-1 相談しなかった理由（全体）



性別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」は女性と男性で同水準であった。「自分にも悪いところがあると思ったから」は、男性（46.7%）が女性（22.2%）を24.5ポイント上回っている。「相談しても無駄だと思ったから」は、男性（31.1%）が女性（29.6%）をやや上回っている。「そのことについて思い出したくなかったから」は女性（14.8%）が、男性（2.2%）を12.6ポイント上回っている。

【図表 13-2 参照】

図表 13-2 相談しなかった理由（属性別）

		回答数	は相談するほどのことではないと思ったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談しても無駄だと思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっ	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	他人を巻き込みたくなかったから	世間体が悪いから	そのことについて思い出したくなかったから			
全体		100	56.0	34.0	30.0	27.0	20.0	12.0	11.0	9.0			
性別	女性	54	55.6	22.2	29.6	25.9	24.1	9.3	11.1	14.8			
	男性	45	55.6	46.7	31.1	28.9	15.6	15.6	11.1	2.2			
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
年代	20歳代	4	100.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0			
	30歳代	7	42.9	42.9	14.3	42.9	14.3	42.9	14.3	14.3			
	40歳代	16	43.8	50.0	37.5	43.8	18.8	18.8	18.8	18.8			
	50歳代	19	63.2	31.6	42.1	10.5	26.3	0.0	0.0	5.3			
	60歳代	20	50.0	25.0	35.0	30.0	20.0	15.0	30.0	10.0			
	70歳代以上	32	56.3	31.3	21.9	25.0	18.8	6.3	0.0	6.3			
		回答数	らいどのか（誰）から相談したか	く通りの人間関係（仕事や学校など）	のり人（知れど、まわ	り人（知れど、まわ	るもつとひ返しをわ	相談したことがわ	だ相手の行為は愛情の表現	と不快な思いをさせられる	な加害者におどされたから	その他	無回答
全体		100	8.0	6.0	5.0	3.0	1.0	0.0	4.0	0.0			
性別	女性	54	9.3	9.3	9.3	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0			
	男性	45	6.7	2.2	0.0	2.2	2.2	0.0	4.4	0.0			
	その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
年代	20歳代	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0			
	30歳代	7	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0			
	40歳代	16	6.3	12.5	6.3	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0			
	50歳代	19	5.3	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	60歳代	20	5.0	5.0	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	70歳代以上	32	12.5	3.1	3.1	0.0	3.1	0.0	3.1	0.0			

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、■ は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目（回答数が0先を除く）

(8) 命の危険を感じたことはあるか

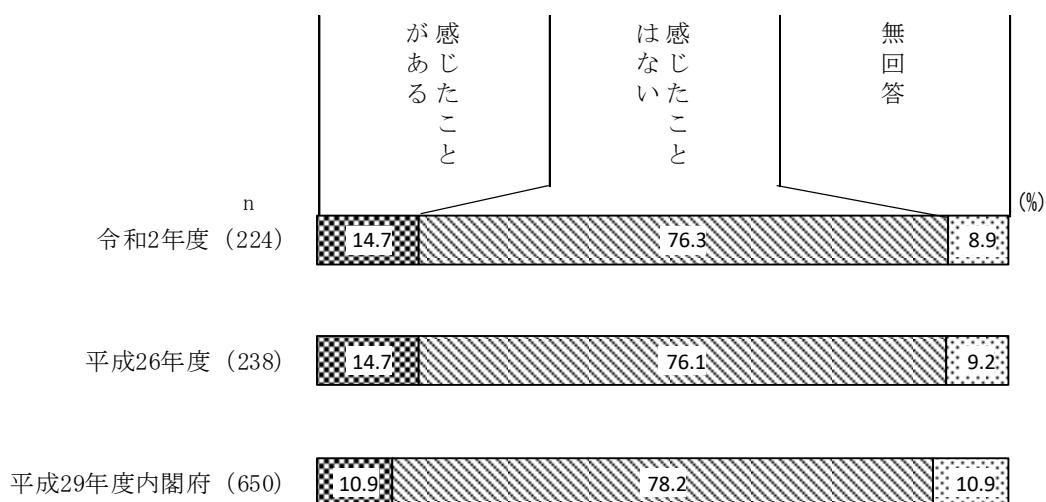
問 14 あなたはこれまでに、あなたの配偶者やパートナーから受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号を 1つ 選んで○をつけてください。

男女とも「感じたことはない」が7割超。「感じたことがある」は、30～50歳代が2割台と高い。

「感じたことはない（76.3%）」が最も多い。「感じたことがある」は平成26年度と同水準（14.7%）だが、平成29年度内閣府の水準より高くなっている。

【図表 14-1 参照】

図表 14-1 命の危険を感じたことはあるか（全体）



性別で見ると、「感じたことがある」は男女で同水準となっている。年代別で見ると、「感じたことがある」は30歳代から50歳代で20%台と高くなっている。

【図表 14-2 参照】

図表 14-2 命の危険を感じたことがあるか（属性別）

(%)

		回答数	感じたことがある	感じたことはない	無回答
全体		224	14.7	76.3	8.9
性別	女性	148	14.9	77.0	8.1
	男性	74	14.9	75.7	9.5
	その他	0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	11	9.1	81.8	9.1
	30歳代	17	23.5	76.5	0.0
	40歳代	45	20.0	77.8	2.2
	50歳代	38	28.9	65.8	5.3
	60歳代	48	10.4	85.4	4.2
	70歳代以上	62	4.8	74.2	21.0

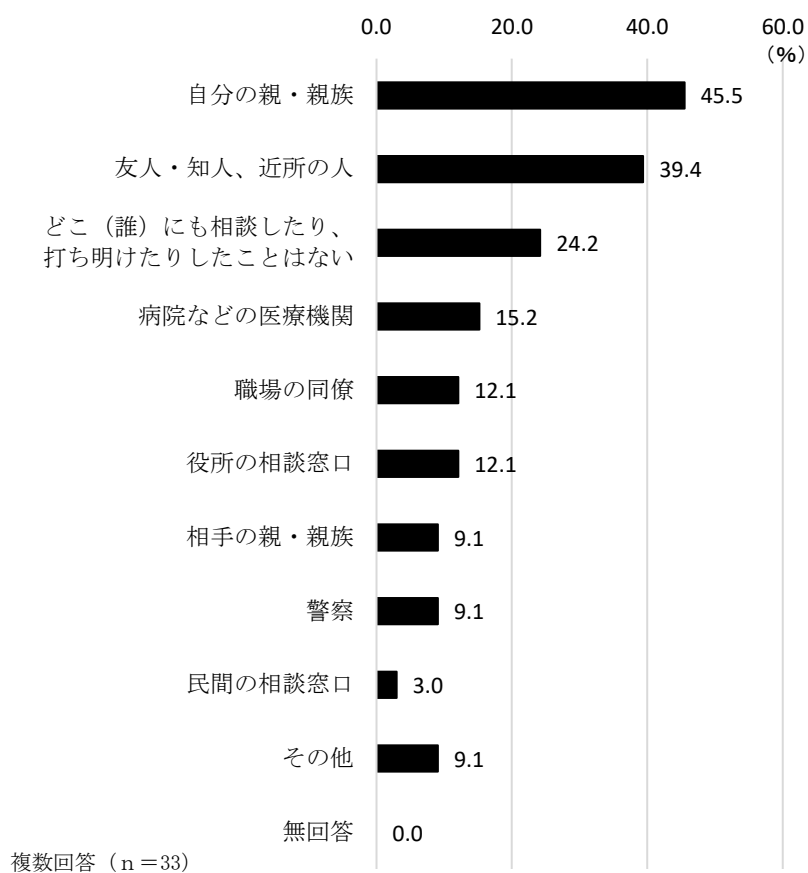
※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、

■ は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目（回答数が0先を除く）

命の危険を感じたことがある人の相談先（問12の回答）をみると、「自分の親・親族」が45.5%と最も高く、「友人・知人、近所の人（39.4%）」、「どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない（24.2%）」が続いた。警察は9.1%と低い。

【図表 14-3 参照】

図表 14-3 命の危険を感じた人の相談先



(9) 被害者が安心して生活するために必要なこと

【全員の方におたずねいたします。】

問 15 配偶者やパートナーから暴力を受けた人が、安心して生活するために必要なことは、何だと思えますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

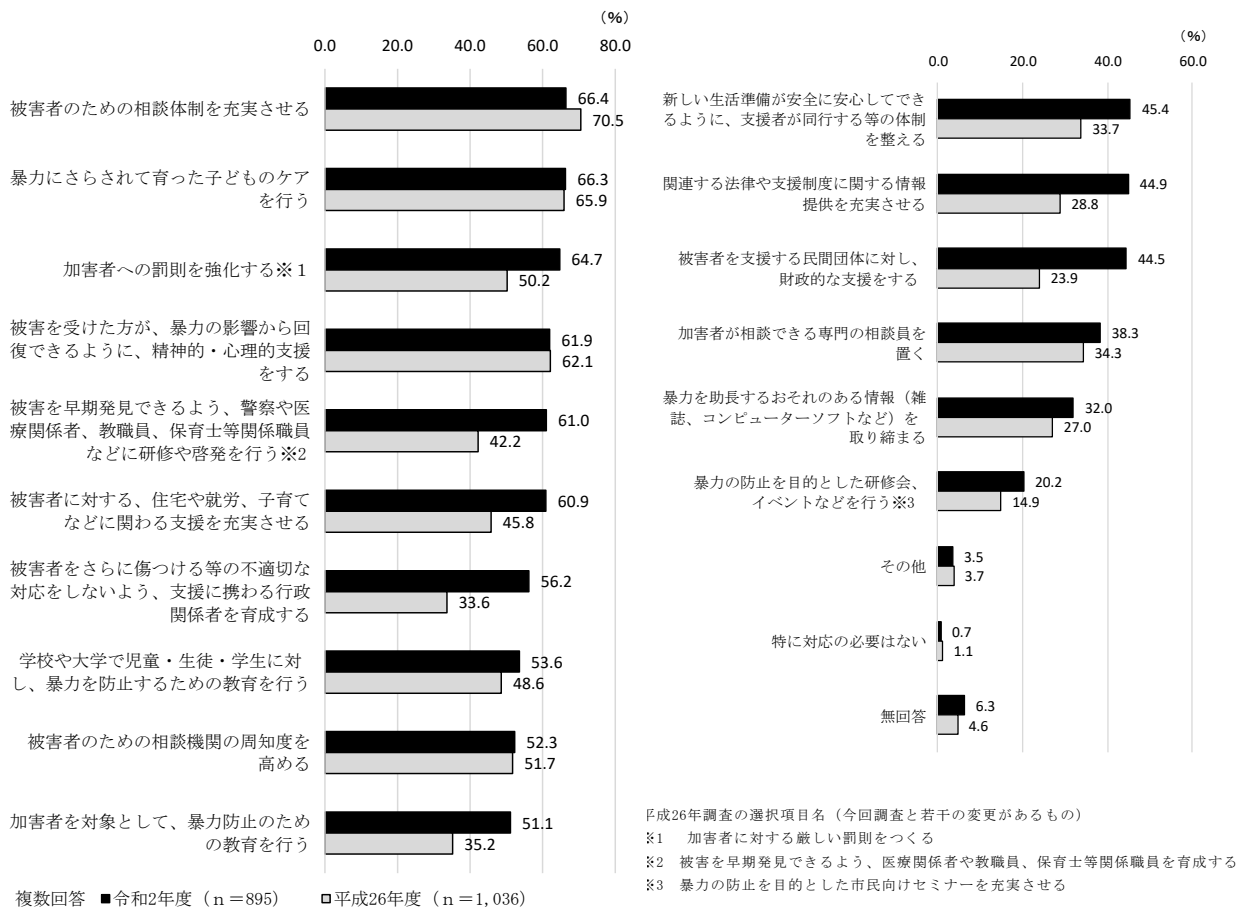
被害者が安心して生活するために必要なことは、「被害者のための相談体制を充実させる」が最も多い。

「被害者のための相談体制を充実させる（66.4%）」が最も高く、「暴力にさらされて育った子どものケアを行う（66.3%）」が続いた。

平成 26 年度と比較すると、「被害者をさらに傷つける等の不適切な対応をしないよう、支援に携わる行政関係者を育成する（22.6 ポイント増）」や、「被害者を支援する民間団体に対し、財政的な支援をする（20.6 ポイント増）」が大幅に増加した。

【図表 15-1 参照】

図表 15-1 安心して生活するために必要なこと（全体）



性別でみると、「被害者のための相談体制を充実させる」は男性（69.6%）が女性（64.0%）を5.6ポイント上回っている。「暴力にさらされて育った子どものケアを行う」は女性（68.0%）が男性（64.0%）を4.0ポイント上回っている。

年代別でみると、「被害者のための相談体制を充実させる」は60歳代（73.7%）が最も高く、「暴力にさらされて育った子どものケアを行う」は30歳代（86.0%）が最も高い。

DV経験別では、「被害者のための相談体制を充実させる」は経験なし（67.4%）が経験あり（62.5%）を4.9ポイント上回っている。また「暴力にさらされて育った子どものケアを行う」は経験なし（68.2%）が経験あり（58.9%）を9.3ポイント上回っている。また「被害を早期発見できるように、警察や医療関係者、教職員、保育士等関係職員などに研修や啓発を行う」は経験なし（65.6%）が経験あり（47.8%）を17.8ポイント上回っている。

【図表 15-2 参照】

図表 15-2 安心して生活するために必要なこと（属性別）

		回答数	被害者のための相談体制を充実させる	暴力にさらされて育った子どものケアを行う	加害者への罰則を強化する	被害を受けた方が、暴力の影響から回復できるように、精神的・心理的支援をする	被害を早期発見できるように、警察や医療関係者、教職員、保育士等関係職員などに研修や啓発を行う	被害者に対する、住宅や就労、子育てなどに関わる支援を充実させる	被害者をさらに傷つける等の不適切な対応をしないよう、支援に携わる行政関係者を育成する	学校や大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	被害者のための相談機関の周知度を高める	加害者を対象として、暴力防止のための教育を行う	新しい生活準備が安全に安心してできるように、支援者が同行する等の体制を整える	関連する法律や支援制度に関する情報提供を充実させる	被害者を支援する民間団体に対し、財政的な支援をする	加害者が相談できる専門の相談員を置く	暴力を助長するおそれのある情報を取り締まる	暴力の防止を目的とした研修会、イベントなどを行う	その他	特に対応の必要はない	無回答
全体		895	66.4	66.3	64.7	61.9	61.0	60.9	56.2	53.6	52.3	51.1	45.4	44.9	44.5	38.3	32.0	20.2	3.5	0.7	6.3
性別	女性	516	64.0	68.0	62.4	63.6	61.6	62.8	55.6	55.4	52.1	51.9	47.1	43.8	45.3	39.9	32.6	16.9	3.7	0.8	6.0
	男性	372	69.6	64.0	68.0	59.7	59.9	58.1	57.0	51.3	52.7	50.3	42.7	46.2	43.0	35.5	31.5	23.9	3.2	0.5	6.5
	その他	2	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	64.9	73.0	79.7	67.6	66.2	73.0	64.9	54.1	58.1	56.8	52.7	64.9	47.3	40.5	25.7	25.7	4.1	0.0	1.4
	30歳代	107	62.6	86.0	83.2	76.6	64.5	78.5	66.4	57.9	63.6	51.4	53.3	55.1	54.2	49.5	31.8	17.8	7.5	0.0	1.9
	40歳代	151	62.9	70.2	75.5	65.6	62.3	66.2	55.0	60.3	54.3	49.7	48.3	45.0	41.1	29.8	22.5	15.2	2.6	1.3	5.3
	50歳代	149	69.1	70.5	67.1	60.4	65.8	62.4	61.7	55.0	55.0	57.7	48.3	40.9	41.6	40.3	36.9	22.8	4.7	0.0	2.7
	60歳代	156	73.7	67.9	63.5	68.6	65.4	64.1	57.1	56.4	52.6	50.6	49.4	49.4	50.0	37.8	37.2	23.7	2.6	0.6	3.8
	70歳代以上	252	64.7	50.8	46.0	49.6	52.0	44.0	46.8	46.0	43.7	47.2	33.7	34.5	40.1	36.9	34.1	18.3	2.0	1.2	13.1
	DV被害	経験あり	224	62.5	58.9	58.0	51.8	47.8	55.4	51.8	48.2	46.0	40.2	39.7	39.7	36.6	35.7	29.5	17.0	4.5	0.4
経験なし		579	67.4	68.2	66.7	64.8	65.6	62.0	57.7	55.3	54.4	54.4	47.5	44.9	47.0	39.0	32.6	20.2	3.1	0.7	6.0

※ ■は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、■は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(10) 配偶者等からの暴力への関心

問 16 あなたは配偶者やパートナー間における暴力の問題に関心がありますか。あなたのお気持ちにもっとも近いものはどれですか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

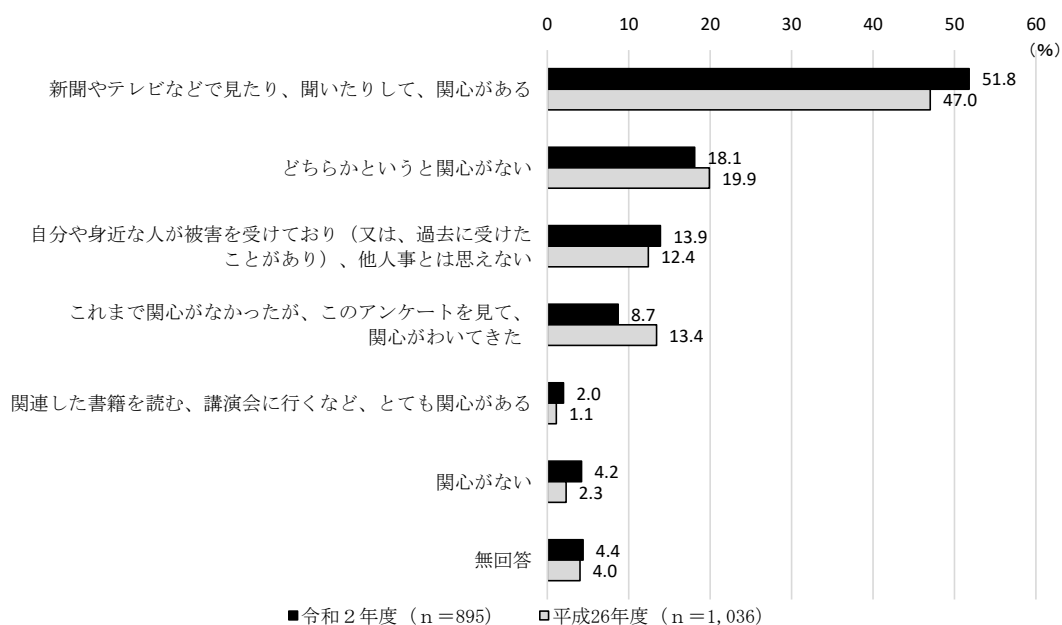
「新聞やテレビなどで見たり、聞いたりして、関心がある」は5割以上。

「新聞やテレビなどで見たり、聞いたりして、関心がある（51.8%）」が最も多かった。

「どちらかというに関心がない（18.1%）」と「関心がない（4.2%）」を合計した『関心がない』は22.3%だった。

【図表 16-1 参照】

図表 16-1 DVへの関心（全体）



性別でみると、「新聞やテレビなどで見たり、聞いたりして、関心がある」は、女性（53.3%）が男性（49.7%）を3.6ポイント上回っている。また、「どちらかというに関心がない」は男性（22.3%）が女性（15.1%）を7.2ポイント上回っている。

年代別にみると、「新聞やテレビなどで見たり、聞いたりして、関心がある」は60歳代（55.1%）が最も高く、「どちらかというに関心がない」は30歳代（23.4%）が最も高い。

【図表 16-2 参照】

図表 16-2 DVへの関心（属性別）

(%)

		回答数	新聞やテレビなどで見たり、聞いたりして、関心がある	どちらかというに関心がない	（自分や身近な人が被害を受けており）又は、他人事とは思えない	これまで関心がなかったが、このアンケートを見て、関心がわいてきた	関連した書籍を読む、講演会に行くなど、とても関心がある	関心がない	無回答
全体		895	51.8	18.1	13.9	8.7	2.0	4.2	4.4
性別	女性	516	53.3	15.1	17.1	8.5	2.1	2.9	4.7
	男性	372	49.7	22.3	9.7	9.1	1.6	6.2	3.8
	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	52.7	10.8	16.2	13.5	1.4	4.1	2.7
	30歳代	107	53.3	23.4	11.2	9.3	1.9	3.7	0.0
	40歳代	151	49.0	15.9	21.2	6.0	2.6	4.6	2.6
	50歳代	149	48.3	18.1	17.4	11.4	0.0	6.7	2.0
	60歳代	156	55.1	21.2	12.2	7.1	1.3	0.6	3.8
	70歳代以上	252	52.8	17.9	9.1	8.3	3.2	5.2	8.7

※ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、 は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(11) デートDVの認知度

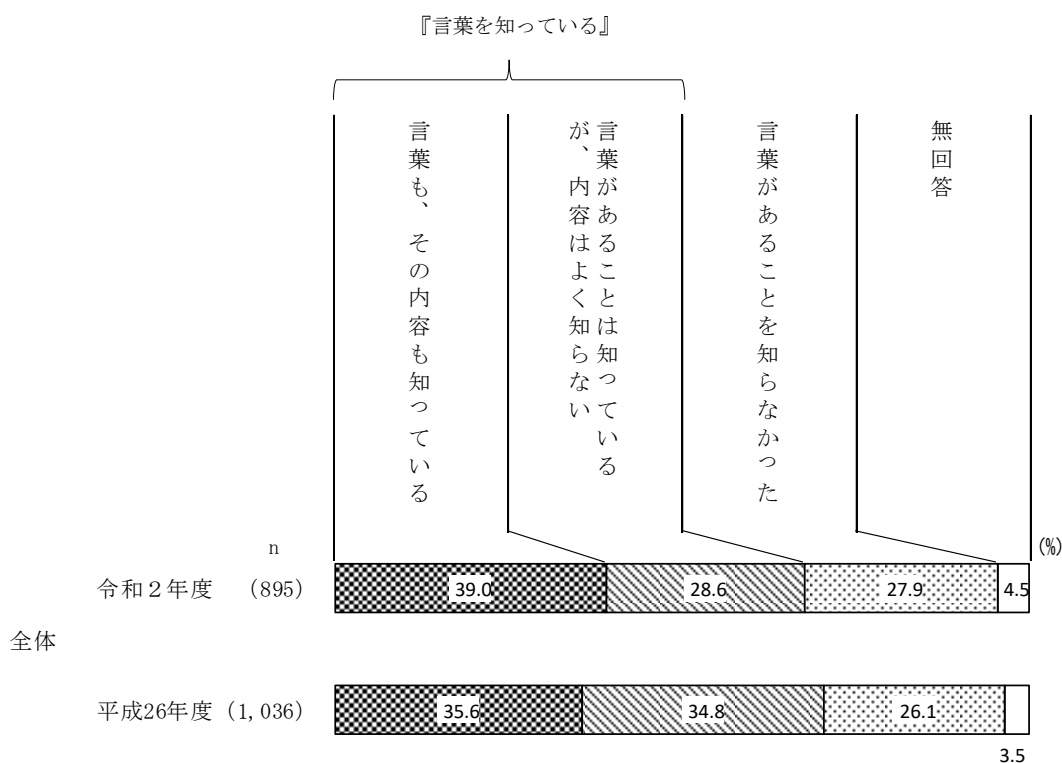
問 17 あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、
知っていますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

7 割弱が言葉を知っている。年齢が若いほうが認知度が高い。

「言葉も内容も知っている（39.0%）」が最も多い。「言葉も内容も知っている」と「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」を合計した『言葉を知っている』は67.6%となっている。平成26年度と比較すると、『言葉を知っている』は2.8ポイント低下したものの、「言葉もその内容も知っている」は、3.4ポイント上昇した。

【図表 17-1 参照】

図表 17-1 デートDVの認知度（全体）



性別で見ると、「言葉を知っている」は女性（69.8%）が男性（64.8%）を5.0ポイント上回っている。

年代別で見ると、「言葉を知っている」は、20歳代が79.7%と最も高く、年齢が若いほど認知度が高くなっている。

【図表 17-2 参照】

図表 17-2 デートDVの認知度（属性別）

(%)

	回答数	言葉を知っている	言葉を知っている		言葉があることを知らなかった	無回答	
			言葉も、その内容も知っている	言葉はよく知らない			
全体	895	67.6	39.0	28.6	27.9	4.5	
性別	女性	516	69.8	41.7	28.1	26.2	4.1
	男性	372	64.8	35.5	29.3	30.4	4.8
	その他	2	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	79.7	58.1	21.6	18.9	1.4
	30歳代	107	74.8	43.0	31.8	24.3	0.9
	40歳代	151	72.1	43.0	29.1	26.5	1.3
	50歳代	149	68.5	42.3	26.2	30.2	1.3
	60歳代	156	63.4	39.7	23.7	32.7	3.8
	70歳代以上	252	61.1	27.8	33.3	28.6	10.3

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、
■ は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

4. 配偶者等との間の暴力の防止と対策

(1) 配偶者等からの暴力に対する自分の考え

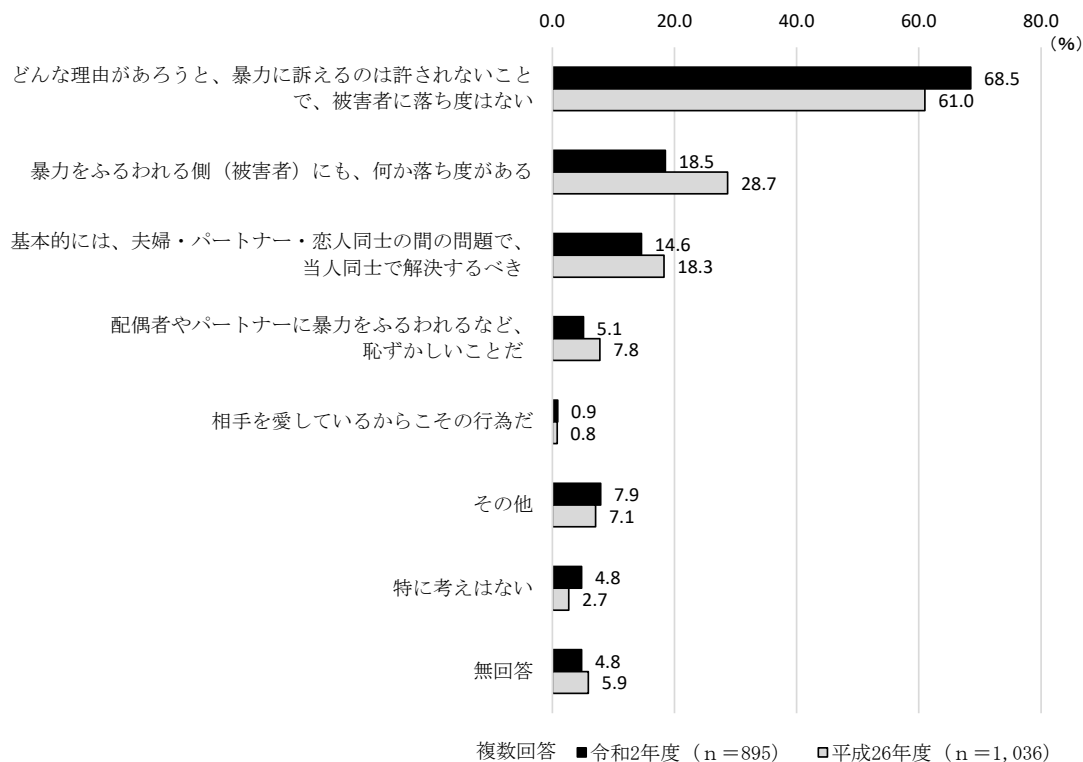
問 18 配偶者やパートナー間における暴力に対する考えで、あなたのお考えに近いものはどれですか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

「どんな理由があろうと、暴力に訴えるのは許されないことで、被害者に落ち度はない」が7割弱と最も高い。

「どんな理由があろうと、暴力に訴えるのは許されないことで、被害者に落ち度はない」が68.5%と最も高く、平成26年度と比較して7.5ポイント上昇した。

【図表 18-1 参照】

図表 18-1 DVに対する自分の考え（全体）



性別でみると、「どんな理由があろうと、暴力に訴えるのは許されないことで、被害者に落ち度はない」は女性（70.7%）が男性（66.1%）を4.6ポイント上回っている。

年代別でみると、「どんな理由があろうと、暴力に訴えるのは許されないことで、被害者に落ち度はない」は30歳代（77.6%）が最も高く、20歳代から60歳代までは70%以上だが、70歳代以上（56.0%）が最も低くなっている。「暴力をふるわれる側（被害者）にも、何か落ち度がある」は、年齢が高くなるにつれて回答割合が高くなっている。

DV経験別では、「暴力をふるわれる側（被害者）にも、何か落ち度がある」は経験なし（14.7%）が経験あり（29.0%）を14.3ポイント上回っている。

【図表 18-2 参照】

図表 18-2 DVに対する自分の考え（属性）

		回答数	どんな理由があろうと、被害者には落ち度はない	暴力をふるわれる側（被害者）にも、何か落ち度がある	基本的には、夫婦・パートナー・恋人同士の間で、本人同士で解決すべき	配偶者やパートナーに暴力をふるわれるなど、恥ずかしいことだ	相手を愛しているからこそその行為だ	その他	特に考えはない	無回答
全体		895	68.5	18.5	14.6	5.1	0.9	7.9	4.8	4.8
性別	女性	516	70.7	16.9	13.4	3.7	0.8	7.9	4.7	4.8
	男性	372	66.1	21.0	16.4	7.0	1.1	8.1	4.8	4.6
	その他	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
年代	20歳代	74	70.3	13.5	17.6	2.7	1.4	8.1	9.5	2.7
	30歳代	107	77.6	15.0	11.2	1.9	1.9	12.1	5.6	0.9
	40歳代	151	75.5	15.9	6.0	1.3	2.0	9.9	5.3	2.6
	50歳代	149	74.5	17.4	12.1	0.7	0.0	8.7	3.4	2.7
	60歳代	156	70.5	21.8	18.6	9.0	0.6	8.3	0.6	3.2
	70歳代以上	252	56.0	22.2	19.4	9.5	0.4	4.4	6.3	9.9
DV被害	経験あり	224	64.3	29.0	16.1	7.1	1.3	8.5	3.6	3.1
	経験なし	579	71.8	14.7	13.3	4.8	0.7	7.8	4.8	4.5

※ ■ は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、■ は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(2) 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと

問 19 配偶者やパートナー間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

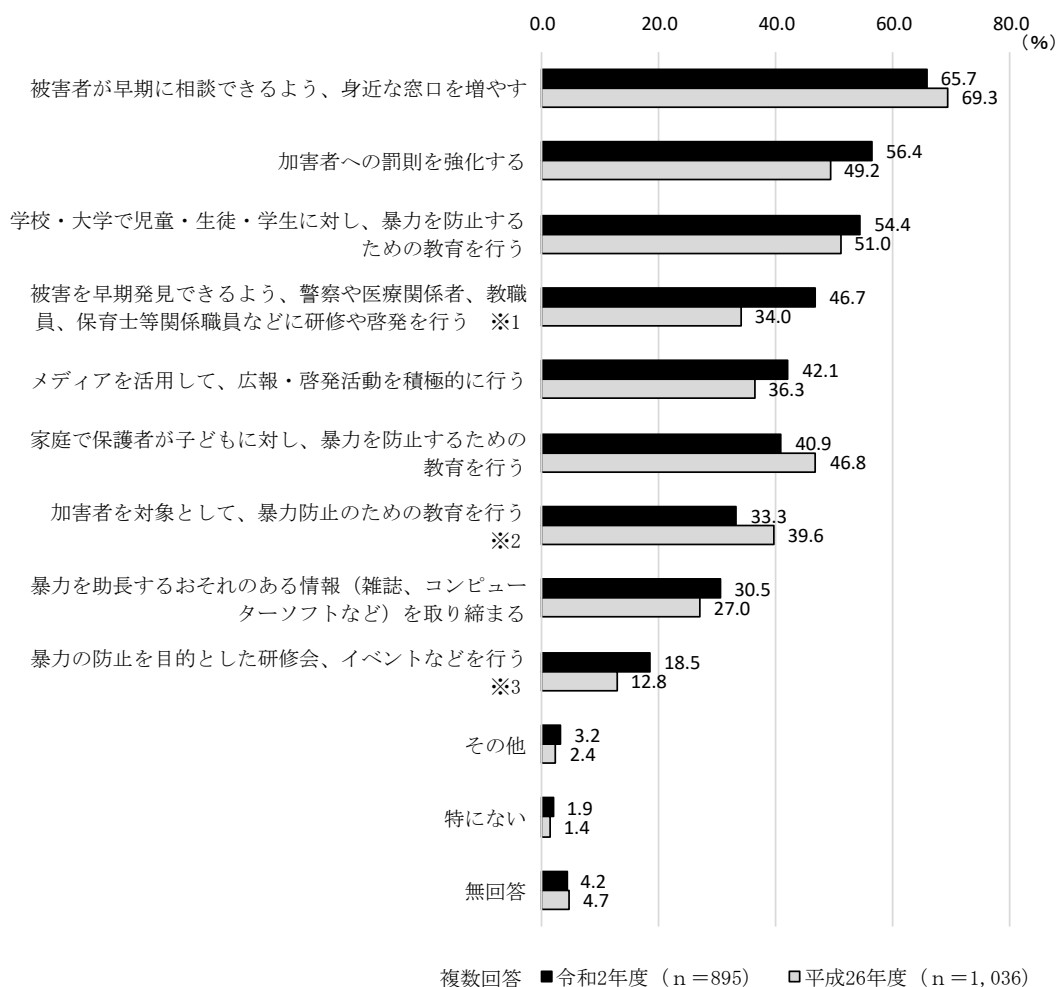
「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」が6割超と最も高い。

「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす（65.7%）」が最も多く、「加害者への罰則を強化する（56.4%）」、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う（54.4%）」が続いた。

平成26年度と比較すると、「被害を早期発見できるよう、警察や医療関係者、教職員、保育士等関係職員などに研修や啓発を行う」が12.7ポイントと大幅に増加した。

【図表 19-1 参照】

図表 19-1 DVを防止するために必要なこと（全体）



平成26年度の選択項目名（今回調査と若干の変更があるもの）

※1 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う

※2 暴力を振ったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う

※3 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う

性別でみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」は女性（70.5%）が男性（58.9%）を11.6ポイント上回っている。また、「加害者への罰則を強化する」は男性（60.5%）が女性（53.5%）を7.0ポイント上回っている。

年代別でみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」は60歳代（73.1%）で最も高い。また、「加害者への罰則を強化する」は30歳代（71.0%）で最も多く、20歳代（68.9%）、40歳代（68.2%）と続く。

DV経験別にみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」は経験あり（67.4%）が経験なし（64.6%）を2.8ポイント上回っている。

【図表 19-2 参照】

図表 19-2 DVを防止するために必要なこと（属性別）

		回答数	被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす	加害者への罰則を強化する	学校・大学で児童・生徒・学生に対するための教育を行う	被害を早期発見できるように、警察や医療関係者、教職員、保育士等関係職員などに研修や啓発を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	加害者を対象として、暴力防止のための教育を行う	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる	暴力の防止を目的とした研修会、イベントなどを行う	その他	特になし	無回答
全体		895	65.7	56.4	54.4	46.7	42.1	40.9	33.3	30.5	18.5	3.2	1.9	4.2
性別	女性	516	70.5	53.5	54.7	45.9	41.3	40.1	36.0	31.0	15.9	3.3	1.4	4.1
	男性	372	58.9	60.5	54.3	47.6	43.5	41.4	29.0	29.8	21.8	3.2	2.2	4.6
	その他	2	100.0	50.0	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	68.9	68.9	51.4	56.8	52.7	43.2	36.5	28.4	16.2	4.1	2.7	1.4
	30歳代	107	71.0	71.0	60.7	55.1	43.9	46.7	43.0	25.2	20.6	6.5	0.0	0.0
	40歳代	151	72.2	68.2	55.6	45.7	43.7	39.7	35.8	17.2	15.9	4.6	0.7	1.3
	50歳代	149	60.4	59.7	57.7	51.7	40.9	39.6	34.9	34.9	19.5	2.0	0.7	2.7
	60歳代	156	73.1	57.1	60.3	51.9	44.9	43.6	35.3	37.2	19.9	2.6	0.6	3.8
	70歳代以上	252	57.5	37.7	47.2	34.9	36.5	37.7	24.2	34.9	18.3	2.0	3.6	9.9
DV被害	経験あり	224	67.4	52.2	51.8	39.7	43.8	36.6	27.7	27.7	17.9	2.7	2.2	3.6
	経験なし	579	64.6	57.9	56.1	48.2	42.7	42.3	35.4	30.6	18.7	3.3	2.1	3.6

※ ■は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、■は「全体」の水準を5ポイント以上下回った項目

(3) 配偶者等からの暴力を防止するための広報・啓発

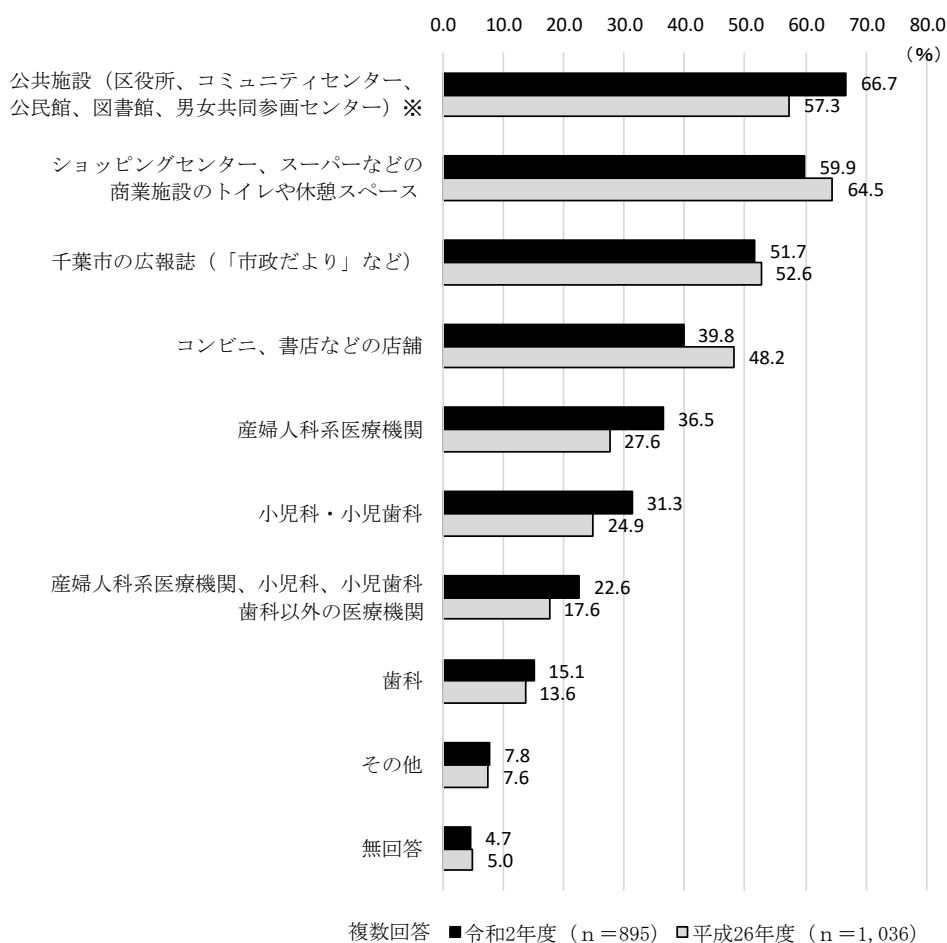
問 20 配偶者やパートナー間における暴力についての相談窓口などの情報提供は、ホームページでのお知らせのほか、チラシやカード、ステッカー、しおりなどを配布して行っています。
どのような場所にチラシ等があればよいと思いますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

「公共施設（区役所、コミュニティセンター、公民館、図書館、男女共同参画センター）」が最も多く、「ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース」が続いた。

「公共施設（区役所、コミュニティセンター、公民館、図書館、男女共同参画センター）（66.7%）」が最も多く、「ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース（59.9%）」、「千葉市の広報誌（「市政だより」など）（51.7%）」が続いた。

【図表 20-1 参照】

図表 20-1 情報提供の場所（全体）



※ 令和2年度は、公民館とコミュニティセンターを追加

性別でみると、「公共施設（区役所、図書館、男女共同参画センターなど）」は女性（67.6%）が男性（65.1%）を2.5ポイント上回っている。「ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース」は女性（66.5%）が男性（51.3%）を15.2ポイント上回っている。

年代別でみると、「公共施設（区役所、図書館、男女共同参画センターなど）」は60歳代（72.4%）が最も高い。また、「ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース」は20歳代と30歳代（共に75.7%）が最も高く、40歳代（75.5%）、50歳代（65.8%）と続き、全体（59.9%）を15.8ポイント上回っている。

DV経験別でみると、「公共施設（区役所、図書館、男女共同参画センターなど）」は経験なし（67.0%）が経験あり（65.6%）をやや上回っている。また「千葉市の広報紙（「市政だより」など）は経験あり（58.9%）が経験なし（51.3%）を7.6ポイント上回っている。

【図表 20-2 参照】

図表 20-2 情報提供場所（属性別）

		回答数	公共施設（区役所、図書館、男女共同参画センターなど）	ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース	千葉市の広報紙（「市政だより」など）	コンビニ、書店などの店舗	産婦人科系医療機関	小児科・小児歯科	産婦人科系医療機関、小児科、小児歯科、歯科以外の医療機関	歯科	その他	無回答
全体		895	66.7	59.9	51.7	39.8	36.5	31.3	22.6	15.1	7.8	4.7
性別	女性	516	67.6	66.5	54.5	39.0	38.8	31.4	23.6	15.1	7.4	3.9
	男性	372	65.1	51.3	48.1	40.9	33.6	31.5	21.0	15.3	8.6	5.6
	その他	2	100.0	50.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
年代	20歳代	74	70.3	75.7	33.8	60.8	59.5	45.9	27.0	20.3	10.8	0.0
	30歳代	107	65.4	75.7	45.8	51.4	57.0	50.5	20.6	25.2	10.3	0.9
	40歳代	151	61.6	75.5	45.7	46.4	49.7	37.7	25.2	19.2	11.3	2.0
	50歳代	149	61.1	65.8	44.3	43.6	37.6	37.6	22.8	16.1	9.4	4.7
	60歳代	156	72.4	64.1	60.3	35.9	27.6	26.9	23.1	11.5	5.8	3.2
	70歳代以上	252	69.0	34.5	62.3	25.4	18.7	14.3	19.8	8.7	4.4	9.5
DV被害	経験あり	224	65.6	57.1	58.9	38.4	33.9	29.9	25.4	14.3	6.3	4.9
	経験なし	579	67.0	60.8	51.3	39.6	37.5	32.0	20.7	14.5	8.1	3.8

※ 黒色は「全体」の水準を5ポイント以上上回った項目、灰色は「全体」の水準を5ポイント以下下回った項目

Ⅲ. 調査結果の概要とまとめ

1. 男女共同参画に関する意識

(1) 言葉の認知度

「男女共同参画社会」という言葉を知っている（聞いたことがある）は75.0%、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉を知っている（聞いたことがある）は73.9%であった。

「言葉も内容も知っている」は、どの年代も女性より男性の方が多かった。

【P9～12 参照】

(2) 各分野での男女の地位

(A) 「家庭生活で」は、全体の44.1%、女性の53.6%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の35.8%、女性の26.2%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が23.3ポイント高い。

【P14～15 参照】

(B) 「職場で」は、全体の50.9%、女性の53.1%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の25.9%、女性の24.4%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が3.8ポイント高い。

【P16～17 参照】

(C) 「地域社会で」は、全体の42.0%、女性の47.8%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の33.5%、女性の27.3%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が15.2ポイント高い。

【P18～19 参照】

(D) 「法律や制度の上で」は、全体の41.0%、女性の47.1%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の34.7%、女性の27.9%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が17.0ポイント高い。

【P20～21 参照】

(E) 「社会通念・慣習・しきたりなどで」は、全体の73.2%、女性の76.3%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の11.4%、女性の7.9%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が8.5ポイント高い。

【P22～23 参照】

(3) 性別役割分担に対する意識

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）は32.9%、『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）は55.6%であった。女性は『反対』が60%を超えているが、男性とその他は『賛成』と『反対』が同水準となっている。20歳代・30歳代は「反対」の割合が高い。

【P24～25 参照】

2. 配偶者等による暴力に対する認知度、意識

(1) DV防止法の認知度

法律があることを知っている（「法律があることも、その内容も知っている（47.0%）」と「法律があることは知っているが、内容はよく知らない（46.6%）」の合計）は、平成26年度より21.8ポイント上昇した。平成29年度内閣府と比較しても、25.4ポイント高くなっている。法律があることを知っている人は90%超で、平成26年度と比較して増加した。【P26～28 参照】

(2) 配偶者等からの暴力について相談できる窓口の認知度

「知らない（54.4%）」が「知っている（42.0%）」を上回った。平成26年度と比較すると、「知っている」が3.5ポイント上昇した。平成29年度内閣府と比較すると低くなっている。

知っている相談窓口は、「千葉県警察本部 相談サポートコーナー（47.9%）」が最も高く、「各区保健福祉センター 子ども家庭課（40.4%）」、「民間支援団体（シェルター、カウンセリング等）（35.4%）」が続いた。【P29～32 参照】

(3) 配偶者等との間で暴力についての意識

「どんな場合でも暴力にあたる」は「身体を傷つける可能性のある物でなく（96.4%）」、「刃物などを突きつけて、おどす（96.2%）」が多い。一方、「暴力にあたるとは思わない」は、「お金の使い道を細かく報告させる（10.9%）」が高くなっている。DV被害経験別では経験なしが経験ありより、性別役割分担賛成・反対別では反対が賛成より、すべての行為において「どんな場合にでも暴力にあたる」の割合が多い。【P33～47 参照】

3. 配偶者等による暴力被害の実態

(1) 暴力をふるわれた経験

配偶者等からの暴力の経験がある人は、「精神的暴力（16.2%）」が最も高く、「身体的暴力（15.6%）」、「性的暴力（8.4%）」、「経済的暴力（6.5%）」、「社会的暴力（6.4%）」となっている。

全てにおいて女性の方が男性より経験がある人が多い。【P49～54 参照】

(2) 暴力をふるわれた時の行動

「我慢した（58.5%）」が最も高く、「言い返した、反撃した（53.6%）」、「口をきかなかった（44.6%）」が続いた。【P55～56 参照】

(3) 配偶者から子どもが暴力をふるわれた経験

「まったくない (57.5%)」が最も高く、「無回答、子どもがいない (32.4%)」「心理的虐待 (4.6%)」「わからない (4.5%)」「身体的虐待 (2.9%)」「ネグレクト (0.4%)」「性的虐待 (0.0%)」であった。DV経験別にみると、全ての虐待行為において経験ありが経験なしを上回っている。特に心理的虐待が13.4%と多い。【P57～58 参照】

(4) 暴力をふるわれた後の心身状態、生活への影響

「特に影響はなかった (32.1%)」が最も高く、「相手をひどく憎むようになった (20.5%)」「眠れなくなった (18.3%)」及び「何にもする気がなくなった (18.3%)」が続いた。女性では、「子どもや家族にあたる」「拒食・過食になった」「衝動買い・浪費で気を紛らわす」が10%を超えており、男性では「酒に依存する」が9.5%となっている。【P59～60 参照】

(5) 暴力をふるわれた時の相談先

「どこ (誰) にも相談したり、打ち明けたりしたことはない (45.5%)」が最も高く、相談先としては「友人・知人、近所の人 (26.3%)」「自分の親・親族 (25.9%)」が続いた。性別では女性の方が男性より相談をしている。【P61～62 参照】

(6) 相談しなかった理由

「相談するほどのことではないと思ったから (56.0%)」「自分にも悪いところがあると思ったから (34.0%)」「相談しても無駄だと思ったから (30.0%)」が上位3項目。【P63～64 参照】

(7) 命の危険を感じたことはあるか

DV被害経験のある方のうち、命の危険について「感じたことはない (76.3%)」「感じたことがある (14.7%)」であった。30歳代から50歳代が2割台と高い。【P65～67 参照】

(8) 被害者が安心して生活するために必要なこと

「被害者のための相談体制を充実させる (66.4%)」「暴力にさらされて育った子どものケアを行う (66.3%)」「加害者への罰則を強化する」が上位3項目。DV経験者も上位3項目は同じ。【P68～69 参照】

(9) 配偶者等からの暴力への関心

「新聞やテレビなどで見たり、聞いたりして、関心がある (51.8%)」が最も多かった。『関心がない』は22.3%だった。【P70～71 参照】

(10) デートDVの認知度

「言葉も内容も知っている (39.0%)」が最も多い。『言葉を知っている』(「言葉も内容も知っている」と「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」の合計)は67.6%となっている。年齢が若いほど認知度が高い。

【P72～73 参照】

4. 配偶者等との間の暴力の防止と対策

(1) 配偶者等からの暴力に対する自分の考え

「どんな理由があろうと、暴力に訴えるのは許されないことで、被害者に落ち度はない」が68.5%と最も高く、「暴力をふるわれる側(被害者)にも、何か落ち度がある(18.5%)」、「基本的には、夫婦・パートナー・恋人同士の間の問題で、当人同士で解決するべき(14.6%)」が続いた。「暴力をふるわれる側(被害者)にも、何か落ち度がある」は、年齢が高くなるにつれて回答割合が高い。

【P74～75 参照】

(2) 配偶者等からの暴力を防止するために必要なこと

「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす(65.7%)」、「加害者への罰則を強化する(56.4%)」、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う(54.4%)」が上位3項目。DV経験者も同じ項目が上位となっている。

【P76～77 参照】

(3) 配偶者等からの暴力を防止するための広報・啓発

「公共施設(区役所、コミュニティセンター、公民館、図書館、男女共同参画センター)(66.7%)」、「ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース(59.9%)」、「千葉市の広報誌(「市政だより」など)(51.7%)」が上位3つ。「ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース」は、女性と20歳代から50歳のニーズが高い。

【P78～79 参照】

IV. 今後に向けて

1. 配偶者等による暴力に対する認知度、意識

DV防止法の認知度は「法律があることも、その内容も知っている（47.0%）」が平成26年度より21.8ポイント上昇と大幅に上昇した。なおどの性別・年代別でも上昇している。一方、相談窓口の認知度は平成26年度よりも増加したものの、「知らない」が過半数を超える状況は変わっておらず、特に20歳代では70%以上である。若年層への周知は学校教育の充実やSNS等による情報発信を工夫していく必要がある。

配偶者等との間での暴力についての意識においては、「お金の使い道を細かく報告させる（10.9%）」、「友人関係や電話を細かく監視する（8.4%）」、「友人や実家とのつきあいをいやがる・やめさせる（8.4%）」などが「暴力にあたるとは思わない」との結果となっており、暴力は身体的なものだけでなく、経済的暴力や社会的暴力など様々な暴力があることを周知し、社会の認識を深める対策をしていく必要がある。なおDV被害の経験がある人よりない人の方が、また性別役割分担に対する意識が賛成より反対の方が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が多い。

2. 配偶者等による暴力被害の実態

配偶者等からの暴力の経験がある人は、「精神的暴力（16.2%）」が最も多く、「身体的暴力（15.6%）」、「性的暴力（8.4%）」、「経済的暴力（6.5%）」、「社会的暴力（6.4%）」となっている。平成29年度内閣府と比較すると、「精神的暴力（13.7%）」と「性的暴力（6.1%）」で国の調査を上回った。今回はコロナ禍での調査であり経済的困窮や在宅時間の増加等から被害拡大が懸念されたが、26年度調査と比較して増加したのは「精神的暴力（2.6ポイント）」、「性的暴力（0.6ポイント）」であり、調査時点（令和2年8月）では顕著な増加はみられなかった。

配偶者から子どもへの暴力は、平成29年度内閣府の水準を下回っている。しかし、一方の親が配偶者からDV被害の経験がある場合は、子どもへの暴力も行われる割合が高いことが明確となった。こうした負の連鎖を阻止するためにも、DV被害者の相談や自立支援は重要と言える。

相談先は「友人・知人、近所の人」「自分の親・親族」が多いが、「どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない（45.5%）」が最も多く、平成26年度と比較して、9.6ポイント増加した。男性では約60%と多く、専門相談窓口や男性相談窓口についても周知が必要と言える。

相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、被害者も含めた重要性の認識の啓発が必要である。

被害者が安心して生活するために必要なことは、「被害者のための相談体制を充実させる」、「暴力にさらされて育った子どものケアを行う」が多い。また、平成26年度と比較すると、「被害者をさらに傷つける等の不適切な対応をしないよう、支援に

携わる行政関係者を育成する」や、「被害者を支援する民間団体に対し、財政的な支援をする」が大幅に増加しており、専門的人材が子どもを含めた被害者を適切に支援することが求められている。

3. 配偶者等との間の暴力の防止と対策

DVに対する自分の考えは、「被害者にも落ち度がある」が平成26年度と比較して10.2ポイント減少しており、暴力容認の考えは減少した。しかし、DV被害経験ありの人は、全体と比較して「被害者にも落ち度がある」との考えが強くあり、相談事業や広報等により「暴力は許されないこと」という認識を持ってもらうことが必要である。

DVを防止するために必要なことは、「被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす」、「加害者への罰則を強化する」、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が多い。平成26年度と比較すると、「被害を早期発見できるよう、警察や医療関係者、教職員、保育士等関係職員などに研修や啓発を行う」が12.7ポイントと大幅に増加しており、単に相談窓口を増やすだけでなく関係各機関の連携が重要である。

DV相談窓口等の情報提供場所は、性別や年代で意見が分かれた。女性は「ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース」が最も多かった。60歳以上は千葉市の広報紙（「市政だより」など）、20歳代から40歳代では「産婦人科系医療機関」と「コンビニ、書店などの店舗」が多かった。性別や年齢に合わせたわかりやすい案内を回答の多かった場所で配布すること等、市民に対し効果的に周知していく必要がある。

4. 男女共同参画に関する意識

「男女共同参画社会」や「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度は両方とも70%以上で一定程度周知されてきているものの、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が「男女共同参画社会」で37.9%、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」で35.4%であり、また、「言葉も内容も知らない」が両方とも約20%おり更なる認知度の向上が必要である。

男女の地位は、女性は全ての分野で男性優遇と考えているが、男性は家庭・地域社会・法律や制度の上での分野は平等と考える人が多くなっており、性別により差がみられるため、全ての分野で、性差なく平等となる必要がある。

性別役割分担意識においても、全体では『反対』が過半数を超えているが、性別で見ると女性が60%以上であるのに対し、男性は40%以上と低い。また、70歳代以上は『反対』が40%以上である。特に男性や高齢者を対象として、固定的な性別役割分担意識にとらわれない考え方を啓発することが重要である。

V. 自由意見

自由意見の中から年代別・性別に一部を掲載する。（原文のまま）

20 歳代 女性

- アンケートを通して、身体的な暴力だけでなく精神的にも苦しめられている人が多くいるのではないかと思った。このような取り組みをおこなうことで、より相談しやすく、SOS を早い段階で伝えられるような社会になればいいと思う。
- 配偶者やパートナーから暴力を防止することも大切ですが、家族間での親から子への暴力に対して、もっと対策をとってほしいです。私は小さいころから親からの暴力にずっと耐えてきました。何もできず、ただひたすら我慢するだけ…。こんな思いをしている子供を少しでも救ってあげてください。よろしくお願いします。
- 加害者に対して一種の依存状態にある被害者は、そもそも相談しに行こうとすら思わないと思うので、被害者の身近な人間（DV に気付いている）が相談しやすい環境が必要だと思う。また、相談員と顔を合わせたり声を交わしたりすることに抵抗を持っている、仕事で忙しい、行く余裕がない人は大勢いると思うので、ネットで相談したり相談専用アプリを作ったりすれば、今まで相談できなかった人も相談しやすくなると思う。

20 歳代 男性

- 定期的に行うと意識が向けられて考えるようになると思ったので、今後も今回のようなアンケートを実践していくべきだと思った。
- 1 人でも多くの人が被害から逃げられますように、取り締まりを強化すべきだと思う。早めに保護して、なるべく心に傷を負わずに解決されるような世の中を望みます。よろしくお願いいたします。

30 歳代 女性

- 電話をしたり直接相談に行くことはなかなか難しいですが、匿名で WEB で相談したり個人情報をしられる一步前の相談ができる方法はあまりないと感じます。これって DV ですか？って気軽に聞いて、その後に具体的な対処方法を知らせてくれれば、あとは本人が動きやすいように手順をおしえてくれれば、前に進みやすいと思います。
- 幸い私には肉体的にも精神的にも暴力を受けたことはありませんが、世の中には沢山つらい思いをされている方がいると思います。医療については比較的充実していると思うので、特に精神的ケアについて外国のようにもっとカウンセリングを受けることが一般的になっていけば良いなと思っています。
- 私自身はケンカの延長で両親が物をなげたり、父が母を殴る様子は少なからず目の当たりにする経験があった。だからといって DV に当たるとは思っていない。ただ怖かった思いは当時とてもあった。加害者や被害者はもちろんであるが、保育教諭である私としては子供の心のケアも大切であると思う。DV や虐待が連鎖しないためにも。現場ではそういった事例にまだ合っていないが、子供達の両親が…と考えると実際どのように動いて良いか分からない。また、身近な友人などの身にも起こらないとは言えない。そのようになった場合はどうしたら良いのか、もっと学生時代から教育の一つとして学べる事ができないのかと考える。性的虐待については性教育もきちんとされていないゆえ、女性が傷つけられるだけの悲しい結果になることが多い。また、加害者はどうなっていくのか、どう償うのか不明である。より重い罰則などが目に見えて分かっているのであれば、その手を止めることもできると思う。そして、加害者も何らかのケアが必要になると考える。
- 子供がいる母親が DV から逃れた後、安定した暮らしを手に入れるのはとても難しい。例えば仕事を見つけても子供が小さいうちはフルで働けず、そもそも男性より低い給与で設定されている場合が多く、拘束時間が長いだけで報われない気がする。一時的にでも（若しくは貸与で）この様な状況に対して、補助金などを拡充すべきだと思う。市の財源には限りがあると思うが、国（政）に働きかけて全国的にこのような補助金の制度が拡がっていくと良いと思う。

40 歳代 女性

- DV を受けても社会的自立ができず我慢している方も多いのであれば、女性の自立支援を相談したり、加害者から離れて生活できる低価格な公営住宅があることを認知させてほしい。子供のため、自分だけ耐えている女性が日本からいなくなるように救済の公共窓口があることすら知らない情報弱者がいなくなるように教育していく社会にな

ってほしい。加害者はいつの世も一定数存在する。厳罰化も考慮した方がいいと思う。被害者がいつでも逃げれる環境があることを望みます。

- 自分は暴力にあったこともないですが、もしあったとしてもあかの他人が親身になって相談ののったり助けてくれたり本気でしてくれるとは思っていない。支援する側が経験もしていないだろう方が相談に乗ってくれたり間に入ってくれたりできるわけがないと思っている。支援する側のトレーニングだっりの育成レベルが低いと思う。海外と比べても DV はもしかしたら日本は少ないからかもしれないけど、海外だとカウンセラーやセラピストや心のケアをする方々がたくさんいらっしゃるって相談しやすい体制が整っている。経験も豊富だと思います。何かあったら気軽に誰でも相談ののれる体制を作ってほしい。
- 経済的自立がやはりあると思います。とりあえずの保護と支援があれば本人も安心だと思いますその後どう自立していくか相談体制が大切です。加害者のカウンセリング、犯罪だという認識も大切だと思います。

40 歳代 男性

- 地域社会、学校、警察など、協力して DV 問題をなくしていければいいと思います。
- DV に関しては言葉の暴力もあるが、夫婦ゲンカまで暴力なのかという難しい問題ではある。手を出してはいけないという事を常に教えていかないといけないが、育ってきた環境によってそれは変わるように思うので、DV 被害にあった子供、親が夫婦間で暴力をおこなっているのを見ていた子供のケア等を考えるのは大事だと思う。

50 歳代 女性

- 今は DV 等を受けることはありませんが、前夫との嫌なことをたくさん思い出し、その時のことがフラッシュバックしてしまいました。若いからこそ親やまわりの人にも相談できず悩みました。心が病んでいる時はまわりが見えなくなっているため、情報を発信されても目にとまりません。自分から SOS を出せません。助けが必要な方々を早く見つけてあげてほしいと思います。
- 暴力を受けて我慢している女性の中には生活していくお金がないという現実。生活面での自立できないという問題がある。よほど悲惨な場合は支援等があると思うが、そこまでではない一歩手前で我慢している人は多いと思う。勇気を持って行動するには相談窓口での対応でどれだけの人を救えるかにかかっているが、そこへも来れない人が一番心配なのかもしれません。
- 強制的な改心は本当の改心にはあたらなと思います。罰則の強化よりも DV をする側にも心の問題があるはずで。そこを根っから修復してあげる必要があると思います。過去に DV を受けていた人が大人になってから被害者から加害者になるというケースが高いと聞きます。難しいとは思いますが根本の改善をすべきだと思います。そうでなければいつまでも同じ事の繰り返しになり、更には最悪の状態をまねく事にもなると思います。要は DV をする側の心が（考え方も）変わるように導いて改心しなければ何も変わらないと思います。
- 心や生活にゆとりがないと暴力をふるってしまうことがあるのではないのでしょうか？暴力をふるう人は病気のようになり繰り返すと思います。だからと言って、加害者に罰則だけを強化しても暴力がなくなるとは思えません。心や生活にゆとりのある安心・安全な社会の実現を目指し、DV や虐待が起こらないことを期待しています。

50 歳代 男性

- 男性にも女性にも同じ権利、義務があると思う。権利を主張するだけでなく、それぞれが自立して何があっても生活できる経済的基盤を確立していかなければ、何も進まないと思います。
- 私自身が養父に幼いころ暴力を受けました。親の気分でも我慢をすればご飯食べられるし寝れるしって思うこともありました。「しつけ」という教えていくことの難しさを自分が親になって感じた次第です。DV も養父と母を見ても子供なりにお互い感情をぶつけ合って悲しかったけど、わかることのあるのではないかと、ただ何気ない言葉で嫌な思いをすることは多々あります。ましてや妻からだ立ち直るのに大変です。

60 歳代 女性

- 教育関係の仕事をしています。高等教育です。女子学生の中には、彼氏からの暴力を受けている話をその友人から（本人からではなく）聞くことがあります。大変心配して、本人に話を聞きアドバイスすることもあります。親に知られることは嫌がります。彼は彼女へ、夫は妻へ、親は子へと、身近な本当は大切な人の心や身体を傷つける行為は無くさないといけない。デート DV については、学校で犯罪行為であることを教育する必要性を感じます。

チラシ等はいただいておりますが…。配布するだけでは不十分と思います。相談窓口を増やして、被害者を減らしてください。どうぞこれからもよろしくお願いします。

- 新聞やテレビで子供が暴力を受け、命を落とすニュースを知った時にとても胸が痛みます。少子化の日本で、日本の未来を担う大切な子供達の命を大切にしてほしいと思います。まずは啓発が重要で、広く知らせ、早期に対処することが必要だと思っています。
- 今まで身近にこのような問題がなかったのでテレビや新聞で観るだけの人ごとでしたが、これからはもう少し感心を持つと思いました。最近、子供達の事件が多く、とてもやり切れない思いでいっぱいになります。安心して生活できる社会になって欲しいです。
- 自分には関係のない事のように思っていたのですが、どこにでもだれにでもおこりえる事だと実感しました。気軽に相談出来る事がすくいになると思いました。

60 歳代 男性

- 中高校生に対する周知教育がぜひとも必要！（種まく活動）町内会・自治会を通じた啓発活動も必要か！
- DV 等いかなるどのような理由であろうと暴力は絶対に許されることではありません。教育機関、特に小学校から（出来るだけ早い年代）暴力は人間最低のことだと教育が必要だと思います。大人になってからでは遅いと思います。人間形成が出来上がる前に皆で取り組むことが必要。
- 行政の力だけでは実現はできない。行政とともに地域の人々の努力も必要である。自助、共助など自分たちで住みよい社会をつくる意識が重要だと強く感じる。

70 歳代以上 女性

- DV を受けて昨年離婚しました。直接の暴力は無かったのですが、生活費渡さない、レシートチェック、電話チェック、食事時間の正確さ、大声でどなる、物を投げる等でした。別居、調停、離婚までに2年かかりました。今でも恐怖心はあります。テレビ等、ドラマで DV の観ていても本人は分かってなく、ひどい男だなんて自分とは違うと思っている様でした。もっともっとメディアを通じて DV の怖さを広めて欲しいと思っています。
- 心理的虐待についてももっともっと積極的に周知する必要があると思います。

70 歳代以上 男性

- 男女平等、暴力否定を絶対的な理念とする社会を構築すること。
- 男女平等は基本であるが両性の特徴（特性）を生かした平等を目指し施策の検討をよろしくお願い致します。

VI. 調査票

配偶者やパートナーとの日常生活についての調査 調査へのご協力をお願い

この度、『配偶者やパートナーとの日常生活についての調査』として、千葉市にお住まいの皆様を対象に、配偶者やパートナーとの間柄において生じる問題について、アンケート調査票を郵送させていただきます。

近年、配偶者や恋人間で生じる暴力の問題が、単なる個人や家庭内だけではなく、社会的な問題であるとの認識が高まっています。千葉市では、「第2次千葉市DV防止・被害者基本計画（平成28年度～令和3年度）」を策定しており、新たな計画策定の基礎資料として、市民の皆様のご意見や実態、ご意見をお聞きしたいと思います。

今回、満20歳以上の男女各1,500名の方を無作為（ランダム）に抽出し、アンケート調査票を郵送させていただきます。調査票及び集計結果は、すべて「〇〇」という回答が△△%のように統計的に処理いたしますので、ご回答いただいた方が特定されることは一切ございません。趣意をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査は、千葉市の委託を受け、千葉市男女共同参画センターが行うものです。千葉市男女共同参画センターでは、男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな事業を展開しています。これまでに当センターが行った調査結果の概略は、ホームページに掲載しています。

「ホームページ」 <http://www.chp.or.jp/danjio/research/>



◆ご記入にあたってのお願い◆

1. 宛名にあるご本人様がご記入ください。
ご本人様が回答できない場合は、お手数ですが、白紙のままご返送ください。
2. 令和2年8月1日現在の状況でお答えください。
3. ご回答は、あてはまる選択時の番号に○をつけてください。
質問によって、○が1つの場合と、複数の場合があります。
4. 質問文の指示にそってご記入ください。
5. ご記入後、同封の返信用封筒に入れて8月20日（木）までにポストにご投函ください。
差出人名、切手は不要です。

令和2年8月

調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

《お問い合わせ先》

千葉市男女共同参画センター 調査担当
〒200-0844
千葉市中央区千葉寺町1208-2 千葉市ハーモニープラザ内
電話：043-209-8771

あなたご自身のことについてお聞きします

F1. あなたの性別について、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1. 女性 (57.7)	2. 男性 (41.6)	3. その他 (0.2)
無回答 (0.6)		

F2. あなたの年齢（令和2年8月1日現在）にあてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1. 20歳代 (8.3)	2. 30歳代 (12.0)	3. 40歳代 (16.9)
4. 50歳代 (16.6)	5. 60歳代 (17.4)	6. 70歳代以上 (28.2)
無回答 (0.7)		

F3. あなたの就労状況について、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

※複数の就労状況にあてはまる方は、主なものを選んでも構いません。

1. 正規の社（職）員 (30.2)	2. 契約社（職）員（臨時・派遣を含む） (6.8)	3. 経営者・事業者 (3.2)
4. 自営業・家族従業者 (3.5)	5. 自由業 (0.3)	6. パート・アルバイト (13.4)
7. 内職・在宅ワーク (0.2)	8. 専業主婦・主夫 (18.9)	9. 学生 (2.1)
10. その他（具体的に： ） (1.7)	11. 無職 (18.8)	
無回答 (0.9)		

男女共同参画社会に関する意識についてお聞きします

問1. あなたは以下の言葉を知っていますか。A、Bそれぞれの事項について、あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	言葉も内容も知らない
A. 男女共同参画社会 ※1	37.1	37.9	23.8
B. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）※2	38.5	35.4	23.2
無回答 A (1.2)、B (2.8)			

※1 男女共同参画社会は、「すべての市民が、男女の別なく個人として尊重され、お互いに対等な立場であらゆる分野に参画する機会が確保され、責任を分かちあう」社会です。
（出典：千葉市男女共同参画ハーモニー条約前文）

※2 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会は、「国民一人ひとりがやりがいや成就感を感じながら働き、仕事上の責任を担い、ともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」です。
（出典：内閣府「ワーク・ライフ・バランス推進」）

【子どもがいる方におたずねいたします。（子どもがいない方は問11へ）】

問10. あなたの子どもの18歳になるまでの間に、配偶者から次のようなことをされたことがありますか。あてはまる番号を**1つずつ選んで**○をつけてください。

- 1. 心理的虐待 (4.6)
- 2. 身体的虐待 (2.9)
- 3. ネグレクト (0.4)
- 4. 性的虐待 (0.0)
- 5. わからぬ (4.5)
- 6. まったくない (57.5)

身体的虐待	なぐる、ける、叩く、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、長時間外に放置するなど	無回答 (32.4)
心理的虐待	言葉による脅し、無視、兄弟姉妹間の差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう、兄弟姉妹に虐待行為を行うなど	
ネグレクト	家に閉じ込め、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になるなど	
性的虐待	子どもへの性行為、性的行為を見せる、性器を触る又は触らせる、児童ポルノの被写体にするなど	

問11. 問8のような行為を受けたとき、そのような経験をしたことにより、あなたの心身状態や生活にはどのような影響がありましたか。あてはまる番号を**すべて選んで**○をつけてください。

- 1. 子どもや家族にあたるようになった (8.0)
- 2. けがをして医師の診療を受けた (受診した科：) (2.7)
- 3. 心身状態が不安定になり専門家の診療を受けるようになった (4.9)
- 4. 眠れなくなった (18.3)
- 5. 向にもする気がなくなった (18.3)
- 6. 仕事に行けなくなった (1.3)
- 7. 人に会うのが嫌になった (7.1)
- 8. 拒食・過食になった (7.6)
- 9. 酒に依存するようになった (5.8)
- 10. 衝動買い・浪費で気を紛らわすようになった (7.6)
- 11. 賭け事などにお金をつかうようになった (1.8)
- 12. 相手をひどく憎むようになった (20.5)
- 13. 離婚・別居した (12.9)
- 14. その他 (具体的に：) (6.3)
- 15. 特に影響はなかった (32.1)

無回答 (7.6)

問7. あなたには、配偶者やパートナーはいますか。あてはまる番号を**1つ選んで**○をつけてください。

- 1. 現在いる (76.4)
- 2. 過去にいたが、現在はいない (11.8)
- 3. 過去も現在もいない (8.6)

【問7で「1」または「2」に○をつけた方におたずねいたします。】

問8. あなたはこれまでに、配偶者やパートナーから次のようなことをされたことがありますか。AからEのそれぞれについて、あてはまる番号を**1つずつ選んで**○をつけてください。

	1、 2 度 あ っ た	何 度 も あ っ た	ま っ た く な い	無 回 答
A. なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど の身体に対する暴行を受けた (身体的暴力)	12.9	2.7	83.9	0.5
B. 人格を否定するような暴言、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた (精神的暴力)	11.0	5.2	83.2	0.6
C. いやがっているのに性的な行為を強要された (性的暴力)	6.5	1.9	91.0	0.6
D. お金の使い道を細かく報告させる、生活に必要なお金を渡さないなど の行為を受けた (経済的暴力)	3.5	3.0	92.7	0.8
E. 交友関係を細かく監視・制限する、電話やメールを細かくチェック するなどの行為を受けた (社会的暴力)	3.9	2.5	92.8	0.8

問9. 問8のような行為を受けたとき、あなたはどうしましたか。あてはまる番号を**すべて選んで**○をつけてください。

- 1. 何もしなかった・何もできなかった (16.1)
- 2. 言い返した、反撃した (53.6)
- 3. だだめて止めようとした (13.8)
- 4. その場から逃げようとした・逃げた (15.2)
- 5. 我慢した (58.5)
- 6. 口をきかなくなった (44.6)
- 7. 食事を別にした (7.1)
- 8. 助けを求めた (5.8)
- 9. 警察を呼んだ (3.1)
- 10. 離婚や別居を考えた (35.3)
- 11. その他 (具体的に：) (3.6)
- 12. 覚えていない (4.0)

無回答 (1.3)

問14. あなたはこれまでに、あなたの配偶者やパートナーから受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1. 感じたことがある (14.7)
 2. 感じたことはない (76.3)
- 無回答 (8.9)

【全員の方におたずねいたします。】

問15. 配偶者やパートナーから暴力を受けた人が、安心して生活するために必要なことは、何だと思えますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

1. 被害者のための相談体制を充実させる (66.4)
2. 被害を受けた方が、暴力の影響から回復できるように、精神的・心理的支援をする (61.9)
3. 暴力にさらされて育った子どものケアを行う (66.3)
4. 被害者のための相談機関の周知度を高める (52.3)
5. 被害者に対する、住宅や就労、子育てなどに関わる支援を充実させる (60.9)
6. 新しい生活準備が安全に安心してできるように、支援者が同行する等の体制を整える (45.4)

被害者支援について

加害者への対応

7. 加害者が相談できる専門の相談員を置く (38.3)
8. 加害者を対象として、暴力防止のための教育を行う (51.1)
9. 加害者への罰則を強化する (64.7)

支援者等の育成・支援等

10. 被害者をさらに傷つける等の不適切な対応をしないよう、支援に携わる行政関係者を育成する (56.2)
 11. 被害を早期発見できるように、警察や医療関係者、教職員、保育士等関係職員などに研修や啓発を行う (61.0)
 12. 被害者を支援する民間団体に対し、財政的な支援をする (44.5)
 13. 関連する法律や支援制度に関する情報提供を充実させる (44.9)
 14. 学校や大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う (53.6)
 15. 暴力の防止を目的とした研修会、イベントなどを行う (20.2)
 16. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる (32.0)
 17. その他（具体的に：) (3.5)
 18. 特に対応の必要はない (0.7)
- 無回答 (6.3)

問12. あなたは、配偶者やパートナーから受けたそのような行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。その対象としてあてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

1. 自分の親・親族 (25.9)
 2. 相手の親・親族 (7.6)
 3. 友人・知人、近所の人 (26.3)
 4. 職場の同僚 (6.3)
 5. 役所の相談窓口 (3.6)
 6. 民間の相談窓口 (1.3)
 7. 病院などの医療機関 (4.0)
 8. 警察 (1.8)
 9. その他（具体的に：) (4.0)
 10. どこ（誰）にも相談したり、打ち明けたりしたことはない (45.5)
- 無回答 (7.6)



【問12で「10」に○をつけた方におたずねいたします。（それ以外を選んだ方は問14へ）

問13. どこ（誰）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

1. どこ（誰）に相談してよいかわからなかったから (8.0)
 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから (20.0)
 3. 相談しても無駄だと思ったから (30.0)
 4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから (5.0)
 5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから (0.0)
 6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから (1.0)
 7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから (27.0)
 8. 世間体が悪いから (11.0)
 9. 他人を巻き込みたくなかったから (12.0)
 10. 他人に知られると、まわりの人（仕事や学校などの人間関係）とこれまで通りのつき合いができなくなると思ったから (6.0)
 11. そのことについて思い出しにくかったから (9.0)
 12. 自分にも悪いところがあると思ったから (34.0)
 13. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから (3.0)
 14. 相談するほどのことではないと思ったから (56.0)
 15. その他（具体的に：) (4.0)
- 無回答 (0.0)

問19. 配偶者やパートナー間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う (40.9)
2. 学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う (54.4)
3. 暴力の防止を目的とした研修会、イベントなどを行う (18.5)
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う (42.1)
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な窓口を増やす (65.7)
6. 被害を早期発見できるよう、警察や医療関係者、教職員、保育士等関係職員などに研修や啓発を行う (46.7)
7. 加害者を対象として、暴力防止のための教育を行う (33.3)
8. 加害者への罰則を強化する (56.4)
9. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を取り締まる (30.5)
10. その他（具体的に：) (32)
11. 特になし (1.9)

無回答 (4.2)

問20. 配偶者やパートナー間における暴力についての相談窓口などの情報提供は、ホームページでのお知らせのほか、チラシやカード、ステッカー、しおりなどを配布して行っています。どのような場所にチラシ等があればよいと思えますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

1. 公共施設（区役所、コミュニティセンター、公民館、図書館、男女共同参画センターなど） (66.7)
2. 産婦人科系医療機関 (36.5)
3. 小児科・小児歯科 (31.3)
4. 歯科 (15.1)
5. 2～4以外の医療機関 (22.6)
6. 千葉市の広報紙（「市政だより」など） (51.7)
7. ショッピングセンター、スーパーなどの商業施設のトイレや休憩スペース (59.9)
8. コンビニ、書店などの店舗 (39.8)
9. その他（具体的に：) (7.8)

無回答 (4.7)

問16. あなたは配偶者やパートナー間における暴力の問題に関心がありますか。あなたのお気持ちのうち最も近いものはどれですか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1. 自分や身近な人が被害を受けており（又は、過去に受けたことがあり）、他人事とは思えない (13.9)
2. 関連した書籍を読む、講演会に行くなど、とても関心がある (2.0)
3. 新聞やテレビなどで見たり、聞いたりして、関心がある (51.8)
4. これまで関心がなかったが、このアンケートを見て、関心がわいてきた (8.7)
5. どちらかというと関心がない (18.1)
6. 関心がない (4.2)

無回答 (4.4)

問17. あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

1. 言葉も、その内容も知っている (39.0)
2. 言葉があることは知っているが、内容はよく知らない (28.6)
3. 言葉があることを知らなかった (27.9)

無回答 (4.5)

問18. 配偶者やパートナー間における暴力に対する考えで、あなたのお考えに近いものはどれですか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。

1. どんな理由があろうと、暴力に訴えるのは許されないこと、被害者には落ち度はない (68.5)
2. 相手を愛しているからこそその行為だ (0.9)
3. 暴力をふるわれる側（被害者）にも、何か落ち度がある (18.5)
4. 配偶者やパートナーに暴力をふるわれるなど、恥ずかしいことだ (5.1)
5. 基本的には、夫婦・パートナー・恋人同士の間の問題で、当人同士で解決するべき (14.6)
6. その他（具体的に：) (7.9)
7. 特に考えはない (4.8)

無回答 (4.8)

自由記述

このアンケートは、男女共同参画社会の実現を目指し、豊かな市民生活を実現する施策を推進するために実施いたしました。アンケートによって、いやなこと、悲しいこと、つらいこと、思い出し、いやな思いをされた方もいらっしゃると思います。それらを含め、ご感想やご意見がありましたら、自由にお書きください。

質問は以上です。お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れて、8月20日（木）までにご投函をお願いします。

配偶者等における暴力に関する調査
調査結果報告書

○令和 3 年 3 月 発行
○発 行 千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
〒260-8722
千葉市中央区千葉港 1 番 1 号
電 話 043-245-5060

千葉市男女共同参画センター
(指定管理者) 公益財団法人千葉市文化振興財団
〒260-0844
千葉市中央区千葉寺町 1208 番地 2
電 話 043-209-8771